日仏保

仏教保育

4 Apr.

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

平成28年度を迎えるに当たって

第34回全国仏教保育福島大会に集いましょう

理事長　緑谷　一雄

すべての〝いのち〟が目覚め、いきいきと動き出す「春」。

今年も、送る子らへの成長を願い、迎える子らに温かい眼差しを注がれたことでしょう。

新年度のスタートは、つぼみが静かに開く解放感と新しいことに挑んでみたい躍動感が交錯する、そんな季節のように思います。

福島大会を成功させましょう

平成28年度は、全国大会開催年に当たります。本大会は昭和25年、当協会の理念である「生命尊重の実践と仏教に基づく保育」を掲げて、山梨（身延山）でスタート。以来、2年に一度仏教園の教諭と保育士が一堂に会し、研鑽し合うことを目的として実施してきました。34回目を迎える今回は、福島で開催いたします（7月30日～31日／ホテルハマツ・郡山市）。

ご高尚のように、福島は原発事故によって10万人以上の人たちが避難生活を強いられ、5年を経た今もなお子どもの将来を案じて避難先に留まるご家族もあるようです。しかも、放射能汚染の風評による被害では、住民の生活は困窮を極めました。復興への灯は未だ遠くに揺らいでいます。そうした多くの苦難の体験から「向き合う・寄り添う・支え合う」ことの必要さを痛感された福島支部の先生方が、被災地だから学べる生命尊重の真の保育を願って福島での大会開催を決意されました。

大会テーマ「合掌の姿に花は咲く」～被災地（ふくしま）で生命尊重の保育～を合言葉に、仏教園の教諭・保育士の皆さん、福島大会でお会いしましょう。

公益社団法人運営の重責に思う

社団法人日本仏教保育協会は、平成24年4月をもって公益社団法人日本仏教保育協会としての認可を得たことは周知の通りであります。過日、公益認可後初めての監査（3年に一度）が行われました。

経験された先生方もおられると思いますが、細部にわたる徹底した監査・精査にはいささかの疲れも覚えましたが、公益ならではの監査知識も会得でき、勉強させられました。公益社団として襟を正して運営に当たり、仏教保育の振興を司る重責を改めて痛感した次第です。今年度も先生方のご協力・ご支援を仰ぎながら、運営に努めてまいります。

菩提樹学園について

昭和52年、インド・ブッタガヤ印度山日本寺の付属施設として「菩提樹学園」が設立されて40年近くになります。インドにおける財務情勢は年々厳しく、諸物価高騰の影響を受け、菩提樹学園の運営も厳しい状況に置かれてきました。今後の現地での情勢・動向を見ながら、維持・運営について考慮していきたいと思っております。

日々是好日（にちにちこれこうにち）

4月を迎え、「日々是好日」で在りたいと誰もが願っていることでしょう。この言葉は『碧巌録』という書物に記された言葉で、「毎日が好い日である」という風に解釈しがちですが、ちょっと違うようです。毎日が好い日であればと願っても、現実は厳しい。『苦境の中にあろうと、自分自身にとって今日という日は二度と来ない。覚悟を持って懸命に生きよ』というのが本来の意味です。

明日の好日を目指して、今日という日を懸命に生きようでありませんか。

養成校連絡協議会

平成28年2月22日／芝パークホテル

テーマ

「仏教保育をいかに現代にいかすか」

―養成・就職・現場それぞれの立場で―

ここ数年、限られた時間をより有効的に活用するため、各養成機関の先生方から仏教保育に関わる講座の有無等について事前に情報を提出して頂き、その配布資料に基づいて質疑し、協議を進めました。今回もその要領で行い、養成校から8校・9名の先生が参加されました。日仏保側は7名、オブザーバーとして佐藤達全先生（育英短期大学教授）が参加しました。（養成機関の先生方のご芳名は次頁）

緑谷理事長

高山副理事長

高木常任理事

高輪常任理事

はじめに、緑谷理事長から「子ども・子育て支援新制度がスタートして間もなく1年が経とうとしていますが、未だにすっきり見えてきません。まあ、制度がどうあろうと幼児の教育や保育の主たる担い手はこれまでと変わるものではありません。ただ、教諭・保育士不足は進み、人材の確保がますます難しくなってきました。特に、認定こども園における教諭・保育士不足を補うために退職した小学校の先生も働けるように、職員の対象を拡大する方針を検討するという話も聞こえてきます。更に、国が設けた全国共通の『子育て支援員』は、資格のない人でも自治体が実施する研修を受けることで認定されるそうです。教諭・保育士の質の向上が叫ばれているだけに、気になるところです。話は変わりますが、最近『急須』を知らない若者が以外に多いそうです。お茶はペットボトルでしか飲んだことがないのでしょうか。また、関西などでいう『素うどん』の話をすると、どれくらいお酢を入れるのですか？と聞かれて唖然とした、という話も聞きました。学生たちを指導される先生方のご苦労が垣間見られる話題です。きょうは人材育成について忌憚のない実情をお聞かせ頂き、私どもへのご助言・ご提言をお願いしたいと思います」と挨拶がありました。

【各校の就職状況について（資料より）】

	幼稚園	保育所	認定こども園	その他
札幌大谷大学短期大学部	37.1%	41.6%	11.2%	10.9%
函館大谷短期大学	25.0%	53.9%	11.5%	9.6%
聖和学園短期大学	31.0%	60.0%	9.0%	0％
足利短期大学	33.3%	42.6%	7.4%	16.7%
聖徳大学	24.0%	51.0%	3.0%	22.0%
聖徳大学短期大学部	37.0%	50.0%	10.0%	3.0%
聖徳大学幼児教育専門学校	29.2%	43.1%	2.8%	25.0%
淑徳大学短期大学部	27.8%	58.1%	0.4%	9.8%
駒沢女子短期大学	40.0%	50.0%	2.5%	7.5%
こども教育宝仙大学	27.6%	50.6%	2.3%	16.1%
鶴見大学短期大学部	40.0%	49.0%	5.0%	3.0%
常葉大学短期大学部	19.5%	62.7%	9.4%	5.3%
愛知文教女子短期大学	19.5%	73.5%	3.1%	3.9%
岐阜聖徳学園大学短期大学部	29.5%	38.7%	0.6%	27.0%
飯田女子短期大学	0.0%	34.0%	0.0%	30.0%
大谷大学短期大学部	30.5%	54.1%	5.5%	9.7%
龍谷大学短期大学部	22.0%	33.0%	4.0%	41.0%
華頂短期大学	18.9%	64.5%	4.1%	12.5%
京都文教短期大学	15.7%	65.5%	3.8%	15.0%
佛教大学	0.8%	2.9%	0.0%	6.4%
京都西山短期大学	12.0%	59.0%	4.0%	23.0%
九州龍谷短期大学	11.1%	59.3%	25.9%	3.7%
東九州短期大学	13.0%	60.0%	19.0%	8.0%

（＊ 32 校中、22 校が回答。就職先の『その他』は、公立幼保・養護施設・福祉施設一般企業等）

続いて司会・進行を務める髙木研究常任理事が挨拶。引き続いて、順次全員の自己紹介が行われてから協議に移りました。

【学生の仏教園に対するイメージについて】（回答から抜粋）

●園の方針や保育、子どもの姿を重視しており、特に仏教園であることにこだわりはないと思われる。

●仏教の信仰を求められるのではないかと思ってしまう学生もいて、仏教保育を知らない学生も多い。就職している学生は仏教保育という先入観なく、幼稚園・保育園として見ている様子。

●特別なイメージを持っていないようだ。多数ではないが、毎年必ず仏教園への就職者がいる。

●大学に隣接する幼稚園で、初年時から体験学習や教育実習をしていることから、一定のイメージは持っており、特にこだわりはないと思われる。

●好意的に捉え、実習を通して状況を理解している。就職は通勤時間を考慮することが多い。

●在学中に仏教行事（花まつり、報恩講）等や、「人間学」の講義を体験していることから、仏教園に対しての理解はあり、積極的に就職している。

●概ね良いイメージ。仏教園にも毎年就職しており、園の雰囲気、保育の魅力、職員方の関係の良さから「就職したい」ということに繋がっている。

●高校からの進学者は特に、自分の教育環境を長所と捉えて、仏教園に就職を希望する。

●仏教保育のねらいがはっきりしている、日常なじみのある仏教行事が行われることなど、親しみと明るいイメージを持っている様子。

●仏教歌等を覚えたり、ピアノで弾くことを不安に思う学生も数名いるが、仏教系の学校であることからその理由だけで避けることはない。

●特に宗教がらみの園であることがプラスにもマイナスにも作用していない。

●「仏教の生命観」受講生は、仏教保育の理念を理解し、生命尊重の保育への憧れをもっている。

●仏教の教えを尊重した保育を展開している、本堂にお参りするなど行事を通じて礼儀作法についてきちんと教えている。

●食前、食後のことばや、感謝の心を持って日々を過ごす保育であるイメージを持っている。

●仏教の教えをもとにした保育を学んでいる。正直で思いやりがあり、情操豊かな保育をイメージしていると考える。

●実習先としてお世話になっていて好印象の園が多い。その後の就職に繋がる場合が多い。

●実習園が仏教園であっても特に違和感はないようだ。

【仏教保育に関わる講座について】（26校中16校が「仏教保育」に関わる講座を行っていると回答）

以下、講座の抜粋です。

●「仏教保育論」＝日仏保のガイドラインに沿い、利他の精神に立って仏教保育の原理と実践展開の方法・習得を展開している。

●「仏教学概論」＝〝いのちの保育〟について理解を求める指導を行っている。

●「美しく生きる」＝親鸞聖人の教え、子どもとともに育ち合う姿勢。

●「仏教の思想」＝仏教の思想を学ぶことを通して自己を振り返り、幅広いものの見方、心の豊かさを育てることを目的としている。

●「仏教入門」＝真宗の教えを通して人間と人間の生きる社会を見抜く眼を涵養することを目的としている。

●「仏教保育表現」＝仏教経典に出てくる様々な物語を分かりやすく説いた教えを読んで、我が身に照らし合わせて多くのことを学ぶ。

●「仏教賛歌と作法」＝仏教系の幼稚園・保育所に就職を希望する学生が少なくとも身に着けてもらいたい仏教保育の作法の習得を目指している。

【学校が仏教園に対して求めていること、連携方法などについて】

●就職はもとより、実習などでも引き続き学生の指導に協力願いたい。

●教育・保育実習において、密接な連携を図っていきたい。就職に際しても連携を取りながら情報交換していきたい。

●仏教園の現場の状況をより教学内容に反映させたいと考えている。

●単に仏教行事を重ねるのではなく保育者自身がその深義を理解し、仏教の教えが子どもたちの精神的な支えや指標になってくれることを望みたい。

●子どもの貧困問題、あるいは親の余裕のない就労状況が大きな問題になっている。そうした家庭への見守りの場としても、幼稚園・保育所がその役割を果たされることを期待したい。

◇　◇

この他にも多くの意見、提案が出され、熱の入った協議が展開されました。協議会終了後は別室に用意された会場で和やかに懇親風景が交わされました。

（以　上）

◆養成機関出席者（順不同・敬称略）

聖徳大学短期大学部	キャリア支援課主査　菱川　晃世
淑徳大学短期大学部	准教授　佐藤　純子
淑徳大学短期大学部	キャリア支援室職員　井上　秀克
こども教育宝仙大学	こども教育学部長　松原　豊
鶴見大学短期大学部	教　授　上田　衛
京都華頂大学・華頂短期大学	幼児教育学科長　丸田まゆみ
京都文教短期大学	教　授　安藤　和彦
兵庫大学短期大学部	講　師　澤田　真弓
九州龍谷短期大学	保育学科長　水頭　順子

◆日本仏教保育協会出席者（敬称略）

緑谷一雄	理　事　長　みどり幼稚園理事長
髙山久照	副理事長　寿福寺幼稚園理事長
髙輪真澄	常任理事（総務）　光輪幼稚園園長
髙木正尊	常任理事（研究）　成田保育園園長
秋山秀阿	財務部長　光徳保育園園長
堀江秀典	事務局次長　西小松川保育園園長
樋口威道	総務部長　今泉保育園園長
佐藤達全	育英短期大学教授

「第34回全国仏教保育福島大会」（7月30日・31日）に向けて!!

今夏7月30日・31日開催の「第34回全国仏教保育福島大会」実行委員会（吉岡棟憲大会実行委員長）は3月23日、スタッフの先生方を招集し大会運営に伴う〝詰め〟の打ち合わせを行いました。

全国の幼稚園、保育所、認定こども園の教諭・保育士はじめ、大勢の皆さんが、「福島大会にきて良かった。素晴らしい大会だった」と感動して頂ける大会にしたいとの思いで、スタッフ全員が一丸となってこれまで準備を進めてこられました。大会まで残すところ4か月。それぞれが所管する部門の細部について慎重・真剣に意見交換をしながら、討議が続けられました。

大会要領等については今後、本誌『仏教保育』で詳細をお伝えしていきたいと思います。

福島大会成功への「鍵」は、一人でも多くの先生が参加することにあります。皆さん、福島でお会いしましょう！

送り先　公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105－0011　東京都港区芝公園4－7－4
TEL03（3431）7475　FAX03（3431）1519

募集要項

第19回 持田賞

1. 趣旨
当協会の理論的指導者・故持田栄一東大教授の業績を偲び、仏教保育の理論及び実践に関する優れた研究を顕彰し、もって仏教保育の振興充実に資する。

2. 対象
当協会加盟の幼稚園・保育所の教職員または仏教保育研究者。共同研究・個人研究。

3. 内容
①将来を展望した幼児教育に関する研究
②生命尊重の保育に関する研究
③保育制度対策に関する提言
④その他

4. 応募要領
①400字詰め原稿用紙10枚か15枚程度。原稿に団体名（または施設名）所在地、電話番号、代表者（または個人）氏名を記入した応募票を添付する。
②締切り　平成28年5月末日

第14回 古屋賞

1. 趣旨
元理事長・古屋道雄先生の、戦後における日仏保再発足とその整備拡充に尽くされた業績を偲び、各地域支部並びに団体、個人の幼児保育に関する実践的な研究活動及び運営について功績が認められる者を顕彰し、もってわが国における仏教保育の振興、支部活動の活性化を図る。

2. 対象
当協会加盟の支部または会員及び仏教保育を研究推進する団体。

3. 応募要領
①推進活動を記録集文した原稿、実績資料を提出。資料に団体名（代表名または個人名）所在地、電話番号を添付する。
②締切り　平成28年5月末日

第8回 仏教保育精励賞

「仏教保育精励賞」は、保育の現場において仏教保育に功労のあった保育者を顕彰するもので、隔年ごとに開催する全国仏教保育大会・全体会（式典）で授与します。この賞は平成14年に設定し、これまで58名が受賞されています。来夏開催の「第34回全国仏教保育福島大会」においても「仏教保育精励賞」の対象となる保育者を募集しています。

1. 対象
保育現場において仏教保育に功労のあった保育者

2. 応募要領
①申請の際は日仏保事務局にご連絡下さい。申請用紙を送付いたします。申請用紙に必要事項を記入の上、申請料を添え、現金書留にて送付下さい。
②申請料　2万円
③締切り　平成28年6月末日

日本仏教保育協会賞受賞者の方々 (敬称略)

ご就職おめでとうございます!!

「日仏保協会賞」は、仏教系保育者養成機関において仏教保育者としての専門性を磨き、仏教保育者の道を目指す卒業生を称え、今後の保育実践の充実を期待して表彰するものです。

◆加藤 葉月（函館大谷短期大学・北海道）
就職＝学校法人函館大谷学園・北海道

◆加藤 裕奈（札幌大谷大学短期大学部・北海道）
就職＝帯広東幼稚園・北海道

◆佐々木 莉子（帯広大谷短期大学・北海道）
就職＝社会福祉法人大谷菩提樹会・北海道

◆白鳥 杏奈（聖和学園短期大学・宮城県）
就職＝高森サーラ保育園・宮城県

◆渡邉 明日香（足利短期大学・栃木県）
就職＝足利短期大学附属幼稚園・栃木県

◆椿 美保奈（立正大学社会福祉学部・埼玉県）
就職＝妙厳寺幼稚園・埼玉県

◆大川 友希（聖徳大学・千葉県）
就職＝平泉幼稚園・茨城県

◆蓬田 有里（聖徳大学短期大学部第一部・千葉県）
就職＝明聖第一幼稚園・東京都

◆千住 聡実（聖徳大学短期大学部第二部・千葉県）
就職＝なかよしの森保育園・東京都

◆井苅 有希（こども教育宝仙大学・東京都）
就職＝東光寺幼稚園・東京都

◆鈴木 瑠奈（聖徳大学幼児教育専門学校・東京都）
就職＝台東初音幼稚園・東京都

◆直井 春菜（淑徳大学短期大学部・東京都）
就職＝たちばな幼稚園・埼玉県

◆須田 涼子（駒沢女子短期大学・東京都）
就職＝まや保育園・東京都

◆神谷 純花（武蔵野大学・東京都）
就職＝豊里もみじこども園・茨城県

◆清水 みさき（鶴見大学短期大学部・神奈川県）
就職＝こうりんじ幼稚園・神奈川県

◆荻野 真帆（常葉大学短期大学部・静岡県）
就職＝青島こども園・静岡県

◆虫賀 香恵（愛知文教女子短期大学・愛知県）
就職＝今伊勢真光幼稚園・愛知県

◆福井 彩乃（岐阜聖徳学園大学短期大学部・岐阜県）
就職＝杉山学園・岐阜県

◆加藤 怜奈（飯田女子短期大学・長野県）
就職＝上郷なかよし保育園・長野県

◆服部 綾美（高田短期大学・三重県）
就職＝石薬師保育園・三重県

◆貫井 未来（京都西山短期大学・京都府）
就職＝洛西花園幼稚園（京都府）

◆杉本 志織（大谷大学短期大学部・京都府）
就職＝大谷幼稚園・京都府

◆多田 咲月（京都文教短期大学・京都府）
就職＝あさひ保育園・滋賀県

◆大野 真穂（龍谷大学短期大学部・京都府）
就職＝洛西花園幼稚園・京都府

◆田月 歩乃香（京都女子大学・京都府）
就職＝嵯峨学園・京都府

◆萬木 愛子（佛教大学・京都府）
就職＝蜂ケ岡保育園・京都府

◆出井 清佳（京都華頂大学・京都府）
就職＝たぶせ保育園・山口県

◆中野 瑞希（華頂短期大学・京都府）
就職＝向陽幼稚園・京都府

◆武田　萌（四天王寺大学短期大学部・大阪府）
就職＝四天王寺悲田院保育園・大阪府

◆藤田 結衣（兵庫大学短期大学部・兵庫県）
就職＝兵庫大学附属須磨幼稚園・兵庫県

◆上野 千弥（筑紫女学園大学・福岡県）
就職＝大谷幼稚園・こども園（福岡県）

◆矢ヶ部 友里菜（筑紫女学園大学短期大学部・福岡県）
就職＝柳川幼稚園・福岡県

◆牧口 千音美（九州龍谷短期大学・佐賀県）
就職＝龍谷こども園・佐賀県

◆市頭 知依（東九州短期大学・大分県）
就職＝金屋保育園・大分県

花まつり

次号へつづく

（敬称略）

みどり幼稚園
日仏保理事長・園長　緑谷　一雄
〒272・0813　千葉県市川市中山3・10・4
電話047・334・1224

社福いまいずみ 鵜の木いまいずみ保育園
日仏保運営審議委員・園理事長・園長　樋口威道　樋口明道
〒146・0084　東京都大田区南久が原2・30・5
電話03・3756・0505

光輪幼稚園
日仏保常任理事・園理事長・園長　髙輪　真澄
〒144・0047　東京都大田区萩中1・12・7
電話03・3732・8781

今泉保育園
日仏保運営審議委員・園長　樋口　威道
〒146・0093　東京都大田区矢口2・26・17
電話03・3758・0074

自然幼稚園
園理事長・園長　北村　隆信　木藤　尚子
〒616・8161　京都市右京区太秦東峰岡町5
電話075・881・0206

こまどり幼稚園
園長　永見　俊光
〒164・0013　東京都中野区弥生町4・12・1
電話03・5328・2434

つわぶき園
園長　北川多嘉子
〒615・0882　京都市右京区西京極葛野町4
電話075・313・3663

認定こども園 あずま幼稚園
日仏保理事長・園長　丹羽　義昭
〒340・0032　埼玉県草加市遊馬町430
電話048・925・1741

建明寺学園 水上わかくりこども園
日仏保監事・園理事長・園長　堪山　泰学　堪山　泰賢
〒379・1617　群馬県利根郡みなかみ町湯原985
電話0278・72・4120

松尾幼稚園
日仏保副理事長・副園長　日野　昭文
〒615・8296　京都市西京区松室山添町6
電話075・381・2591

社福・多善会 北港学園保育所
日仏保参務・園理事長　神谷　周道
〒554・0051　大阪市此花区西島3・26・11
電話06・6461・7848

兵庫県仏教保育協会
日仏保理事長・会長　井藤　圭湍
〒652・0032　神戸市兵庫区荒田町3・17・1
電話078・511・0167

神田寺幼稚園
日仏保運営審議委員・園理事長　友松　浩志
〒101・0021　東京都千代田区外神田3・4・10
電話03・3251・8685

新潟中央幼稚園
日仏保理事・園長　今湊　良敬
〒951・8061　新潟市中央区西堀7・1558
電話025・228・5866

学・光明学院 伊勢原ひかり幼稚園
園長　佐伯　妙有
〒259・1133　神奈川県伊勢原市東大竹1377
電話0463・92・8882

パドマ幼稚園
日仏保理事・園長　金子　英滋
〒380・0847　長野市若松町1028
電話026・234・5858

社会福祉法人 だん王保育園
園長　信ケ原千恵子
〒607・8387　京都市左京区川端通三条上ル法林寺門前町36　電話075・761・2211

社会福祉法人 だん王夜間保育園
園長　信ケ原雅文
〒607・8387　京都市左京区川端通三条上ル法林寺門前町36　電話075・761・2211

幼保連携型認定こども園 平泉幼稚園
日仏保参務・園理事長　岩堀　法道
〒314・0146　茨城県神栖市平泉2769
電話0299・92・3184

野田生こばと保育園
園長　菅原　諭貴
〒049・2672　北海道二海郡八雲町野田生160・11
電話01377・6・2527

高安寺保育園
園長　小澤　宏
〒183・0021　東京都府中市片町2・4・1
電話042・364・7651

杉の子保育園
園長　豊田　千恵
〒274・0814　千葉県船橋市新高根3・8・1
電話047・465・2336

幼保連携型認定こども園 弘前大谷幼稚園
園理事長　藤野　和子
〒036・8214　青森県弘前市新寺町156・2
電話0172・32・3309

初山幼稚園
園長　町田　順文
〒216・0026　川崎市宮前区初山1・2・1
電話044・977・5671

寿福寺幼稚園
日仏保副理事長・園理事長　髙山　久照
〒179・0074　東京都練馬区春日町3・14・24
電話03・3999・8739

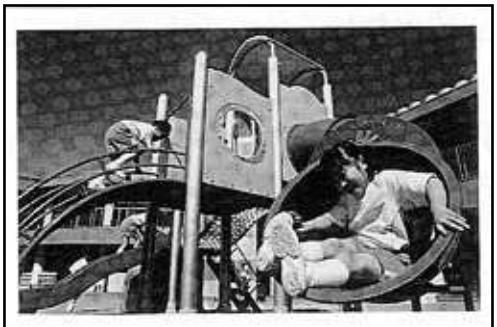
建中寺幼稚園
日仏保運営審議委員・愛知県仏保顧問・園長　村上　真瑞
〒461・0003　名古屋市東区筒井1・7・52
電話052・935・2172

長昌寺保育園
園長　栗木久美子
〒371・0026　群馬県前橋市大手町1・3・5
電話027・224・7888

社会福祉法人 よしの保育園
園理事長　増澤　秀丸
〒198・0064　東京都青梅市柚木町2・312・1
電話0428・76・0809

学・高西寺学園 多摩みゆき幼稚園
日仏保参務・園理事長　関岡　俊二
〒206・0021　東京都多摩市連光寺2・24・6
電話042・374・6040

学・清谷学園 日野わかくさ幼稚園
日仏保運営審議委員・園長　清水　博雅
〒191・0034　東京都日野市落川943
電話042・591・1688



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

「理事会・運営審議委員会・社員総会・仏教保育研修会」開催のお知らせ

第12回 理事会・第9回 運営審議委員会

日　時＝平成28年5月16日(月)
会　場＝大本山増上寺 増上寺会館《松の間・杉の間》

第5回社員総会

日　時＝平成28年6月1日（水）／午後2時～4時
会　場＝大本山増上寺 光摂殿
（＊社員の皆様には、別途ご案内をお送りします）

平成28年度 第1回仏教保育研修会

日　時＝平成28年6月1日（水）／午後4時～5時30分
会　場＝大本山増上寺 光摂殿
テーマ＝「魅力ある仏教保育者を育てるために」
講　師＝山﨑 啓二郎 先生
（キャノン株式会社顧問・法政大学専門職大学院客員教授）

＊「緊張感」と「信頼感」がバランスすることで〝やる気〟と〝知恵〟を出させ自らの役割を認識させる。「緊張感」とは切磋琢磨、「信頼感」とは人間尊重、機会の平等と結果の公平・公正である、と説かれる先生の講座は楽しみです。

東京仏教保育協会（安藤文隆委員長）は平成28年3月30日、宝仙寺（東京・中野）を会場に、新任教諭・保育士を対象とした「仏教保育研修会」を開催し、日仏保・緑谷一雄理事長から祝辞が述べられました。研修会の模様は、本誌『仏教保育』5月号で要旨を掲載します。

訃報

古野 陽三郎 先生（享年87歳）

（元 公益社団法人日本仏教保育協会顧問弁護士）

当協会の元顧問弁護士・古野陽三郎先生が平成28年1月27日、入院先の病院で逝去されました。享年87歳でした。

先生は、昭和4年（1929）生まれ。昭和4年は日本仏教保育協会発足の年でもあります。長年当協会の顧問弁護士を務められ、仏教を理念とする保育団体としての運営に伴う諸問題にも大いに手腕を発揮、仏教保育の振興に貢献されました。

茲に、先生の生前におけるご功績を称えると共に、心からご冥福をお祈り申し上げます。

（合　掌）

上村 勇雄 先生（享年58歳）

（ほぜんじ幼稚園園長・東京都中野区）

上村先生はかねてより療養・治療中でしたが薬石効なく、4月1日に遷化されました。享年58歳でした。

先生は当協会の元理事長・上村映雄先生急逝の後を受け園長に就任、園運営を司ってこられました。

他方、当協会発刊の『仏教保育カリキュラム』編集委員、並びに「教材開発委員」としても長年にわたって企画・開発に尽くされました。まだまだ先生に負うところ大きく、早世が惜しまれてなりません。

茲に、生前の労を称え、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（合　掌）

公益社団法人　日本仏教保育協会
理事長　緑谷 一雄
社員 一同

ちょっと気になる
『手書き漢字』の指針

文化庁の文化審議会国語分科会が「手書き」の漢字について指針をまとめました。「とめ・はね」などの細部に違いがあっても、骨組みが同じであれば誤字とはみなさないとして、手書き漢字の例を同庁のホームページで公表しました。パソコンの普及で印刷文字の字形だけが正しいと誤解されるなど、手書き漢字の正誤について混乱が生じると判断したためだそうです。

小子も、漢字の書き取りテストで「とめ・はね」に悔しい思いをした昔を思い起こしながら、文化庁のホームページを開いてみました。

例えば、「天」という字の上下の横線は同じでも下が長くても正しいとする。「荘」という字を構成する「土」の部分も「土」「土」どちらも正しい。但し「士」や「土」とか「未」「末」のような単独漢字の場合は、横線の長短が逆だったり同じ長さだったりすると骨組みが崩れて区別ができないから誤りとする、といった具合にたくさんの事例が並べられていました。

子どもの頃に習い覚えた記憶は今も刻み込まれていて、忘れるものではありません。今回の指針は、字形幅を広くして手書き文字の多様さを知ってもらうことが狙いだと言いますが、小子には戸惑いを感じて即、頷ける気にはなれません。

漢字の成り立ちには奥深い意味が込められている字も少なくありません。「日本の漢字」の行く末がちょっと気になる公表でした。

事務局日誌

3／8　「仏カリ」「仏教保育」編集会議
　　事務局会議
　　「ほとけの子」編集会議

編集後記

■わが園で育て成長した子どもを送り出し、新園児を迎える準備に忙殺されるのがこの時期。送る寂しさと迎える嬉しさが交錯するシーズンだと、園長先生たちは言います■子ども・子育て支援新制度がスタートして1年が経過しようとしています。新制度の柱の一つは「認定こども園の推進」です。認定こども園は平成18年にスタートし、平成11年4月時点では762施設でしたが、平成15年4月には2836施設に増え、その後も増えているようです。「幼保連携型」「幼稚園型」「保育所型」「地方裁量型」の四つに分類され、保護者のニーズに応えていることは周知のとおりです■安倍内閣が掲げる「待機児童ゼロ」に向けて施設側も呼応してはいますが、保育士が足りません。これまでは保育士や保育教諭に限られていましたが、政府はこのほど退職した小学校教諭や養護教諭たちも働けるよう職員の対象を拡大する方針を固めました。児童を教育したノウハウがこども園での保育や教育にも応用できると判断したからです。国が設けた全国共通の認定制度である「子育て支援員」もこども園で働けるようにするため資格を持たない人でも研修を受けることで認定されるというものです■助っ人を求めたい状況は分かりますが、目先の付け焼刃で大丈夫でしょうか。春に寂しさと喜びが味わえる保育ができるのでしょうか。（O・I）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島 満
毎月1回1日発行（1部315円）

仏教保育綱領

慈心不殺　生命尊重の保育を行なおう
仏道成就　正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進　よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう(12場面)○四つの門(13場面)○おさとり(16場面)○ねはん(12場面)
セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600)※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。

ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612(保育営業部) FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

日仏保

仏教保育

5 May

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

第34回 全国仏教保育福島大会への誘い（いざない）

大会実行委員長　吉岡 棟憲（福島ルンビニー幼稚園）

二本松ちょうちん祭りとお囃子

会津白虎隊の剣舞

フラガールのハワイアン踊り

第34回全国仏教保育福島大会の開催日、7月30日が近づいてきました。この大会は東日本大震災や原発事故で被災した福島県が実行委員会を組織し担当いたしますが、大会概要につきましては4月上旬に加盟全園に送付しました大会案内の通りです。

私たち福島県仏教保育協会は結成して未だ日が浅く、また加盟園も14園と少数ですが、隣県の宮城県、栃木県の仏保協より全面的な支援と指導をいただき、一致結束受け入れの準備を進めています。

準備の中で一番のポイントはいかに福島らしさを出せるかにありますが、全国的に知名度の低い県なので初めて来県する方も多いと予想し、研修内容はもちろんのこと、開会法要や式典、懇親会、フィールドワークなどに「らしさ」を出そうとアイデアを練っています。

原発事故被災地を廻るバスツアーが今回一番の目玉です。テレビや写真で何度か目にした非難区域の現状は、現地へ行かなければ絶対に判りません。誰も住まなくなった集落や所狭しと置かれているフレコンバックの山、生命尊重の原点を垣間見る風景を今回の研修を通して是非目にしてほしいと願っています。被爆の心配は皆無ですので安心して参加してください。

懇親会では、フルーツ王国ふくしまのくだものや夏野菜、今もっとも人気を集めている福島の地酒を堪能していただく他、福島が誇る芸能、フラガールのハワイアン踊り、会津白虎隊の剣舞、二本松ちょうちん祭りのお囃子なども披露する予定です。

私たちはこの大会を通して、小さな団体であっても、経費を多くかけなくとも、記憶に残る素晴らしい大会であったとの評価をいただけるよう最善の準備を進めています。

大会中では大震災のあと誰もが口にして、また「花は咲く」の曲を何度も皆さんと歌いたいと思います。〝合掌の姿に花は咲く〟の大会テーマの如く、私たちは微笑みとまごころですべての人をお迎えいたしますので、多数のご参加を心よりお願いいたします。

分科会テーマと研究課題

第1分科会（仏教保育）　定員50名

生命尊重の保育を学ぶ

何気なく使っている「生命尊重」という言葉、日々の保育における「いのち」について考える。

講師　安藤 和彦（京都文教短期大学幼児教育学科教授）

・日本仏教社会事業史に関する研究
・児童の福祉教育と社会的風土に関する研究
・日本乳幼児教育学会理事

第2分科会（仏教行事）　定員50名

日常の保育の中の仏教の教えとは

仏教保育の中の教えを知って、普段の保育に仏教的感性を生かそう。

講師　戸田 了達（妙福寺保育園園長）

私たちはすべての子を「ほとけの子」と考えています。明るくのびのびと、助け合う心を忘れずに、いつも何事にも感謝の気持ちを持てる子になって欲しい。それが子どもたちへの願いです。

講師　冨岡 量秀（大谷大学短期大学部准教授）

真宗保育（真宗に立った保育）は子どもたち一人ひとりが等しく輝き、人生を豊かで意義あるものとして生き切ってほしいと願い、その人生の歩み支える、本当の「生きる力」の獲得の原風景となることをめざす保育実践です。

第3分科会（新制度）　定員50名

新制度で仏教保育を生かすには

いよいよスタートした子ども子育ての新制度。今後の仏教保育にこのシステムをいかに生かすかを考える。

講師　若盛 正城（認定こども園こどものもり園長）

お母さんたちの間で「今一番通わせたい！」と話題の幼保連携型認定こども園「こどものもり」。海外視察を繰り返し、独自の教育理念・手法を確立。その教育システムは文部科学省・厚生労働省・国際的機関からも注目を集め見学者は後を絶たない。

・元内閣府「子ども・子育て新システム検討会議」委員

第4分科会（人間関係）　定員50名

「生きる力」「物語る力」を育てる

生きづらさが増し、対立点の表面化を避ける・無関心を装う傾向が強まっている。今こそ、物語る力・自己肯定感・レジリエンス（逆境から立ち上がる力）・主体的に生きる力を育みたい。

講師　吉田 博子（京都華頂大学教授）

・お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程修了、文学博士
・東京都板橋区男女共同参画課子ども家庭支援センター「子育て支援者養成システム検討会」委員
・所属　日本教育カウンセリング学会　仏教教育学会
・研究業績　論文「みのりある教育実習のために～幼稚園教育実習の手引き」共著

第5分科会（食育）　定員50名

子どもの食から学ぶ「いのち」を生かす保育

食事から学ぶ「いのち」は仏教保育の原点。幼児にわかりやすく指導するための保育のあり方を学ぶ。

講師　佐藤 達全（育英短期大学教授）

・研究活動テーマ
人の一生における乳幼児期の意味、食べ方と人の生き方の関係、生命尊重教育、インドの幼稚園との交流等を中心に教育と研究を行っている。

第6分科会（特別支援）　定員50名

障がい児に対する指導と支援

保育現場における、知的障がい児、及び発達障がい児への指導と支援について学ぶ。

講師　阿部 芳久（東北福祉大学教授）

・東北大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）
・研究分野　知的障害教育指導法　自閉症教育指導法　発達障害児教育指導法
主として知的障害教育、自閉症教育、発達障害児教育における学校教育現場の指導法に関する研究を行っている。

第7分科会（音楽）　定員50名

保育に生かそう仏教讃歌

仏教讃歌に込められた思いや願いを知り、日常の保育に生かすことを学ぶ。

講師　伊藤　繁（武蔵野大学教授）

・伊藤先生のお父様はオルガニストであり仏教讃歌の作曲家で「三帰依」や「さんだんのうた」などを手がけられた伊藤完夫先生です。そのお父様から幼少の頃より厳しくオルガンの手ほどきを受けられました。現在は武蔵野大学の教授として音楽と宗教の結びつきについて教えていらっしゃいます。

・研究領域　音楽　パイプオルガン奏法

第8分科会（造形）　定員50名

造形の楽しさと知っておくべきこと

子どもは遊びの天才。同時にもの作りの発明王。造形の楽しさを教えるための方法とは。

講師　鮫島良一（鶴見大学短期大学部講師）

・東海大学教養学部芸術学科卒　彫刻家

大学時代から幼稚園や保育園で子どもの造形に関わり、現在は大学等で子どもの造形に理解ある保育者の育成に力を入れている。

・日本社会事業大学福祉援助学科・昭和女子大学初等教育科非常勤講師・明福寺ルンビニー学園造形講師

第9分科会（2歳児保育）定員60名

2歳児保育の意味と実際

満3歳児入園では遅すぎる。今や2歳児確保に奔走。2歳児保育の在り方を考える。

講師　守　巧（東京家政大学講師）

・研究分野　乳幼児の発達支援、巡回相談、気になる子どもの保育的実践研究

・特別な配慮を要する子どもの実態調査

第10分科会（防災と危機管理）定員50名

東日本大震災で学んだ危機管理と復興

大震災で起きた幼稚園・保育園の園内での実例から防災の重要性と危機管理を学ぶ。

講師　小田隆史（宮城教育大学特任准教授）

・所属　教育復興支援センター

専門　地理学、地域研究、防災教育、災害復興教育

平成24年、お茶の水女子大学東日本大震災被災地支援プロジェクトチーム構成員

第11分科会（特別企画）現地研修　定員100名

原発事故被災地フィールドワークバスツアー

東日本大震災から5年。原発事故により未だ帰還できない故郷を追われた人達がいます。今回はその地域を視察し、生命の尊厳について学びます。

原発事故現場より20㎞離れた訪問地飯館村は、その全域の放射線量が年間20ミリシーベルトに達する恐れがあるとする「計画的非難区域」に指定され、全住民、約5000人は自主避難（全村避難）を余儀なくされ、現在も帰還できない状況にある。

震災から5年が過ぎ、連日6000名を超える除染作業員の努力によって、次第に放射線量は下がり、国の避難指示が平成29年3月までに解除されるという見込みが示されたが、不安な日々が続いている。

緑豊かで平穏な暮らしをしていた村民が、一瞬にして故郷を失った悲しみは筆舌に尽くしがたい。

今回のフィールドワークバスツアーはこの飯館村を車窓から眺め、著名な講師からの話を車中でお聞きしますので、この機会に是非被災の現地を視察し、生命とは何かを学んでほしいと願っての特別な企画です。

この原発事故被災地フィールドワークバスツアーに多数ご参加いただき「被災地・福島」の現実を認識してくださることを願ってご案内とさせていただきます。

講師　長谷川健一（飯館村酪農家）

松本静男（双葉郡葛尾村議会議員）

菅野精一（川俣町議会議員）

※第11分科会は、別途料金が発生します。お一人様3000円（バス代、高速料を含みます）バスガイドは乗車いたしませんが添乗員が同行いたします。

宿泊のご案内

大会会場（ホテルハマツ）に徒歩10～15分範囲のホテルです。

ホテルハマツ	郡山駅～徒歩15分
郡山ビューホテルアネックス	ホテルハマツ～徒歩10分
郡山ビューホテル	ホテルハマツ～徒歩13分
ホテルプリシード郡山	ホテルハマツ～徒歩11分
チサンホテル郡山	ホテルハマツ～徒歩15分
ワシントンホテル郡山	ホテルハマツ～徒歩10分
ホテルクラウンヒルズ郡山	ホテルハマツ～徒歩10分
ホテルロイヤル郡山	ホテルハマツ～徒歩10分
スターホテル郡山	ホテルハマツ～徒歩13分

平成27年度 生命尊重（いかせ いのち）協賛園

北海道

瑞祥幼稚園　一一、二七五円
帯広幼稚園　九、二五二円
滝川幼稚園　二五、九五七円
小樽幼稚園　一〇、五〇〇円
もなみ幼稚園　三、一七二円
第二もなみ幼稚園　八、〇〇〇円
大谷オアシス保育園　四、〇〇〇円
朝里幼稚園　一二、四〇〇円
桂　幼稚園　四、九五六円
ルンビニー保育園　三、〇〇〇円
つくしヶ丘幼稚園　七、〇八九円
みどり幼稚園　一二、七八一円
札幌大谷第二幼稚園　一五、二七〇円
花園大谷幼稚園　一〇、五〇七円
函館大谷幼稚園　一〇、〇〇〇円
潮見幼稚園　二、九二八円
国の華幼稚園　一四、〇〇二円

青　森

青森大谷幼稚園　一〇、〇〇〇円
明照保育園　六、七〇〇円
平賀保育園　八、五四七円

岩　手

正福寺幼稚園　二一、〇〇〇円

宮　城

中新田幼稚園　五、〇〇〇円
東盛マイトリー園　四、五三七円
古城幼稚園　二、九四一円
若林幼稚園　二、六五九円
和光幼稚園　四、五五〇円
東仙台幼稚園　三三、〇一二円
東盛幼稚園　二六、〇五〇円
ふくむろ幼稚園　一〇、〇〇〇円
八幡花園幼稚園　一五、〇〇〇円

福　島

同朋幼稚園　一八、四三七円

茨　城

共生保育園　二六、三五〇円
もみじ幼稚園　七、三五〇円
栄　幼稚園　九三、二三九円
三和幼稚園　一六、一八四円
大野めぐみ幼稚園　二〇、〇〇〇円
取手保育園　二〇、〇〇〇円

栃　木

なでしこ幼稚園　五一、六一八円
岩舟幼稚園　一八、五四三円
ふじおか幼稚園　三一、九五〇円
真岡ひかり幼稚園　二四、七四一円
烏山みどり幼稚園　一九、九三〇円
宇都宮保育園　五五、六〇八円
輪王寺附属日光幼稚園　一五、〇〇〇円

群　馬

むつみ保育園　一〇、〇〇〇円
光泉幼稚園　一〇、〇〇〇円
御園保育園　五、〇〇〇円
長野幼稚園　二一、五〇〇円
大雄保育園　六、二四一円
大森保育園　一〇、〇〇〇円
三宝幼稚園　五、〇〇〇円
吉岡町第3保育園　五二、〇〇〇円

埼　玉

あずま幼稚園　一〇、七九一円
幸手さくら幼稚園　一〇、〇〇〇円
ルンビニ幼稚園　三、三九八円
浦和みひかり幼稚園　二六、六一五円
原市文化幼稚園　二〇、〇〇〇円
西川口幼稚園　一〇、〇〇〇円
厚徳幼稚園　一九、六三七円
妻沼幼稚園　一〇、〇〇〇円
みよしの幼稚園　二九、五四八円
清浄院幼稚園　三〇、〇〇〇円

千　葉

まんまる保育園　二二、九六三円
船橋幼稚園　五〇、〇〇〇円
杉の子保育園　三〇、〇〇〇円
はぼたん幼稚園　五五、二七三円
太子幼稚園　一三、七五八円
東漸寺幼稚園　一四、九八二円
成田保育園　一一、一〇〇円

東　京

髙安寺保育園　五、〇〇〇円
松月院幼稚園　一五、二八六円
祐天寺附属幼稚園　一八、七〇〇円
和敬幼稚園　二六、六二二円
中野たから幼稚園　二〇、〇〇〇円
小岩みどり保育園　一〇、〇〇〇円
満願寺幼稚園　三、〇〇〇円
中台幼稚園　二〇、〇〇〇円
言問幼稚園　二〇、〇〇〇円
石神井保育園　一〇、〇〇〇円
常徳幼稚園　一〇〇、〇〇〇円
麻布山幼稚園　一〇、〇〇〇円
まどか保育園　一〇、〇〇〇円
妙福寺保育園　三七、〇〇〇円
マヤ幼稚園　一〇、〇〇〇円
日野わかくさ幼稚園　二〇、〇〇〇円
円融寺幼稚園　三一、〇一五円
永安寺学園幼稚園　三〇、〇〇〇円
金の峯幼稚園　二七、五九六円
光徳保育園　二三、七七三円
西小松川保育園　六、四八六円
寿福寺幼稚園　一一、六四九円
一之江保育園　一〇、〇〇〇円
寿福寺第二幼稚園　一二、九六六円
銀の鈴幼稚園　三〇、〇〇〇円
神田寺幼稚園　二五、六九一円
真理学園幼稚園　一七、二七二円
前野幼稚園　七、一三七円
今泉保育園　一〇、三〇五円
多摩みゆき幼稚園　三九、〇一一円
鵜の木いまいずみ保育園　一〇、〇〇〇円
本行寺第二伊興幼稚園　五、〇〇〇円
慶元寺幼稚園　三九、四〇〇円
是政保育園　二一、六〇〇円
明福寺ルンビニー学園幼稚園・ルンビニー保育園　一〇、六一一円
まや保育園　六、八〇〇円

神奈川

比企谷幼稚園　一、五〇〇円
ばらの幼稚園　二五、六七八円
武山幼稚園　一〇、〇〇〇円
城郷幼稚園　一〇、〇〇〇円
新羽幼稚園　三〇、〇〇〇円
初山幼稚園　二〇、〇〇〇円
立正幼稚園　一〇、〇〇〇円
横浜れんげ幼稚園　二〇五、一九〇円

愛知

岩田こども園　三〇、〇〇〇円
辰巳幼児園　一〇、〇〇〇円
共和保育園　八、〇〇〇円
西別院幼稚園　一〇、九三五円
ゼンヌ幼稚園　九、一〇〇円
瑞雲保育園　三四、三一五円
中山保育園　二、〇一〇円
剱正幼稚園　三七、〇〇〇円
中田剱正幼稚園　一〇、〇〇〇円
大里双葉幼稚園　三七、七〇九円
若竹幼稚園　二三、〇〇〇円
建中寺幼稚園　七九、三二六円
音聞山保育園　二五、二四二円
花井幼稚園　二八、七一四円

長野

甘露保育園　四、〇五一円
パドマ幼稚園　三〇、〇〇〇円
若草幼稚園　一七、五五〇円
古牧東部保育園　一〇、四二〇円

ルンビニ幼稚園　一八、七二〇円
古里中央幼稚園　七、〇三〇円
慈光幼稚園　五、〇〇〇円

新潟

長岡和光幼稚園　五三、二六九円

福井

新田塚幼稚園　一四、五〇一円

滋賀

草津保育園　一〇、〇〇〇円

三重

若葉保育園　一、八五〇円
高田保育園　一五、〇〇五円
長太の浦保育園　一二、〇〇〇円
第二長太の浦保育園　一二、〇〇〇円
三重保育院　二一、八〇六円
浜田保育園　一〇、〇〇〇円

京都

嵯峨幼稚園　三六、五三〇円
月かげ保育園　一七、一六八円
御室幼稚園　一五、六〇一円
永観堂幼稚園　二〇、〇〇〇円
随林寺保育園　一五、二〇〇円
大谷保育園　三〇、〇〇〇円
華頂短期大学附属幼稚園　三九、三一六円
むらさき幼稚園　一五、〇〇〇円

明　幼稚園　一〇、八五〇円
桃嶺保育園　一三、三五一円
佛教大学附属幼稚園　一八、八五〇円
誕生院保育園　二、一〇〇円
ときわ幼稚園　二三、〇〇〇円
西本願寺保育園　二一、〇〇〇円
光　保育園　一〇、〇〇〇円
西京極幼稚園　六九、三一四円
光明幼稚園　一〇、〇〇〇円
松尾幼稚園　二三、三一六円
山科幼稚園　一一、四〇〇円
大徳寺保育園　六一、〇〇〇円
東野保育園　三、一〇〇円
ゆりかご保育園　二八、八〇〇円

大阪

勢至学園保育所　三四、〇六五円
りんでん幼稚園　四〇、三九一円
若宮保育園　一〇、八〇〇円
常照寺隣保館保育園　三、九〇八円
西若宮保育園　一六、二七六円
若宮森の子保育園　二五、〇一三円
とりかい保育園　五、八〇〇円
光源寺幼稚園　一〇、〇〇〇円

奈良

慈光保育園　一〇、〇〇〇円

和歌山

御坊幼稚園　二〇、六〇〇円
鷺森幼稚園　六〇、〇〇〇円
立正幼稚園　一〇、〇〇〇円

兵庫

ルンビニー愛児園　一四、〇〇〇円
大池保育園　二三、三六五円
明照保育園　九、九〇一円
つきかげ認定こども園　三一、三四一円
宝地院保育園　一六、八五〇円
道場保育園　四四、六四九円
書写保育園　六七、四六七円
日光認定こども園　二〇、〇〇〇円

島根

益田幼稚園　一二、八四五円

岡山

御国幼稚園　三〇、〇〇〇円
牛窓ルンビニ保育園　九、六〇〇円

広島

サールナート幼稚園　三、八二〇円
せんとく幼稚園　四、二五〇円
宝徳幼稚園　四、八〇〇円
みのり幼稚園　五、〇〇〇円

山口

みすゞ保育園　一〇、九〇〇円

愛媛

船越保育園　一、九四〇円

香川

草壁保育園　五、〇〇〇円
三井保育所　一五、〇〇〇円
西光寺保育所　一二、〇〇〇円
長覚寺保育所　三、〇〇〇円
すみれ保育園　一〇、〇〇〇円
白方保育所　二一、五八五円
いろは保育園　二四、五八一円

福岡

聖愛保育園　二三、八〇〇円
光應寺保育園　二〇、〇〇〇円
明願寺幼稚園　七、〇〇〇円
華頂幼稚園　一〇、〇〇〇円
サルナート幼稚園　三五、〇〇〇円

佐賀

鏡　保育園　五、一〇〇円
能古見保育園　四、二〇〇円

協賛金合計
四、〇八二、四二五円

ありがとうございました。

花まつり

（敬称略）

御園幼稚園
園長　松井　大圓
〒710・0055
岡山県倉敷市阿知3・20・7
電話086・425・0141

吉田保育園
園長　海野　和貴
〒381・0043
長野市吉田3・16・16
電話026・244・3362

常徳幼稚園
宗教法人
園長　武田　治恵
〒156・0051
東京都世田谷区宮坂2・10・1
電話03・3427・2251

是政保育園
宗・西蔵院
園代表役員
園長　榎本　隆乗
榎本　崇子
〒183・0014
東京都府中市是政3・6
電話042・361・7452

光徳保育園
日仏保連営審議委員
園長　秋山　秀阿
〒132・0035
東京都江戸川区平井6・53・7
電話03・3618・0511

りんでん幼稚園
園長　加藤　英子
〒567・0832
大阪府茨木市白川1・11・1
電話072・633・1212

明願寺幼稚園
園理事長　花田　郁実
〒809・0034
福岡県中間市中間4・8・2
電話093・245・0419

沼南幼稚園
園理事長　関矢　良順
〒277・0941
千葉県柏市高柳1364
電話04・7191・0154

大巌寺文化苑 大巌寺幼稚園・慈光保育園
宗・玉林院
園長　森　雅子
〒603・8231
京都市北区紫野大徳寺町74
電話075・491・8818

大徳寺保育園
苑主　長谷川匡俊
〒260・0812
千葉市中央区大巌寺町457・5
電話043・263・7965

若草幼稚園
学・天周学園
園理事長　黒柳　祖道
〒381・0043
長野市吉田3・15・4
電話026・241・4151

金の峯幼稚園
学・亮諦学園
日仏保理事
東仏保委員長・園長　安藤　文隆
〒165・0022
東京都中野区江古田3・9・9
電話03・3385・0014

福島ルンビニー幼稚園
日仏保副理事長
園長　吉岡　棟憲
〒960・1101
福島市大森字南中道47・1
電話024・545・0814

山科幼稚園・西念寺保育園
園理事長　白簇　文雄
〒607・8086
京都市山科区竹鼻四丁野町52
電話075・581・0879

妙福寺保育園
日仏保連営審議委員
園長　戸田　了達
〒178・0064
東京都練馬区南大泉5・6・47
電話03・3922・3368

滝川幼稚園
園長　泉　敬止
〒073・0031
北海道滝川市栄町2・7・18
電話0125・23・2478

言問幼稚園
日仏保参務
日仏保連営審議委員・園長　小林昭彦
小林昭寛
〒131・0033
東京都墨田区向島5・4・4
電話03・3622・7771

鈴蘭幼稚園
園長　梅田　静子
〒158・0093
東京都世田谷区上野毛2・15・15
電話03・3704・1881

玉泉幼稚園
宗・宝積寺
代表役員　武藤　秀樹
〒290・0016
千葉県市原市門前2・220
電話0436・43・9557

明徳幼稚園
園理事長
園長　友田　達祐
蓮池　光洋
〒105・0011
東京都港区芝公園4・7・4
電話03・3431・0592

古城幼稚園・若林幼稚園
学・仙台佛教学園
園理事長　金山万亀子
〒984・0816
仙台市若林区河原町2・2・7
電話022・222・8480

中野小鳩幼稚園
園長　根本　定子
〒165・0025
東京都中野区沼袋3・21・7
電話03・3385・0017

佛教大学附属幼稚園
園長　藤堂　俊英
〒616・8306
京都市右京区嵯峨広沢西裏町36・1
電話075・872・5327

ふくむろ幼稚園
学・西光寺学園
園長　三浦　宗格
〒983・0005
仙台市宮城野区福室5・11・30
電話022・258・0026

光明第一保育園
社福・多摩養育園
園長　須崎智佳子
〒192・0055
東京都八王子市八木町8・11
電話042・623・3388

洛西花園幼稚園
園長　小山内定代
〒610・1112
京都市西京区大枝北福西町4―3
電話075・332・2808

栄　幼稚園
園長　橋本　幸雄
〒305・0015
茨城県つくば市松塚667
電話029・857・2231

ふたば保育園
社福・阿育会
園理事長　居永栄治郎
〒529・1532
滋賀県東近江市市子松井町175・1
電話0748・55・0113

学校法人東京聖徳学園
聖徳大学大学院
聖徳大学短期大学部
理事長・学園長・学長　川並　弘純
〒271・8555　千葉県松戸市岩瀬550
電話047・365・1111

熊本地方とその周辺地域への地震災害による被災者の方々に謹んでお見舞い申し上げます。

4月14日夜、熊本地方を中心とした大地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますと共に、周辺各地で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回の地震は21年前の阪神・淡路大震災に相当する激震とのことですが、その後も断続的に地震は相次ぎ、翌15日未明には震度7という激震に見舞われ、その後も同クラスの大きな余震が絶え間なく揺れ続け、かつてない文字通り未曾有の大地震だと報道されています。加えて、豪雨による土砂災害も併発。以来、今もなお余震活動は収まらず、被災者の恐怖・艱難を思えば胸が痛みます。

また、ライフラインの復旧も遅々として進まず、救援物資も届けられない地域もあるようです。阪神・淡路、新潟県中越、東日本など、いずれも多くの犠牲者を出す大地震に襲われてきました。こうした大惨事の前例を活かし、効果的な支援活動が行われることを願っています。

被災された皆々様の安全・安心と、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興を心らご祈念申し上げます。

合　掌

理事長　緑谷一雄

社員一同

屋根瓦が落ち、石垣が崩れた熊本城
（4月15日の読売新聞より）

強い揺れで倒壊した阿蘇神社の楼門
（4月16日の読売新聞より）

お知らせ

社員総会・仏教保育研修会の開催

◆第5回社員総会

日　時 ＝ 平成28年6月1日（水）／午後2時～4時
会　場 ＝ 大本山増上寺 光摂殿

◆平成28年度 第1回仏教保育研修会

日　時 ＝ 平成28年6月1日（水）／午後4時～5時30分
会　場 ＝ 大本山増上寺 光摂殿
テーマ ＝ 「魅力ある仏教保育者を育てるために」
講　師 ＝ 山崎 啓二郎 先生
（キャノン株式会社顧問・法政大学専門職大学院客員教授）

＊「緊張感」と「信頼感」がバランスすることで〝やる気〟と〝知恵〟を出させ自らの役割を認識させる。「緊張感」とは切磋琢磨、「信頼感」とは人間尊重、機会の平等と結果の公平・公正である、これは先生の自説です。

原発被災地〝飯館村〟で、生命（いのち）の尊厳を学びましょう

過日、福島県の内堀雅雄知事が、原発被害における復興を目指す福島県の「今」と「魅力」について語る新聞記事を見ました。福島県が抱える四つの課題について述べていました。

『①環境問題＝除染の効あって空間放射線量は全域で大幅に減少した。②食品＝風評の影響が未だ色濃く残っているが、徹底した放射性物質検査を実施し、安全・安心な食べ物だけを出荷。風評にはこれからも丁寧に取り組んでいく。③観光＝大規模キャンペーンを展開しているが、震災以前に比して観光客は82％程度に留まる。福島は美しい自然と温泉、食に恵まれ歴史と文化が息づく魅力の土地である。④産業＝原子力に依存しない新しい産業の創出を目指し、再生可能エネルギーの導入に力を入れている』。

不可能と思える課題はあるが不可能をチャレンジと捉え、福島が復興していくために挑戦を続ける、とのことでした。

ご高尚のように、公益社団法人 日本仏教保育協会は7月30日（土）・31日（日）の両日、「第34回全国仏教保育大会」を福島県郡山市で開催します。本誌ではかねてよりご案内してきましたが、本号でも吉岡棟憲大会実行委員長の「大会への誘い」を掲載しています。分科会でのハイライトは「原発事故被災地見学」です。内堀知事が述べておられるとおり、放射線量は減少し、身体への心配はありません。

多くの先生方が被災地域を視察され、生命の尊厳を学んでいただきたいと心から願っています。

事務局日誌

4／6　「仏カリ」「仏教保育」編集会議
　　事務局会議
4／12　こどものくに「ひまわり版」編集会議
4／21　こどものくに「たんぽぽ版」編集会議

編集後記

■「万緑の中や 吾子の歯生え初むる」 緑輝く季節になるといつもこの句が心に浮かびます。中村草田男の作品です。私はこの句が大好きです。力強く芽吹いた木々の緑と、生え始めた我が子の小さな白い歯の対比。この句を読むと、生命の息吹とそれに対する喜びや感動が胸に溢れてきます■生があれば死があります。辛く悲しいことですが、大切な人の死に出会った時、改めて私たちは生まれることや出会って共に過ごすことの素晴らしさを噛みしめるのではないでしょうか。生と死は一体です。死は、生を見つめるために与えられた大切な贈り物なのかもしれません。お釈迦様は、死を真正面から静かに受け止めることで何気ない毎日の重さに気づき、そこから「今」を大切にする生き方をお説きになられました■桜の時期に一人の大切な友人を送り、同じ頃、新入園児との出会いがありました。やがて花は散り、緑輝く季節になりました。出会いの一つ一つすべてに感謝し、共にある今を安らかなものにしていきたいです。生命の息吹を感じながら、輝く緑の中で深呼吸をしています。

（戸田）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島 満
毎月1回1日発行（1部315円）

仏教保育綱領

慈心不殺	生命尊重の保育を行なおう
仏道成就	正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進	よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体¥20,000（8%税込¥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。

ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

日仏保

仏教保育

6
June

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

第5回社員総会／平成28年度 第1回仏教保育研修会

平成28年6月1日／大本山増上寺・光摂殿

“いかせいのち”は不変の使命

～子どもが輝く未来に向けて全議案採択～

古屋常任理事

荻野常任理事

髙木常任理事

髙輪常任理事

髙山副理事長

緑谷理事長

大塚福島大会事務局長

吉岡福島大会実行委員長

堀江事務局次長

五島事務局長

金子監事

麻布常任理事

公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は6月1日、大本山増上寺・光摂殿において標記の会を開催しました。2年目を迎えた子ども・子育て支援新制度も、制度と運用のズレは依然として解消されず、新制度に求められる理想からはほど遠いようです。文科・厚労の両省と内閣府は幼稚園にも待機児童受け入れを促してはいるものの、騒音等のクレーム、教諭・保育士の人材不足が進捗を阻んでいるのが現状のようです。こうした背景の中、子どもが輝く未来を志向した議案を上程。議案はすべて異議なく可決しました。

また、恒例の仏教保育研修会では、人材育成の指導者として知られる山﨑啓二郎先生（オフィースＪＫＳ代表）からご講演頂きました（要旨は次号）。

■社員総会

司会・進行を務める五島事務局長が開会を告げ、緑谷一雄理事長の主唱で三帰依文を斉唱。同理事長挨拶の後、司会者から本会が成立することを報告。定款第26条に則り、緑谷理事長が議長に就任し議事に入りました。

上程議案は次の通り。

・第1号議案
平成27年度事業報告
・第2号議案
平成27年度収支決算・監査報告
・第3号議案
平成28年度事業計画
・第4号議案
平成28年度収支予算
・第5号議案　その他

第1号議案「平成27年度事業報告」については、高輪真澄総務担当常任理事より、所管する①生命尊重の保育推進を図る国民運動の展開、⑥関係団体との連絡提携、⑧国際交流、社会貢献の実践、⑨奨励事業についての議案を別紙資料の記載に基づいて報告。続いて髙木正尊研究担当常任理事より、②調査研究、③現職教諭、④指導者養成について資料記載に沿って報告。次いで荻野順雄事業担当常任理事より、⑤編集・

八木名誉会長

懇親会

刊行について資料記載に基づきながら経緯を報告。⑦保育制度対策の活動強化については、古屋吉雄保育制度担当常任理事から、1月20日、ザ・プリンスパークタワー東京で開催した新年懇親会での状況を交えて報告。最後に、堀江秀典事務局次長から、⑩会議について資料記載の通り実施したことを報告しました。

第2号議案「平成27年度収支決算」については所管する麻布恒子財務担当常任理事より資料に沿って詳細説明が行われ、「監査報告」については金子聡秀監事から、業務監査については法令・定款および規則等に従い適正に運営されており、会計監査についても貸借対照表及び正味財産増減計算書、財産目録並びに付属明細書等すべて法人の財産及び損益の状況を正しく示していることを認めた旨、報告がありました。

第3号議案「平成28年度事業計画」については、所管する各担当常任理事並びに事務局長、事務局次長から、基本的には継続事業として前年度同様、積極的に事業を展開し活動を続けていくこと。保育制度対策については今夏の参議院議員選挙に伴う祈願法要を実施する予定であること、等を上程しました。

第4号議案「平成28年度収支予算」については、麻布恒子財務担当常任理事から、前年度決算額を勘案しつつ、事業活動を促進できるように構築した。

但し、28年度は全国大会開催年のため大会関連の科目への金額を計上したのでご審議願いたい旨を述べてから、資料に基づいて詳細な説明がありました。

議長から、第3号議案並びに第4号議案の一括賛否を諮ったところ、全会一致で採択・可決されました。

第5号議案「その他」では、吉岡棟憲福島大会実行委員長（福島ルンビニー幼稚園）から、現時点での参加申し込み者は500名ほどです。500名では講師の謝礼、宿泊をはじめ、スタッフのTシャツ、各種印刷物等々で支出が大きく上回り、広告収入などスタッフも頑張っていますが、厳しい現状です。600名の参加で収支がトントン。せめて700名の参加を達成したいと思います。よろしくお願いします」と呼びかけがありました。

続いて、大塚孝明大会事務局長（梁川保育園）から、基調講演の講師・大井千加子さんの紹介と、700名参加への協力の要請がありました。

このあと、5月16日の理事会で承認を得た「熊本地震への義援金」50万円を、公益財団法人全日本仏教会（全日仏）に寄託。緑谷理事長から全日仏財務部長・和田学英氏に交手されました（次頁に写真）。和田氏は、感謝の言葉に添えて「間違いなく熊本にお届けします」と述べられました。

小憩のあと、講師の山崎啓二郎先生による「魅力ある仏教保育者を育てるために」のテーマで仏教保育研修会が行われました。先生は人材育成の基本的な考え方、人材育成の落とし穴、人材要件の三要素等をベースに話され、仏教での人間の成長段階に踏み込んだ人材育成論をお話してくださいました（要旨は次号で報告）。

「仏教保育功労賞」お二人に贈呈

おめでとうございます

関岡俊二先生

（前日仏保理事長、多摩みゆき幼稚園理事長・東京都多摩市）

法政大学経済学部卒業後、玉川大学通信課程において幼稚園免許を取得。昭和39年、宗教法人多摩みゆき幼稚園を発足した初代園長・関岡賢一先生の後を受けて、園長に就任。昭和61年に学校法人化し建学の精神「心と体の健康」の保育目標に、宗教教育と健康教育を通して子どもの基本的な「根」を育てる教育を実践。また、曹洞宗龍澤寺、高西寺住職を務め、曹洞宗東京保育協会会長として曹洞宗保育の推進・指導を推進。他方、多摩市立幼稚園協会会長として地域に根差した私立幼稚園の振興に力を注ぐ。麻布仏教会会長、保護司なども歴任。

平成21年5月、公益社団法人日本仏教保育協会・上村映雄理事長（当時）のもとで副理事長に就任。同年10月、上村理事長急逝の後を受け同協会理事長に就任。仏教保育の振興に尽くす。

三浦俊彦先生

（前日仏保理事長、城北幼稚園理事長・愛知県名古屋市）

京都大学文学部哲学科卒業、昭和47年、京都大学大学院文学研究科卒業・修士号取得。同年9月、城北幼稚園主事に就任。同53年に城北幼稚園園長に就任。以来、仏教に根ざした園運営並びに保育の推進・指導に力を注ぐ。

城北幼稚園は「ひとりひとりが輝いてほしい」と願って創立し、親子三代にわたる卒園児を送り出した文字通り地域の幼稚園として親しまれてきた幼稚園。昭和60年、学校法人専念寺学園城北幼稚園理事長に就任。

平成23年4月、社団法人日本仏教保育協会副理事長に就任と同時に、地元、愛知県仏教保育協会会長の任に就き、平成27年3月の副理事長並びに会長退任まで、協会の公益社団化をはじめ協会本部と地域における仏教保育の振興・発展に力を尽くす。

■懇親会

増上寺に隣接する、ザ・プリンスパークタワー東京のスカイバンケットで公益社団法人名誉会長・八木季生台下のご臨席を得て行われました。

緑谷理事長挨拶に続いて、八木名誉会長の御垂辞があり、86歳を迎えられたとのことですが、幼児教育の重要性を説かれ、力強いお声で当協会の発展と先生方を激励されました。

御垂辞の後、八木名誉会長から関岡俊二先生（公益社団法人日本仏教保育協会前理事長）、三浦俊彦先生（公益社団法人日本仏教保育協会前副理事長）のお二人に「仏教保育功労賞」が贈られました（三浦先生はご欠席でした）。関岡先生の謝辞のあと、金子聡秀監事の乾杯の音頭で、会は佳境に入り、33階からの夜景を楽しみながら懇親を深めました。

「第12回理事会・第9回運営審議委員会」開催

平成28年5月16日／大本山増上寺・増上寺会館

公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は、平成28年5月16日、社員総会（6月1日開催、前ページ参照）に先立って標記の会を大本山増上寺・増上寺会館において開催しました。要旨を報告します。

司会・進行の五島満事務局長が、第12回理事会・第9回運営審議委員会開催を告げた後、正面に掲げた仏旗に向かって緑谷一雄理事長の主唱で三帰依文を斉唱。議事に先立ち、同理事長より「待機児童の多い千葉県では保育施設の開設を急いでいるが、子どもがうるさいとの理由で開設できなかった。風鈴の音、運動会のピストル音などもクレームの対象となっており、除夜の鐘の音も騒音だと言われ、昼に変えたという寺の話もある。一年を収める除夜の鐘、保護者の切なる願いなども『騒音』という名の元に片付けられる。私たち仏教保育者は凛とした姿勢で対応していきたいと思う。上程議案、しっかりご審議、賜りたい」旨の挨拶がありました。そして、五島事務局長より本会が成立する旨の報告。

次いで、定款に基づき緑谷理事長が議長に就任し、議事に入りました。

上程議案は次の通りです。

1号議案　平成27年度事業報告
2号議案　平成27年度収支決算・監査報告
3号議案　その他

(1)平成27年度事業報告

髙輪真澄総務担当常任理事から配布資料に沿って、所管する①生命尊重、⑥関係団体との連絡提携、⑧国際交流、社会貢献の実践、⑨奨励事業について報告。続いて髙木正尊研究担当常任理事から②調査・研究、③現職教育、④指導者養成について報告。五島事務局長から⑤編集・刊行、⑦保育制度対策の活動強化、⑩その他必要な事業、並びに会議、について報告しました。

(2)平成27年度収支決算・監査報告

麻布恒子財務担当常任理事から、平成27年度収支決算について添付資料の収支計算書を参考に説明がありました。監査報告については金子聡秀監事から、資料を示しながら業務監査の運営は適正であり、会計監査の結果についてもすべての状況を正しく示していることを認めたと、報告されました。

(3)その他

①緑谷理事長より報告

内閣府公益認定等委員会事務局より2名が当事務所に来所され、立ち入り監査が実施された時の様子を以下のように説明。

「今後は3年に一度、定期的に実施されるようである。公益社団法人になって最初であるため口頭での指導であったが、概ね適正に運営されているとのこと。但し、理事会の定数に対して出席者数が少ないとのこと、定数も含め選任の方法・見直しが必要ではないかと指摘された。また、古屋賞、持田賞、仏教保育協会賞（各大学の学生1名ずつ。受賞者は大学に一任）などの表彰規定については、選任等も含めてかなりの時間を割いていた。公益社団法人としての今後の検討課題であることを示唆されたようにと思う」と報告しました。

②「第34回全国仏教保育福島大会」全国大会実行委員長・吉岡棟憲先生より報告

被災地である福島県仏保は加盟園も少なく日も浅いことから準備に不安もあったが、本部はじめ隣接の栃木県、宮城県からご支援を頂きながら準備を進めている。参加者の募集は5月末締切りとなっているが、現時点では福島の加盟園で180名の確約を得ている。13園すべてで動員のための活動を続けている。東武トップトラベラー郡山支店には、150名の参加申し込みがあると聞いているが、まだまだ目標の600人にはほど遠い。多くの参加を先生方にお願いしたいと呼び掛けられた。

＊五島事務局長から

「研修会の分科会座長が未定です。私・五島か堀江から、本会議にご出席の先生方を含めてご連絡しますので、その折にはご快諾くださるようにお願いします」と、要請した。

③「仏教保育功労賞について」

理事長から「6月1日の社員総会後の懇親会の席上で『仏教保育功労賞』の受賞者をこの理事会からご推薦することにしたいと思います。どなたかご推薦頂けますか」との呼びかけに意見が出ず、事務局一任により、「上村理事長急逝のあとを引き受けてくださった前理事長の関岡俊二参務と前副理事長で愛知支部長を長く勤められた現参務の三浦俊彦先生をご推薦したいと思います」。「異議なし」の声を受け、このお二人を社員総会で発表

することを決議した。

④【熊本地震について】

髙山副理事長から提案

「熊本地震では、大変な被害と亡くなられた方々が大勢おられます。当協会では、従来から被災者に義援金を贈っております。今回も、熊本地震被災者に50万円程度を送りたいと思いますので、ご検討くださるようお願いします。その場合、公益財団法人全日本仏教会に50万円を寄託したいと思っています」と提案し、「異議なし」で可決した。

⑤【菩提樹学園の運営について】

髙山副理事長から説明

菩提樹学園の育成協力については、日仏保として100万円、生命尊重の募金から100万円、合計200万円の支援を行なっています。公益社団法人国際仏教興隆協会（ＫＢＫＫ）の話では、現地の物価高騰等により、現在では年間700万円ほどの費用がかかり500万円の赤字。今後も運営面で困難が生じてくるであろうというのが運営委員会でのお話でした。

当協会としては、子どもたちのためにも事業は続行して欲しいと願っています。現地の社会状況を今後も調査し、様々な知恵を絞って存続に努めたいと思っています。また新たな情報がありましたらお知らせいたします」と、菩提樹学園の状況を報告した。

＊緑谷理事長から

菩提樹学園の財務に関して説明し、「日仏保も創立以来支援・協力してきただけに、具体策を考えなければなりません。先生方のお知恵を拝借したい」と要請した。

＊小林研介理事（栃木）から

「今、大変保育士不足が叫ばれています。足利短大などで非常勤講師をしていますが、そこの学生はほとんど都会の幼・保に行ってしまい地元では足りなくなっている。現在もこれからも不足が考えられるとの認識をしておいていただきたいと思っています」と述べ、協会としても、こども園、幼稚園、保育園いずれも保育者なのだから、国や町に対して訴えていく必要があるのではないかと提案した。

＊小俣昌道参務（東京）

「品川で幼保一体化を進めている園をしておりますが、幼保一体化といっても幼稚園と保育園は制度の面で別々ですので…」、と幼稚園と保育園の複雑な内容について詳細に説明。特に金額について詳しく話され、日仏保は幼・保両方あるのだから制度の矛盾を訴えていく必要があると述べた。

＊笠　信暁 運営審議委員（福岡）

「インド菩提樹学園では年間700万円かかるとのことでしたのでお話をしたい」。知人がネパールにお寺を作り20年間関わる中から、建物を作っても教育する人を育てなければ意味がないということで、10数年前からネパールの人を日本に留学させて教師の資格を取らせている。現地の人にとって日本で資格を取ることは魅力。

今まで資金だけの援助だったとすると、現地の人にそういう形で息の長い支援をするには人を育てる協力をする必要があるのではないか。そんなところにこそ色々な仏教系の大学が協力して引き受けてやっていくお手伝いをしてもらう、アイデアを持ってやっていくことで長いお付き合いを築いていけるのではないか。最近、元ネパール駐日大使に聞いた話だと、日本人でネパールに学校を作りたいという方もいるという。人を育てるということを考えていくことで、少ない金額であっても人が育つ道があるのではないかと提案した。

◎髙山副理事長

財政的な面だけでなく保育の指導はもとより、日本の絵本を現地語に訳したり、保育者を派遣するなど様々な支援をしてきました。40年も経つと今まで何人もの卒園生が保育者になるという事例もあります。ご提案のように息の長い事業として現地の需要を考えつつ保育者が日本での幼稚園施設をしたり資格を取ったりというのを希望され、その道が開けることが出来れば良いと思いますし、同感です。ご提案、有難うございました。

以上のような活発な討議が交わされ、盛会裏に理事会を終えました。

熊本地震に「義援金」

平成28年4月に発生した熊本地震で犠牲になられたご遺族の方々に衷心より哀悼の意を表しますと共に、困窮生活を強いられている皆様に心からお見舞い申し上げます。

公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は6月1日開催の社員総会終了後、熊本地震への支援の一環として募集している救援基金へ、義援金50万円を公益財団法人全日本仏教会に寄託しました。

（公財）全日本仏教会の和田学英氏（財務部長）へ緑谷理事長より手交

花まつり

（敬称略）

月かげみどり保育園
日仏保理事
園長　浦田　裕人

〒604・8423
京都市中京区西ノ京西月光町19・1
電話 075・821・5010

【お詫びと訂正】

本紙5月号（№625）花まつり（協賛広告）掲載の長野市「若草幼稚園」の理事長先生のお名前に誤りがありました。正しくは「黒柳博仁」先生でした。茲に謹んでお詫び訂正いたします。

平成27年度 事業報告

平成27年4月1日～平成28年3月31日

基本方針の生命尊重の保育確立と心の教育の推進

1. 生命尊重の保育推進
2. 活力ある日仏保
3. 魅力ある日仏保
4. 国際交流・社会貢献のできる日仏保

を重点に次の事業を行った。

1. 生命尊重の保育推進を図る国民運動の展開

(1) 生命尊重の保育推進のための実践、普及活動（募金運動）

昭和58年より始めた「いかせいのち」の募金運動では、日本赤十字社、ユニセフ等に浄財を贈呈。27年度にはネパール地震救援金を送付した。現在までの寄託総額は約1億円にのぼる。協賛園には感謝状・ポスターを配布。園児にはシール、保護者には「日仏保協会の活動について」を配布。

(2) 財政確立のための振興活動

1. 支部及び未組織支部で研修会及び組織強化会議を開催。また、その他のブロックもアプローチを図る。
2. 広告・寄付金の増大を図る。

(3) 生命尊重の集い等の推進

4月　京都幼支部「花まつり園児大会」於、みやこめっせ
5月　宮城支部「第55回こどもはなまつり」於、イズミティ21
11月　大阪支部「絵画展」於、海遊館マーケットプレイス
12月　東京支部「釈尊成道を祝う幼児と母のつどい」於、よみうりホール
12月　神奈川支部「成道会の集い」於、ホテル横浜ガーデン
12月　京都幼支部「成道会」於、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺・大方丈
1月　埼玉支部「第31回佛教幼児絵画展」於、さいたま市文化センター展示室
1月　愛知支部「第48回仏教保育絵画展」於、名古屋市民ギャラリー展示室
2月　京都幼支部「涅槃会」於、西本願寺・聞法会館
2月　愛知支部「第6回三河地区仏教保育絵画展」於、豊川プリオホール

(4) 生命尊重の保育に関する参考資料の編集刊行

「改訂わかりやすい仏教保育総論」普及促進

2. 調査・研究

(1) 仏教保育にかかわる調査・研究

1. 「支部講習会等特別助成金」制度に基づき、各地区での講習会への助言と、各県より要請された講習会等に本部より講師の派遣を行った。
2. 本協会編「改訂わかりやすい仏教保育総論」（平成16年2月初版・平成22年11月改訂チャイルド本社刊）は、全国の支部・養成機関でテキストとして活用されている。
3. 養成機関連絡協議会を2月に開催し、研究協議を行った。

(2) 仏教保育研究所

仏教保育史の資料の蒐集、整理を続行。

(3) 仏教教育研究会

仏教保育の理念と実践の研究を行う。仏教保育者・学生等が対象。

3. 現職教育

(1) 中央講習会

ア. 第83回夏期仏教保育講習会

7月22日・23日の両日、東京増上寺大殿において、東京仏教保育協会の運営実施により、全国から約150名の参加を得て開催。講師には駒沢女子大学教授・千葉公慈先生、絵本作家・とよだかずひこ先生、ジャーナリスト・猪熊弘子先生、全国青少年教化協議会・神 仁先生、児童文化実践講師・近藤千春先生、鶴見大学短期大学部講師・鮫島良一先生等を迎えて、仏教保育の講義並びに保育に関係する色々な内容の講義と実技を交えての2日間の講習会を終えた。機関紙平成27年8月号第616号に掲載

イ. 第59回関西地区仏教保育研修会

平成27年6月27日、本願寺津村別院（大阪市）において劇団かかし座を講師として76名が参加し開催された。機関紙平成27年9月号第618に掲載

(2) 支部講習会・ゼミナール等の開催促進

平成27年度各支部講習会・ゼミナール等の実施状況

3月31日　東京支部「第50回教諭・保育士研修会」於、神田寺幼稚園100名参加
4月18日　長野支部「総会・記念講演」於、善光寺事務局講堂　100名参加
5月2日　愛知支部「新任教諭・保育士研修会」於、東別院　63名参加
5月20日　埼玉支部「平成27年度春季研修会」於、埼佛会館
5月23日　長野支部「新任者研修会」於、芹田東部保育園　28名参加
5月30日　三重支部「総会と講演会」於、高田本山宗務院　32名参加
6月3日　福島支部「平成27年度研修会」於、郡山市卸町会館　30名参加
6月7日　栃木支部「教員・保育士研修会」於、恵光幼稚園
6月7日　栃木支部「研修会」於、恵光幼稚園
6月13日　京都保支部「第1回職員研修会」於、西本願寺安穏殿　31名参加
6月19日　香川支部「平成27年度仏教保育講座」於、サン・イレブン高松　49名参加
6月20日　長野支部「講演会」於、善光寺事務局講堂　100名参加
6・7・9・10・1月　東京支部「東仏保ゼミナール」5回開催於、飯田橋セントラルプラザ　各60名参加
6・11月　東京支部「東仏保研究ゼミナール（施設見学）」2回開催　麻布山幼稚園／一之江保育園　15名／16名参加
7月29日　埼玉支部「平成27年度夏季研修会」於、曹洞宗大本山永平寺　20名参加
7月31日　北海道支部「第34回北海道仏教保育研修大会」於、真宗大谷派旭川別院・旭川グランドホテル　111名参加
8月6日　宮城支部「宮城県仏教保育夏期研修会」於、東京エレクトロンホール宮城　100名参加
8月28日　京都幼支部「一泊研修会」於、書写山円教寺宿坊　23名参加
9月5日　愛知支部「二学期を迎えての保育者研修会」於、建中寺幼稚園ホール　52名参加
10月18日　三重支部「三重県・高田派仏教保育協会合同研修会」於、高田派京都別院・嵐山・東本願寺　42名参加
10月23日　愛知支部「絵画展事前研修会」於、真悟寺幼稚園　12名参加
10月31日　京都保支部「第2回職員研修会」於、月かげ保育園　19名参加
11月2日　兵庫支部「研修会」於、兵庫県私学会館　30名参加
11月7日　長野支部「新任者研修会」於、雷鳥保育園　38名参加
11月11日　京都幼支部「第2回定例研修会」於、くろたに幼稚園　26名参加
11月26・27日　栃木支部「研修会」於、あさやホテル
12月10日　群馬支部「公開保育」於、長昌寺保育園　31名参加
1月16日　長野支部「園内研修のまとめ発表」於、善光寺事務局講堂　100名参加
2月5日　群馬支部「パネルシアター講習会・園長

研修会」　於、ホテル木暮
24名参加
2月23日　香川支部
「平成27年度冬期仏教保育講座」
於、サン・イレブン高松　28名参加
2月24日　茨城支部
「研修会」　於、ホテルグランド東雲　67名参加

4. 指導者養成

(1) 平成27年度第1回仏教保育研修会
平成27年6月1日
於、増上寺・光摂殿
講師　野村證券株式会社・金融公益法人部　塚嵜智志先生
テーマ「寺院を取り巻く環境変化と検討課題」　70名参加
機関紙平成27年7月号第615号に掲載

(2) 平成27年度第2回仏教保育研修会
平成28年1月20日
於、増上寺・光摂殿
講師　淑徳大学総合福祉学部教授　柏女霊峰先生
テーマ「子ども子育て支援制度と保育」　100名参加
機関紙平成28年3月号第623号に掲載

(3) 養成機関連絡協議会
平成28年2月22日　於、芝パークホテル
テーマ「仏教保育をいかに現代に生かすか」
参加養成校8校・9名
機関紙平成28年4月号第624号に掲載

5. 編集・刊行

(1) 機関紙「仏教保育」
月刊　園長・教職員対象
平成27年4月1日発行第612号より平成28年3月1日発行第623号まで、時宜に適した日仏保に関連した事象を取り上げ紙面の充実を図った。
編集委員会は月1回
於、日仏保事務所

(2)「仏教保育カリキュラム」
月刊　教職員対象
企画会議
年1回　於、日仏保事務所
編集会議
月1回　於、日仏保事務所
校正委員会　月1回
於、エフ・コーポレーション

(3)「ほとけの子」　月刊　保護者対象
仏さまのみ教えを通して、親子共々「心の豊かさ」のある人としての成長を願い編集し紙面の充実を図る。
企画会議
年2回　於、日仏保事務所
編集会議
年6回　於、日仏保事務所

(4) 仏教保育教材の編集・監修
1.「こどものくに」ひまわり版
月刊　年長児対象
編集会議　年3回開催
於、すずき出版
☆「わたしの記録」　卒園児に対して配布
2.「こどものくに」チューリップ版
月刊　年中児対象
企画会議　年2回、編集会議　年3回開催　於、すずき出版
3.「こどものくに」たんぽぽ版
月刊　年少児対象
編集会議　年2回開催
於、日仏保事務所
4. 出席カード
編集会議　年1回開催
於、フレーベル館
5. なつのえほん
編集会議　年1回開催
於、すずき出版
6. ともだちいっぱいうれしい
な（すずき出版）新入園児対象
7. その他必要な教材
「いかせいのち」
日仏保写真ニュース未発行
(5)「日仏保ポスター」未発行
(6)

6. 関係団体との連絡提携

(1) 仏教各団体・他宗教団体との連絡
1. 公益財団法人全日本仏教会、公益財団法人国際仏教興隆協会への役員派遣。公益社団法人全日本仏教婦人連盟、公益財団法人仏教伝道協会との連絡提携
2. 日本宗教保育事業協議会（仏教、神道、キリスト教）の振興

(2) 各私立、各宗保育団体との連絡
1. 各私立全国研修会及び会議へ理事長、副理事長、本部の中心メンバーが参加、連絡を図る。
2. 各宗保連の研修会、全国講習会にも同様に出席、連絡を図る。

(3) 地方組織との連携強化及び育成指導
1. 支部講習会等特別助成金交付制度を適用し、以下の支部に配布。①愛知　②東京　③栃木　④北海道　⑤兵庫
2. 支部の会議及び事業に本部より訪問し連絡を強化。

(4) 保育関係企業との連絡
1. 各企業継続事業の推進及び新規事業も模索（すずき出版、宣協社、フレーベル館、チャイルド本社、ひかりのくに、世界文化社、学研教育みらい、若越、エフ・コーポレーション、等）。
2. 新年懇親会にて懇談

7. 保育制度対策の活動強化

(1) 幼保加盟施設の運営・経営の調査
幼保加盟施設の各地区の現状分析

(2) 保育制度研究会（全国制度対策委員会）

(3) 仏教保育振興国会議員懇話会との連絡強化
平成28年1月20日　ザ・プリンスパークタワー東京にて新年懇親会開催
機関紙平成28年2月号第622号に掲載

8. 国際交流、社会貢献の実践

(1) 国際交流等と社会貢献（災害救援を含む）を積極的に推進

(2) インド菩提樹学園の育成協力
ア. 菩提樹学園運営委員会の開催
平成27年11月9日　於、日仏保事務所
平成28年2月15日　於、国際仏教興隆協会事務所
イ. 運営基金の管理運用
ウ. 運営及び育成指導への協力

(3) オメップ（OMEP）に協力

9. 奨励事業

(1) 日本仏教保育協会賞
本年度養成機関卒業生
平成27年度32名／30校

(2) 仏教保育功労賞
仏教保育実践に功労のあった個人で、適任者がいる年度のみ授与
第21回受賞者3名　第4回社員総会懇親会席上にて表彰
日野昭文先生（京都、松尾幼稚園）
浦田裕人先生（京都、月かげ保育園）
安井昭雄先生（東京、光明幼稚園）

10. その他必要な事業

(1) 会員加入促進運動

(2) 将来検討委員会の開催（未実施）

(3) 奉祝花まつり・暑中見舞広告・成道会等の協賛広告（協賛広告を例年通り継続）

(4) 各種出版物、教材の開発・販売推進（重点教材・出版物「こどものくに」「ほとけの子」）

(5) ホームページの充実

(6) その他
「仏教保育なるほど12か月」「改訂わかりやすい仏教保育総論」
「ポップアップ絵本おしゃかさま」「新選ジャータカ絵本全5巻」の普及促進

◇ 会　議

(1) 5月8日　平成26年度業務・経理監査会　於、日仏保事務所

(2) 5月13日　第9回理事会・第7回運営審議委員会　於、増上寺会館
機関紙平成27年6月号第614号に掲載

(3) 6月1日　第4回社員総会
第10回理事会・第1回仏教保育研修会　於、増上寺・光摂殿
機関紙平成27年7月号第615号に掲載

(4) 1月20日　第11回理事会・第8回運営審議委員会　第2回仏教保育研修会　於、増上寺・光摂殿
機関紙平成28年2月号第622号に掲載

(5) 常任理事会・事務局会議
年11回開催　於、日仏保事務所
以　上

【報告事項】
平成28年2月18日（木）
午前10時から午後5時
法人運営組織及び事業活動の状況に関する立ち入り検査実施。
内閣府公益認定等委員会事務局より2名事務所に来所。

第84回 夏期仏教保育講習会ご案内

主催：公益社団法人日本仏教保育協会 / 共催：東京仏教保育協会
会場：増上寺・光摂殿（東京都港区芝公園４－７－35）

7月21日（木）

9：00～9：30　受　付

9：30～9：50
朝のコーラス
公益財団法人 全国青少年教化協議会研究員
吉水知草先生

9：50～10：20　開講式

10：20～10：50
「仏教保育の話」
公益社団法人 日本仏教保育協会理事長
緑谷一雄先生

10：50～11：00　休　憩

11：00～12：00
「世界に弘まる仏教の魅力
－日常に活かせる教えと実践－」
武蔵野大学　ケネス田中先生

12：00～13：00　昼　食

13：00～14：20
『絵本』という出会い
絵本作家　ひろかわさえこ先生

14：20～14：30　休　憩

14：30～16：00
「保育を楽しもう」
玉川大学教育学部准教授
田澤里喜先生

7月22日（金）

9：00～9：10　受　付

9：10～9：20
オリエンテーション

9：20～10：20
「豊山保育の根底にあるもの」
真言宗豊山派保育連合会理事長
大澤聖隆先生

10：20～10：30　休　憩

10：30～12：00
「パネルシアターの世界」
－ハラハラ、ワクワク、ドキドキ、アラッ不思議‼－
佛教大学教育学部教授
髙橋　司先生

12：00～13：00　昼　食

13：00～14：20
「保育環境デザインへのアプローチ」
大谷大学短期大学部准教授
冨岡量秀先生

14：20～14：30　休　憩

14：30～15：50
「子どもとのふれあいあそび」
～リズムあそび～
リズム・リトミック・音楽指導員
松澤育子先生

15：50～16：00　閉講式

一日一粒〝梅干し〟食べて活力アップ！「元気な笑顔で、福島で会いましょう!!」

6月に入ると、入梅を告げる情報が気になります。しかし、梅雨は6月だけではありません。3月頃のすっきりしない天気が続くことを『菜種梅雨』と言い、5月下旬から降る雨を『走り梅雨』と呼ばれています。そして「入梅」です。うっとうしい雨もこう呼ばれてみると、何ともゆったりとした風情が漂ってきます。そこで「梅雨」の語源を調べてみました。「梅の実が熟す」から、「梅が潰れる頃」と所説あるようですが、すべて「梅」に因んでいました。

梅と言えば、「梅干し」を一日一粒食べるだけでエネルギー代謝を助ける、つまり「食欲も活力もアップ！」すると言われています。確かに、見ただけで唾液があふれ出て消化を助けるでしょうし、口に含めば酸っぱさで胃腸も活性して食欲アップに繋がりなりそうです。梅干しの栄養成分であるクエン酸の働きでエネルギーを作り出すわけですから、蒸し暑い梅雨の日の一粒の梅が「元気の素」であるのは確かです。

昔は、それぞれの家で梅干しが作られていました。我が家でも空を見上げて梅雨の晴れ間が三日は続くと睨んだ祖母が、塩をまぶした甕の中の梅を取り出してムシロの上に広げて天日干し。「天日で干すから『梅干し』と言うんじゃよ」と教えてくれた祖母の声を思い出します。三日後に祖母自慢の「梅干し」の完成です

閑話休題。皆さん、梅干しで活力付けて「第34回全国仏教保育福島大会」でお会いしましょう!!

事務局日誌

5／10　平成27年度業務及び会計監査会
「仏カリ」「仏教保育」編集会議、事務局会議
5／11　こどものくに「チューリップ版」編集会議
「ほとけの子」編集会議
5／16　第12回理事会・第9回運営審議委員会
（大本山増上寺・増上寺会館）

編集後記

■オリンピックの足音が近づいてきました。でもまだまだ、盛り上がっているのは東京だけかも知れません。自分が高校生の頃、長野五輪を現地で観戦する機会に恵まれました。会場付近を歩いていると外国の街かと錯覚してしまうほど外国人が多かったこと、そして各種競技の壮大さに圧倒され、素晴らしい思い出になりました■あるオリンピック選手を地元のイベントにお呼びした際、金メダルを持って来てくれました。しかも子どもたちに触らせてくれるのです。そんな大事なものを大丈夫なのかとその選手に聞いてみると…、「自分が子どもの頃、スポーツ選手にメダルを見せてもらい、感動して自分もオリンピックを目指そうと思った。今日をきっかけに次世代の日本を代表するアスリートを目指す子どもが出てくれれば、こんなに嬉しい事はないです」とおっしゃいました■やはり「本物」は違うなと思います。日本でオリンピックが開催されるという稀代のチャンスですし、どんなマイナー競技でも良いから何とか子どもたちに見せてあげたい、と策を練る今日この頃であります。

（髙　山）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島　満
毎月1回1日発行（1部315円）

仏教保育綱領

慈心不殺　生命尊重の保育を行なおう
仏道成就　正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進　よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体¥20,000（8%税込¥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。

ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

日仏保

仏教保育

7 July

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

「第34回全国仏教保育福島大会」への参加お申し込み
“ありがとうございます”

平成28年7月30日(土)・31日(日)、福島県郡山市「ホテルハマツ」で開催の「第34回全国仏教保育福島大会」に600名を超えるお申込みをいただき、心から感謝申し上げます。

福島大会が開かれる「ホテルハマツ」

原発という複合災害からの復興を目指し❶環境の回復❷農地汚染による農作物への風評❸観光客の減少等からの復興・復帰、に福島は県民あげて闘い続けてまいりました。その成果は確実に実り、旧に復しつつあります。

更に、原子力に頼らない再生可能エネルギーの導入にも力を入れ、新しい産業の創出を目指して躍進しているのが、福島の今の姿です。それでもなお、今も避難生活を余儀なくされる人も多く、放射能でのダメージを完全に払拭するには至っていません。

そんな環境背景の中にあって、大会参加人数への不安を抱きながらも、「福島に来てよかった。素晴らしい大会だった」と感動していただける大会にしたい。その思いだけで準備を進めてまいりました。それだけに、会場が満席に近いご参加を得たことに感激しております。

「合掌の姿に花は咲く～被災地（ふくしま）で学ぶ生命尊重の保育～」の大会テーマには、快適さや便利さを追求する社会から脱却し、未来を育む子どもたちが笑顔で生きていける社会、いのちを大切にする社会を築いていくことの大切さと、生命尊重の保育の必要さを願う思いが込められています。

人間本来の生き方である「向き合う・寄り添う・支え合う」という教えは仏教保育の中に凝縮されており、これまで実践されてきました。

「第34回全国仏教保育福島大会」では、改めて仏教保育のあり方を学び、実践に生かす思いから、原発事故被災地へのフィールドワークバスツアーも組み入れました。皆さんが合わせた掌の中に、ほとけの花を咲かせて欲しいと願っています。

◆福島の「一口メモ」

◎**県の面積**⬇13732平方㎞は、北海道、岩手県に次いで3番目の広さ。

◎**県民性**⬇「頑固一徹」…江戸時代、県内各地に幕府直轄地と会津藩など多くの藩があり、多極分散型の県土構造となった要因と言われている。

平成28年度 第1回 仏教保育研修会

平成28年6月1日／大本山増上寺・光摂殿

テーマ「魅力ある仏教保育者を育てるために」

講師　山﨑 啓二郎 先生（オフィースＪＫＳ代表・法政大学専門職大学院客員教授）

子ども・子育て支援新制度が施行されて2年目を迎えました。スタート当初に見せた混乱はやや落ち着いたようですが、制度のズレは依然として続いているようです。認定こども園も４０００園に迫る勢いを示すものの、保育士不足・教諭の人材不足に悩まされているのが現状です。

今回の研修は人材育成のエキスパートとして知られる山﨑啓二郎先生をお迎えし、標記のテーマで実施しました。先生はキャノン株式会社の人材育成を長年担当してこられ、成果を高めた指導者として知られていますが、その指針は仏教に学ぶところが基本になっていると言います。その要旨を簡略に報告します。

「人材育成の根本」について

「天は自ら助くる者を助く」は一つの真理である。自助の精神が人間の成長を遂げるための礎。その精神がその人間を励まし元気づける。されど、「他を助くる者は、さらに助く」。これが人材育成の根本である。

変革風土と人材育成の土俵づくり

「革新・変革」は既得権益を損なうことに繋がることもあるので、抵抗勢力が必ずいる。「革新・変革」の風土づくりは、トップの継続的なメッセージが必要である。「評価制度」に「革新力」をプラス評価する仕組みなど、人事制度も見直すことが肝要。

鬼手・仏心の経営

【仏心、人間尊厳の重視】
❶心・人間性の追求
❷文化的価値の重視
❸人の論理

【鬼手・緊張感、人の能力重視】
❶カネ・利益の追求
❷文明的価値の重視
❸資本の論理。

二律背反の超克で仏心＝51％／鬼＝49％で。

ここで先生は百年（老舗）企業から学ぶ必要を説きます。

日本で創業百年以上の企業は５万社。千年以上は19社。五百年以上は１２４社。二百年以上は３１１３社あると述べ、その何れも「顧客第一主義」「本業重視・堅実経営」である。品質本位・従業員重視・企業理念の維持等が、永年企業の基である、と強調します。

事例として「百人乗っても大丈夫」というコマーシャルのキャッチフレーズなど紹介しながら、イナバの倉庫の市場占有率の高さなど説明されました。

人材マネジメントについて

全体像を図表で示し、人材マネージメント（人事労務管理）は経営活動の経営資源としての「人」についてのマネジメントであり、企業の方から働きかけるものだと、説明されました。

日本型雇用慣行

【メンバーシップ型】
❶職務を決めないで会社（企業）のメンバーになる。
❷いろいろな職務を経験しながら「職務遂行能力」を身に付ける。
❸企業内労働市場でキャリアを形成していく（会社ごとのノウハウ）。

【ジョブ型（欧米・アジアなど）】
❶職務で人材を採用する。
❷その仕事がなくなれば解雇。
❸外部労働市場でキャリアを形成する。

管理職インフレの弊害（メンバーシップ型の弊害）

❶低成長時代になっても、「管理職としての待遇」インセンティブの基本姿勢を大きく変更しなかった。
❷ポスト捻出のために組織の単位を小さくする。更に部下を持たない管理職を増加させた。
❸その結果、「経験の場が小さく」なり、更に「経験の始まる年齢も遅れる」ようになった。
❹エリート選別のジレンマもあり、選別できないから配置ができない。配置ができないから、育たないというジレンマに陥る。

人は育つものか、育てるものか

【本人の主体性が一番重要】
❶水場に連れていっても、のどの乾いていない馬は水を飲まない。＊「のどの渇きに気づいていない馬もいる」と、比喩を交えて説明された。

【両方のバランスが大事】
❶育つのは稲、育てるのは百姓。このバランスが大事。
＊啐啄同時（そったくどうじ）＝いずれは育ち、独り立ちしていく。（馬や鳥の子育てを引き合いに出しながら、分かり易く説かれました）

人材育成の規範的考え方

【人が育つプロセスの本質は、基本的には「自学」のプロセスであること】
❶自分で学ぼうとしなければ、自分で育とう（成長したい）としなければ、人は育たない。

【「人を育てるために」周りの人間ができることは、その自学の

プロセスの刺激をつくり、具体的目標を提示し、成長へのフィードバックをしてあげること】（言うなれば、「人は育てられない、育つのを助けることができるだけ」）

人は一人ひとり違う（理解の体系が違う）

❶人は、それぞれの地図や虫メガネを持っている。

❷相手の理解の体系に合わせて言葉を選ぶ（コミュニケーション力の巧拙）。

❸仕事の上で力を合わせなければならないとき、何度も話さないとベクトルは合わない（人間尊重）。

成長を育む愛情

❶「人材育成」の根幹は「愛情」である。

❷「愛は関係性欲求」であり、相手に関心がなければ育成しようとする意欲も起きないし、相手も心に響かない。

（人と人との関わりの中で学習し成長。キャリアは個人と組織、取り巻く社会や家族との共生で築かれていく）

人材育成の落とし穴

❶「自分は一人で頑張ってきた」と言う上司のいる職場は、初めて学ぶ人や新人が放置される傾向にある。

❷個人の思考、行動特性や組織風土の劣化に着目せず、「やる気の問題」にする。

（「無気力」は性格ではなく後天的に学習されるものである）

❸人材育成という分野の専門性の軽視。

（人の能力の見極めや、思考・行動特性を変えたりすることは専門知識を持ち、訓練を受けた人間でなければならない）

人材育成の三要素

【一人ひとりの人材を特徴づける要件は、三層構造になっている】

第一層＝信頼の感情・ベーシックトラスト。

❶幼児期の育成環境で異なり、成人してからは非常に変わりにくい。

❷自分が愛情や好意を向ければ、相手もそれに応えてくれる。

第二層＝志向・行動特性は変えられる。

❶新たな課題に挑戦し、その成功体験によって良循環が生まれ、自律的に仕事を仕掛けていくパターン。

第三層＝特定分野の能力知識・ノウハウ。

❶経験や学習によって蓄積される。

❷努力次第で、何歳になっても身に付けられる。

❸意識改革は、かなり困難である。

仏教での人間の成長段階（人が育つための知恵）

【六波羅蜜の教え（六つの徳目）】

布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧。この六つの教えは、「人が育ち、人を育てるための心のコントロール」。人が育つ組織にある智慧だと、順々と説かれました。

「忍辱」について

【逆境や修羅場に出会った際】

❶悲しいことや辛いことがあっても、落ち込まないで耐える。

❷他人の〝罵り〟や〝辱め〟に対する怒りや失望をこらえ忍び通す精神。

❸自分の思い上がりを洗い流す。

（これらを乗り越えないと「人間成長への足掛かりは、おぼつかない」。乗り越えるためには、上司や家族など周りの励ましがエネルギーとなる）

「精進」について

【へこたれないで最善を尽くす努力をする。決して奢らず、向上心を持って継続していく】

❶一人だと失敗で避難され落ち込むときも、上司や仲間の励ましや明るく振舞えば、「どうにかなる」と思える。ユーモアを忘れない。

❷自分を責めないで、先ずは「開き直る」ことも必要（自分以上、自分以下でもない自分がいると自負すること）。

【失敗してもめげぬ勇気や、辛い道を歩ませる原動力は「社会のため、仲間のため、家族のため」という『利他のこころ』で】

山﨑先生は、特に「忍辱」と「精進」について、価値を共有して目標に向かうことの大切さを力説して、お話を締めくくられました。

【お詫びと訂正】

本誌6月号（NO.626）掲載の理事会・運営審議委員会での「菩提樹学園の運営について」の報告記事の『年間700万円ほどの費用がかかり500万円の赤字』は誤りで、「インドにおける諸物価は年々高騰し、菩提樹学園の運営費もこれまでよりも上回ることが予想される」が正しい表現でした。謹んでお詫びし、訂正いたします。

訃報

仏教保育振興国会議員懇話会会長 鳩山邦夫先生（元総務大臣）死去

鳩山邦夫先生のご逝去を悼み 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

文相、総務相、法相など歴任され、「仏教保育振興国会議員懇話会」の会長として長年にわたって仏教保育の振興にご尽力頂いた衆議院議員・鳩山邦夫先生が6月21日、都内の病院において十二指腸潰瘍で逝去されました。享年67歳でした。

鳩山先生は第一次安倍内閣では法相、麻生内閣では総務相に起用され、きさらぎ会（派閥横断の議員グループ）を率いて安倍首相を支えてこられたことは知られています。また幼児教育の重要性、特に人格形成は幼児期における仏教の教えにあるとして、仏教保育に力を注いでこられました。67歳という早世が惜しまれてなりません。

茲に、先生の生前のご功績を称えますと共に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合　掌

公益社団法人 日本仏教保育協会理事長　緑谷一雄
社員一同

平成 27 年度　収支計算書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

Ⅰ．収入の部

単位　円

大科目	中科目	小科目	補正予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (A－B)	備　　考
基本財産運用益	基本財産利息収入		0	0	0	
特定資産運用益	特定資産利息収入（公1）		154,700	77,613	－ 77,087	
		社団基金利息収入	80,000	40,338	－ 39,662	元金 47,592,500 円
		菩提樹学園利息収入	70,000	16,693	－ 53,307	元金 32,100,000 円
		持田基金利息収入	700	2,405	1,705	元金 800,000 円
		古屋基金利息収入	4,000	18,177	14,177	元金 5,400,000 円
受取入会金	入会金収入（公1）	入会金収入	10,000	25,000	15,000	5 園
受取会費	会費収入	会費収入	25,300,000	25,143,000	－ 157,000	23,000 × 1.100 施設　複数年分の振込あり
事業収益			22,608,238	19,030,486	－ 3,577,752	
	出版収入（公）		13,310,000	11,312,907	－ 1,997,093	
		こどものくに収入	1,530,000	783,283	－ 746,717	51,000 × 2.50 × 12
		ほとけの子収入	5,280,000	4,674,624	－ 605,376	40,000 × 11 × 12
		仏教保育カリキュラム	6,500,000	5,855,000	－ 645,000	購読料　1,200 施設
	刊行物監修収入(公1)		2,221,438	2,028,438	－ 193,000	
		こどものくに編集	280,000	280,000	0	
		出席カード印税	341,483	341,438	0	フレーベル仏保版出席カード
		保育教材ロイヤリティー	1,600,000	1,407,00	－ 193,000	夏の絵本、合掌人形、上製本等
		その他編監修料	0	0	0	
	受講料収入（公1）	中央講習会受講料	1,576,800	1,606,716	29,916	130 名× 10,800 円、寄付・お弁当を含む
	生命尊重募金収入(公1)	生命尊重募金	4,500,000	4,082,425	－ 417,575	
	義援金収入（公1）	義援金	1,000,000	0	－ 1,000,000	
受取補助金等	助成金収入（公1）	年度・制度対策助成金	4,000,000	3,370,000	－ 630,000	宗派・本山よりの助成金
受取寄付金	寄付金収入（公1）	寄付金収入	550,000	550,000	0	鈴木出版 25　保育教材 6 社 30
雑収入			7,605,000	8,299,967	694,967	
	運用利息収入(公1)		5,000	5,159	159	
	協賛金収入（公 1）		1,000,000	1,000,000	0	協賛金
	広告収入（公1）		5,000,000	5,207,820	207,820	仏カリ他広告収入
	その他雑収入（法）		1,600,000	2,086,988	486,988	5 月・1 月懇親会費　関西地区連絡協議会懇親会費・養成機関連絡協議会懇親会費
特定預金取崩	退職給与引当金	取崩収入	0	0	0	
前期繰越	繰越収支差額	前期繰越金	113,110,196	113,110,196	0	
		合　計	173,338,134	169,606,262	－ 3,731,872	

Ⅱ．支出の部

大科目	中科目	小科目	補正予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (A－B)	備　　考
事業費	人件費	臨時雇賃金等	0	0	0	事業のための臨時雇
	調査研究費	研究運営費	200,000	0	－ 200,000	
	教育研究奨励費		200,000	206,721	6,721	
		教育研究会補助	150,000	150,000	0	東仏保ゼミ補助
		古屋・持田賞	0	0	0	全国大会未開催年
		仏教保育功労賞	50,000	56,721	6,721	賞状、記念品
		研究発表指定園	0	0	0	全国大会未開催年
		仏教保育精励賞	0	0	0	全国大会未開催年
	菩提樹学園充実		200,000	200,000	0	
		学園視察派遣旅費	0	0	0	旅費補助
		同上資料代	200,000	200,000	0	学園おみやげ（お菓子など）

事業費	大会講習会開催費		7,300,000	6,301,810	− 998,190	
		全国大会開催費	3,800,000	3,700,500	− 99,500	本部 30 万、支部へ 350 万
		中央講習会開催費	2,050,000	1,428,951	− 621,049	関西地区研修会・夏期講習会・夏期講習会案内印刷
		仏教保育研修会費	450,000	192,359	− 257,641	
		支部講習会補助	1,000,000	980,000	− 20,000	支部、ブロックで行う講習会補助
	刊行・出版費		27,500,000	25,500,252	− 1,999,748	
		仏教保育出版費	9,000,000	8,898,000	− 102,000	約 75 万× 12
		ほとけの子出版費	1,500,000	1,646,280	146,280	原稿、制作費
		紀要出版補助費	0	0	0	全国大会未開催年
		月刊仏カリ費	17,000,000	14,955,972	− 2,044,028	製作、発送費
	各種委員会委託		1,180,000	1,080,233	− 99,767	
		仏カリ編集委員会	200,000	100,233	− 99,767	
		こどものくに編集委員会	280,000	280,000	0	委員会へ
		ほとけの子編集委員会	400,000	400,000	0	委員会へ
		教材開発委員会	300,000	300,000	0	委員会へ
	助成金支出		4,300,000	4,470,969	170,969	
		支部助成金	2,500,000	2,586,900	86,900	支部へ会費 10％還元（期日まで納入の場合は＋ 5％還元）
		菩提樹学園助成	1,000,000	1,000,000	0	学園運営費　国際仏教興隆協会へ
		各種団体提携費	800,000	884,069	84,069	宗派保連、保育団体・関西地区連絡協議会
	社会貢献・国際交流（生命尊重）		4,300,000	2,614,221	− 1,685,779	
		菩提樹学園助成	1,000,000	1,000,000	0	学園運営費　国際仏教興隆協会へ
		義援金	1,000,000	500,000	− 500,000	日本赤十字社　ネパール地震救援金
		印刷作成費	1,500,000	694,009	− 805,991	いのちシール、チラシ組立封筒含む
		募金経費	800,000	420,212	− 379,788	郵便振替の手数料、宅配便
	各種対策費		2,300,000	856,866	− 1,443,134	
		組織強化費	1,000,000	90,000	− 910,000	支部強化経費、支部事業助成
		制度対策費	1,000,000	568,057	− 431,943	懇話会、顧問弁護士
		養成機関連絡費	300,000	198,809	− 101,191	養成機関連絡協議会
	事業雑費		1,100,000	427,955	− 672,045	
		ホームページ運営費	600,000	79,704	− 520,296	
		事業雑費	500,000	348,251	− 151,749	
管理費	会議運営費		5,050,000	3,900,699	− 1,149,301	
		理事運営審議委員会開催費	2,800,000	2,687,272	− 112,728	2 回開催 交通費、1 月新年懇親会
		総会運営費	1,500,000	1,025,820	− 474,180	総会及び 5 月懇親会・総会案内印刷
		支部長会・参務会開催費	500,000	0	− 500,000	将来検討委員会
		事務局運営費	250,000	187,607	− 62,393	
	給料手当		4,890,000	4,615,539	− 274,461	
		給料・諸手当	3,700,000	3,490,000	− 210,000	給与＋通勤交通費　非常勤分を省く
		賞与	940,000	928,000	− 12,000	4 ヶ月
		法定福利費	250,000	197,539	− 52,461	健保、年金掛金補助、労働保険
	役務費		3,620,000	2,269,575	− 1,350,425	
		旅費交通費	420,000	68,820	− 351,180	交通費
		通信運搬費	1,500,000	1,123,664	− 376,336	郵券、電話等通信費
		印刷製本費	300,000	70,200	− 229,800	封筒等印刷全般
		什器備品費	100,000	0	− 100,000	事務所備品
		消耗品費	200,000	103,511	− 96,489	文具等
		借料損料	600,000	517,880	− 82,120	事務機器リース、コピーランニングコスト
		租税公課	500,000	385,500	− 114,500	消費税等
	事務所費		2,810,000	2,791,892	− 18,108	
		貸借料	2,160,000	2,160,000	0	事務所賃借料　18万／月
		光熱水費	650,000	631,892	− 18,108	光熱水費負担金
	諸謝金	慶弔費	400,000	43,200	− 356,800	
	事務雑費	管理雑費	500,000	319,486	− 180,514	
特定預金支出	退職給与引当金	退職給与引当金繰入	600,000	600,616	616	
予備費	予備費	予備費	5,000,000	0	− 5,000,000	
当期収支差額	当期収支差額	差額繰越金	101,888,134	113,406,228	11,518,094	
		合　計	173,338,134	169,606,262	− 3,731,872	

平成 27 年度 収支計算書 組替表

Ⅰ．収入の部

大科目	中科目	小科目	決算額	組替後対応科目（会計部門）
基本財産運用益	基本財産利息収入		0	
特定資産運用益	特定資産利息収入（公1）		77,613	
		社団基金利息収入	40,338	特定資産利息収入（公1）
		菩提樹学園利息収入	16,693	同上
		持田基金利息収入	2,405	同上
		古屋基金利息収入	18,177	同上
受取入会金	入会金収入（公1）	入会金収入	25,000	入会金収入（公1）
受取会費	会費収入	会費収入	25,143,000	会費収入（50%を公1、50%を法）
事業収益			19,030,486	
	出版収入（公1）		11,312,907	
		こどものくに収入	783,283	出版収入（公1）
		ほとけの子収入	4,674,624	同上
		仏教保育カリキュラム	5,855,000	同上
	刊行物監修収入（公1）		2,028,438	
		こどものくに編集	280,000	刊行物監修収入（公1）
		出席カード印税	341,438	同上
		保育教材ロイヤリティー	1,407,000	同上
		その他編監修料	0	
	受講料収入（公1）	中央講習会受講料	1,606,716	受講料収入（公1）
	生命尊重募金収入（公1）	生命尊重募金	4,082,425	生命尊重募金収入（公1）
	義援金収入（公1）	義援金	0	義援金収入（公1）
受取補助金等	助成金収入（公1）	年度・制度対策助成金	3,370,000	助成金収入（公1）
受取寄付金	寄付金収入（公1）	寄付金収入	550,000	寄付金収入（公1）
雑収入	雑収入		8,299,967	
		運用利息収入（公1）	5,159	運用利息収入（公1）
		協賛金収入（公1）	1,000,000	協賛金収入（公1）
		広告収入（公1）	5,207,820	広告収入（公1）
		その他の雑収入（法）	2,086,988	その他の雑収入（法）
特定預金取崩	退職給与引当金	取崩収入	0	
前期繰越	繰越収支差額	前期繰越金	113,110,196	
		合　計	169,606,262	

Ⅱ．支出の部

大科目	中科目	小科目	決算額	組替後対応科目
事業費	人件費	臨時雇賃金等	0	
	調査研究費	研究運営費	0	印刷製本費
	教育研究奨励費		206,721	
		教育研究会補助	150,000	支払助成金
		古屋・持田賞	0	支払助成金
		仏教保育功労賞	56,721	消耗品費
		研究発表指定園	0	支払助成金
		仏教保育精励賞	0	消耗品費
	菩提樹学園充実		200,000	
		学園視察派遣旅費	0	旅費交通費
		同上資料代	200,000	消耗品費

大科目	中科目	小科目	決算額	振替後対応科目
事業費	大会講習会開催費		6,301,810	
		全国大会開催費	3,700,500	支払助成金
		中央講習会開催費	1,428,951	支払助成金 75 諸謝金 62 印刷製本費 5
		仏教保育研修会費	192,359	諸謝金 7 印刷製本費 11
		支部講習会補助	980,000	支払助成金
	刊行・出版費		25,500,252	
		仏教保育出版費	8,898,000	印刷製本費
		ほとけの子出版費	1,646,280	印刷製本費
		紀要出版補助費	0	支払助成金
		月刊仏カリ費	14,955,972	印刷製本費
	各種委員会委託		1,080,233	
		仏カリ編集委員会	100,233	委託費
		こどものくに編集委員会	280,000	委託費
		ほとけの子編集委員会	400,000	委託費
		教材開発委員会	300,000	委託費
	助成金支出		4,470,969	
		支部助成金	2,586,900	支払助成金
		菩提樹学園助成	1,000,000	支払助成金 100
		各種団体提携費	884,069	会議費 10 旅費交通費 23 支払助成金 36 諸謝費 18
	社会貢献・国際交流（生命尊重）		2,614,221	
		菩提樹学園助成	1,000,000	支払助成金 100
		義援金	500,000	支払寄附金
		印刷作成費	694,009	印刷製本費
		募金経費	420,212	消耗品費
	各種対策費		856,866	
		組織強化費	90,000	諸謝費 9
		制度対策費	568,057	諸謝金
		養成機関連絡費	198,809	支払助成金 16　諸謝金 3
	事業雑費		427,955	
		ホームページ運営費	79,704	通信費 7
		事業雑費	348,251	委託費 23 消耗品費 10
管理費	会議運営費		3,900,699	
		理事運営審議委員会開催費	2,687,272	旅費交通費 135　会議費 133
		総会運営費	1,025,820	会議費
		支部長会・参務会開催費	0	会議費
		事務局運営費	187,607	会議費
	給料手当		4,615,539	
		給料・諸手当	3,490,000	給料手当 (公 1 ：法＝ 8 ： 2 で按分)
		賞与	928,000	給料手当 (公 1：法＝ 8 ： 2 で按分)
		法定福利費	197,539	給料手当 (公 1 ：法＝ 8 ： 2 で按分)
	役務費		2,269,575	
		旅費交通費	68,820	旅費交通費
		通信運搬費	1,123,664	通信運搬費
		印刷製本費	70,200	印刷製本費
		什器備品費	0	消耗什器備品費
		消耗品費	103,511	消耗品費
		借料損料	517,880	賃借料（公 1：法＝ 8 ： 2 で按分)
		租税公課	385,500	租税公課
	事務所費		2,791,892	
		貸借料	2,160,000	賃借料（公 1：法＝ 8：2 で按分)
		光熱水費	631,892	光熱水料費 (公 1：法＝ 8：2 で按分)
	諸謝金	慶弔費	43,200	諸謝金
	事務雑費	管理雑費	319,486	委託費 31
社団基金積増	社団基金積増	社団基金積増	0	
特定預金支出	退職給与引当金	退職給与引当金繰入	600,616	退職給付費用 (公 1：法＝ 8：2 で按分)
予備費	予備費	予備費	0	
当期収支差額	当期収支差額	差額繰越金	113,406,228	
		合　計	169,606,262	

期待したいこと

●待機児童問題に絡む認可保育所の増設が乞われて久しい。２０１５年４月現在で２３０００人の待機児童がいると厚労省は発表したが、認可外保育施設への入所や保護者が勤め先の育児休業を延長するケースなどは数に含まれていない。つまり、潜在的な待機児童は６万人を超えることが明らかにされている。地方都市においても、認可保育所の増設は深刻な問題になっている。都市部では用地の確保も容易ではなく、騒音などの理由で周辺住民の反対等により建設中止や延期するケースもあるという。

●保育士不足もその起因の一つのようだ。施設ができても保育士が足りないのが実情。統計によると、全産業の女性の勤続年数はおよそ10年。それに対して保育士は８年弱。賃金では全産業の平均33万円に対して保育士は22万円。賃金の低さも人材不足に拍車をかけているという。総合的な対策を期待したい。

●日本の高齢化はどんどん進み、高齢者向けの社会保障費は増え続いていくのは必至。一方、子育て中の若い世代には社会保険料や税金の負担は大きくのしかかってくる。保育士待遇の改善、保育所増設は未来への投資であろう。今夏の参院選では、社会保障や子育て関連の予算見直しが議論されることを期待して止まない。

事務局日誌

6／1　「第５回社員総会」「平成28年度第１回仏教保育研修会」（大本山増上寺・光摂殿）
6／3　「懇親会」（ザ・プリンスパークタワー東京）
6／9　こどものくに「チューリップ版」編集会議
6／16　「第34回全国仏教保育福島大会」打ち合わせ
6／28　「仏カリ」「仏教保育」編集会議、事務局会議
「第24回参議院議員通常選挙当選祈願法要」（大本山増上寺・安国殿）

編集後記

■研修の夏がきました。日仏保恒例の「第84回夏期仏教保育講習会」（７月21日・22日）に始まり、「第34回全国仏教保育福島大会」（７月30日・31日）へと引き継がれていきます。各宗派主催の保育大会や講習会、研修会も夏の到来を告げます。参加の先生に心からエールを送りたいと思います■今夏は３年に一度の参議院議員通常選挙があります。選挙権年齢が「満18歳以上」になったことで、およそ２４０万人の有権者が誕生します。「政治的中立性」を授業に盛り込んだ高校もあるようですし、政党の中には主権者教育の勉強会を行うなど、水面下では新しい票田獲得に向けての動きも活発のようです。若い主権者の目が参院選にどのような判断を下すのか、興味が尽きません■保育所増設に不同意を唱える地域住民の集会の話題をこのところよく耳にします。「うるさいから」というのが大きな理由のようです。無認可の保育施設がやたら増えるのは同意できかねますが、「保活」の大変さが子どもを産むことを躊躇させているのも事実のようです。日本の未来を冷静に考えてみたいですね。（Ｏ・Ｉ）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島 満
毎月１回１日発行（１部315円）

仏教保育綱領

慈心不殺　生命尊重の保育を行なおう
仏道成就　正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進　よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体￥20,000（8%税込￥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を４巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。

ご注文
お問い合わせ
すずき出版
鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

日仏保

仏教保育

8 Aug.

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

「第84回夏期仏教保育講習会」

″ほとけの慈悲をいただく″

平成28年7月21日・22日／大本山増上寺・光摂殿

公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は7月21日・22日の両日、大本山増上寺・光摂殿において東京仏教保育協会（安藤文隆委員長）のご協力のもと、標記講習会を開催しました。

大暑を翌日に控えた初日も朝から霧雨が舞うように飛び交い、二日目も小雨が降ったり止んだりの涼しいお天気でした。会場には全国から140余名の保育者が参加し、講義では真剣な眼差しでメモを取り、実技では幼児のようにはしゃぎながらも講師の指導に沿って正確に動く姿が頼もしく感じました。

恒例の「朝のコーラス」では、お馴染みの吉水知草先生（公財・全国青少年教化協議会研究員）のご指導で始まりました。ピアノ伴奏もお馴染みの森田真帆先生です。「楽しい歌は楽しそうに、悲しい歌は悲しむような表情で歌うと情感が伝わります」吉水先生はこのように話されてから『四弘誓願、法の深山、追悼の歌』など指導されました。

朝のコーラス

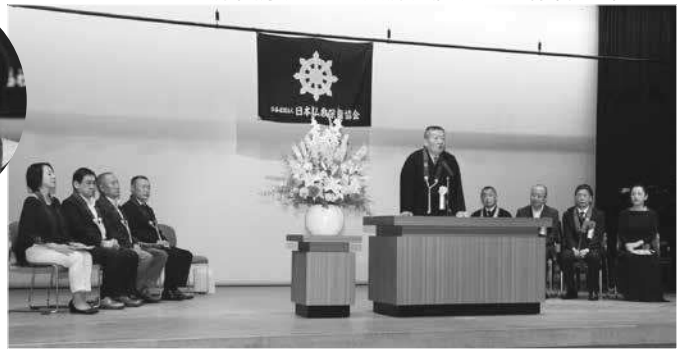
祝辞
加藤昌康先生

東仏保
安藤文隆先生

日仏保
緑谷一雄先生

ピアノ伴奏
森田真帆先生

歌唱指導
吉水知草先生



■開講式

はじめに緑谷理事長の主導で三帰依文斉唱。次いで物故者への黙とうが行われたあと、同理事長から「涼しい朝でしたが生憎の小雨。ご苦労さまです。二日間ではありますが、仏教保育ならではの内容でプログラムは構成されています。仏教保育者として誇りを持ってしっかり勉強してください」と挨拶し、東京仏教保育協会の先生方によるご奉仕に対し感謝の言葉を述べられました。

続いて、安藤委員長から「先ほど皆さんで斉唱した『三帰依文』の言葉、お釈迦さまはどういうお心で唱えていたのでしょうか。こころを広く持つ、慈悲を頂く、そんな思いで唱えておられたように思います。皆さんも心をおおらかにして、慈悲を

頂く、そんな気持ちで頑張ってください」と、激励されました。

次いで、加藤昌康先生から「参議院選挙も終わり、皆さんそれぞれ思う人を選ばれたことでしょう。きょうは涼しいが、これからが夏本番です。暑さにめげず子どもたちのためにも頑張ってください」とお祝辞を頂きました。

「仏教保育の話」

緑谷一雄 先生

（公社・日本仏教保育協会理事長／みどり幼稚園理事長）

「最近の若い人たちが近ごろ考えていること、それは『五輪』と『年金』のことだそうです。オリンピックはともかくとして、『年金』のことを今から考えている、私たちの若い頃は考えたこともないことです。世相を映しているようで、身につまされています。日本仏教保育協会が設立された昭和の初期、世界的な恐慌が吹き荒れたと言います。若い方はその再来を予感しているのでしょうか。そうならないことを祈りつつ、私の話を進めたいと思います。」緑谷先生は壇上でこう前置きされてから講義に移られました。

「仏教保育の三綱領は、日本仏教保育協会が掲げる保育の三本柱です。〝慈心不殺〟は慈しみを持って自分を活かすこと。〝仏道成就〟は仏が教える道を歩くこと。〝正業精進〟は相手の良いところを見つけること。お釈迦さまの言葉を子どもに優しく伝えることが大切です。更に優しく言えば、「慈心不殺」は『明るく』。「仏道成就」は『正しく』。「正業精進」は『仲良く』と子どもたちに伝えてください。つまり仏教保育とは、お釈迦様の言葉を優しく伝えることだと思います。」こう説かれてから、お釈迦様の言葉をいくつか取り上げながら分かり易く説明し、仏教保育の狙いなどに触れて講義をされました。

「世界に弘まる仏教の魅力 ――日常に活かせる教えと実践――」

ケネス田中 先生

（武蔵野大学教授／武蔵野大学仏教文化研究所所長）

仏教は今、変化しています。欧米でも仏教は人気を呼んでおり、アメリカではすでに３０００万人の人々が宗教的・精神的にも仏教に強い影響を受けているという状況です。正に、仏教は宗教の一つとしてアメリカに浸透している、そんな状況です。映画俳優のリチャード・ギア、ゴルファーのタイガー・ウッズは仏教徒として知られています。但し、「信じる宗教」ではなく、「目覚める宗教」であるということが原因の一つ。何故か、それは「ブッダ」とは『目覚める人』だから。また、葬式という儀式はなく、あくまでも「心を癒してくれる」教えとして存在しているということです。田中先生はこのような概況を述べてから、レジメに沿って仏教への改宗者の特徴、例えば「女性の指導者が多い」こと。「科学と矛盾していない」として、アインシュタインの見解を例に出して説明し、アメリカ社会における宗教の重要性、宗教情勢の変化に触れていきました。そして、最近ではアメリカ人の大半は日本の箸を使って麺類を上手に食べるなど、語ってくださいました。

「『絵本』という出会い」

ひろかわ さえこ 先生

（絵本作家）

私は昭和28年生まれ。小樽の出身です。当時は、あまり良い絵本はありませんでした。印象に残っているのは「ちびくろサンボ」という絵本。スコットランドのヘレン・バナーマンさんが自分の子どものために書いた手作りの絵本です。あと、宮沢賢治の『雪わたり』くらいでしょうか。叔父が画家だったので、小さい頃から「絵」は身近に感じて育ちました。アルバイトしながら美大に通い、絵本を作ることを夢みて勉強しました。ひろかわ先生は子どもの時から夢見た絵本作家への道を語り、「絵本は何のためにあるのか。知識のため？想像力を養うため？もちろんそれもあります。しかし一番大切なことは、子どもが幸せな時間を過ごすためにあると思うのです。」と力強くこう述べてから、ご自分の作品（絵本）を読み聞かせてくださいました。受講生たちも大きくうなずきながら聞き入っていました。

「保育を楽しもう」

田澤 里喜 先生

（玉川大学教育学部准教授／東一の江幼稚園園長）

田澤先生はきびきびした動きと爽やかな笑顔で「保育者が楽しい気持ちで保育をすることは大切です。その〝楽しい〟を深めると〝保育の質を高める〟ことにつながります。体を動かしながら、みなさんと一緒に考えましょう」と述べてから、「じゃんけん遊び」から実技に入りました。受講生たちは大興奮です。最後に先生は、「遊びはシンプルな方が楽しいのです。」こう締め括りました。

「豊山保育の根底にあるもの」

大澤 聖隆 先生

（真言宗豊山派保育連合会理事長／世尊院幼稚園名誉園長）

「真言宗は18の派に分化されていますが、保育の根底にあるものは仏さまの教えです。その仏さまの教えを子どもに分かり易く伝え、次代を正しく担えるように育てることが目的です。しかし、『人は人に拠って自分を育てる』と言います。『霧の中を行けば覚えざるに衣温る。よき人に近づけばよき人になるなり』、これは道元禅師の言葉です。平ったく言えば『朱に交われば赤くなる』ということです。善き出会いは『人を変えます』。きょうは、そんなお話をしてみたいと思います」。

大澤先生はレジメを追って諄々と豊山保育の根幹を説いてくださいました。

例えば、幼児は、人（親・保育士・教諭）によって自分を育てていく。「自ら育つものを育てようとする心」それが育ての心であり、それは明るい世界であり、温かい世界でもあると。「育つものと育てるものが互いの結びつきにおいて相楽しんでいる心である」。先生の言葉は聞く人の深奥に染み込んでいくようでした。

「パネルシアターの世界」

髙橋 司 先生

（佛教大学教育学部教授／パネルシアター委員会委員長）

ギターを抱えて登壇した髙橋先生は、はじめに「浄土宗の住職である古宇田亮順師の創案であるパネルシアターは、今年で43年目を迎えます。私は古宇田パネルをそのままお伝えすると共に、保育の中に活かせるパネル、芸術としての観賞用パネルなど、パネルの持つ様々な魅力をお伝えできればと思っています」と述べ、軽妙な話し方で笑いを誘いながら一気にご自分のペースに巻き込んでいきました。ギターを奏で、唄いながら軽快に動かせてパネルの世界に引き込んでいき、会場と一体になって楽しんだ90分でした。

「保育の環境デザインへのアプローチ」

冨岡 量秀 先生

（大谷大学短期大学部幼児教育保育科准教授）

先生のご専門は建築デザイン。物的、人的、文化・社会的見地から、時間、空間の環境や保育現場との関係などを計算しながらデザインへのアプローチを考えるのだそうです。「園舎など施設の環境保育の環境デザインと言ってもアプローチはいろいろあります。きょうは、子どもの『居場所』づくりという視点から、お話ししたいと思います」、冨岡先生は冒頭こう話されてからパワーポイントで映像を追いながら説明してくださいました。

紹介された園舎は立川市の藤幼稚園はじめ数園。藤幼稚園は屋内と園庭との境界線がなく、まるでドーナツのように円形の園舎です。建築学会などからも優れた園環境を持つ園舎として表彰されています。

有名な建築家だから住みやすい・使いやすいとは限りません。あくまで「子どもが主役」でなければなりません。先生はそう力説して子ども『居場所』とは何か、について映像を見せながら語ってくださいました。

「子どもとのふれあいあそび ～リズムあそび～」

松澤 育子 先生

（リズム・リトミック・音楽指導員）

松澤先生は開口一番、「何を導入するにしても『もう一度やってみたい』という気持ちを与えることが大切です」と言い、今回は「先生方みずからが楽しみ、ご自分の園で子どもたちとやってみたい、あるいは、苦手な音楽でも『これなら出来る』という気持ちを持って頂きたいと考え、体を動かしながら学んで欲しいと思えるあそびを紹介したいと思います」と述べて、タオルを使っての遊び、カスタネットでリズムを取りながら体を動かす楽しさを指導されました。

■ 閉講式

「二日間、ご苦労さまでした。天候には恵まれませんでしたが、しっかり学ばれたことでしょう。最後の講座の『遊び』も、ずいぶん変化してきたんだな、と感慨深く見ていました。技術的なことも大切ですが、この場で感じたことも園に持ち帰って役立たせてください」と、緑谷理事長の閉講の挨拶のあと、受講生を代表して吉岡朋香（よしおかともか）先生（岩切東光第二幼稚園・宮城県）に理事長から修了証が授与されました。

吉岡先生からは「講義のどれもが日常に重なり、大変勉強になりました。幼児期という一生のうちの大事な時期に携わる者としてこれからも頑張っていきたいと思います」と謝辞を述べました。

「仏教保育の歌」を斉唱して二日間の幕を閉じました。

「第24回参議院議員選挙」推薦候補者の必勝を祈り「当選祈願法要」を執行!!

平成28年6月28日／大本山増上寺・安国殿

6月28日、公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は大本山増上寺・安国殿において、当協会が推薦する候補者全員の必勝を願って「当選祈願法要」を執り行いました。お導師は樋口威道上人（日仏保・総務部長）が務められました。

安国殿の名称は、徳川家康公の法名『安国院殿徳蓮社崇譽道和大居士』に由来しています。家康公は常勝将軍として知られ、逆風に強い運勢を持った人物でした。その安国殿において候補者の方々の必勝を祈願させて頂きました。候補者の方には緑谷理事長から推薦状と大宝札が手渡されました。参拝できなかった方には、候補者の選挙事務所宛にお送りしました。

祝 第24回参議院議員選挙 ご当選おめでとうございます

7月10日の投開票では、自民・公明の与党が過半数を超す大勝を収めました。公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）がご推薦した15名のうち11名が永田町に凱旋されました。

茲にご芳名を掲げ、謹んでお祝い申し上げます。併せて、子どもたちの明るい未来のために、「仏教保育の振興」に更なるご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

岡田　広（おかだ　ひろし）69歳
参院予算委筆頭理事、元内閣府副大臣
立命館大　茨城

片山さつき（かたやまさつき）57歳
党総務副会長、元参院外交防衛委員長、総務政務官、東大　さいたま市（比例）

大家敏志（おおいえ　さとし）48歳
参院財政金融委員長、元財務政務官、県議、議員秘書、北九州大　福岡

中川雅治（なかがわ　まさはる）69歳
党総務会長代理、元参院議運委員長、党政調副会長、環境次官　東大　東京

二之湯　智（にのゆ　さとし）71歳
党府常任顧問、元総務副大臣、総務政務官、京都市議　慶大　京都

山崎正昭（やまざき　まさあき）74歳
参院議長、元党参院幹事長、官房副長官、県会議長、市議　日大　福井

中曽根弘文（なかそね　ひろふみ）70歳
党県会長、元党党紀委員長、党参院議員会長、外相、文相、慶大　群馬

山谷えり子（やまたに　えりこ）65歳
元国家公安委員長、拉致問題相、首相補佐官、衆院議員、聖心女子大　東京（比例）

末松信介（すえまつ　しんすけ）60歳
党幹事長代理、元党県会長、参外交防衛委員長、財務政務官　関学大　兵庫

園田修光（そのだ　しゅうこう）59歳
社会福祉法人理事長、元衆院議員、鹿児島県議、日大　鹿児島市（比例）

上野通子（うえの　みちこ）58歳
党政調副会長、党県副会長、元文部科学政務官、共立女子大　栃木

※懇話会の方々は名前が太字。
氏名（敬称略）、年齢、現職、主な経歴、最終学歴、出身地

福井 豊信 先生（享年92歳）

（浄土宗天川山寂光院明福寺第三十世・明福寺ルンビニー学園理事長、日仏保参務）

平成28年7月19日、日仏保参務・福井豊信先生が92歳のご長寿を全うし遷化されました。

福井先生は、昭和33年に日仏保事務局次長に就任。以来、事務局長、理事、副理事長、参務を歴任され、仏教保育の振興と団体運営に力を尽くしてこられました。その間、仏教保育研究会での研究をはじめ、保育関係の著書も数多く上梓されています。理論だけでなく保育現場における実践にも大きく貢献されました。

先生は、38年の長きにわたって仏教保育振興に尽くされ、90歳で遷化された日仏保元名誉会長の大谷光照先生を深く敬愛しておられました。その大谷会長に「親鸞聖人のご旧跡を浄土宗の僧が復興したという伝記に感激し、各宗こぞって仏教保育に生涯をささげたいと思います」とお誓いしたと伺ったことがあります。

そのお誓いどおり、福井先生は生涯を仏教保育に捧げてこられました。

茲に、生前のご功績を称え、謹んでご冥福をお祈りいたします。

合　掌

訃報

公益社団法人　日本仏教保育協会
理事長　緑谷一雄
社員一同

村松 康行 先生（学習院大学理学部化学科教授　享年66歳）

平成28年7月2日、かねてより入院・加療中の村松康行先生が薬石効なく逝去されました。享年66歳でした。

平成24年1月17日、大本山増上寺・三縁ホールで開催した当協会恒例の「第41回園長・副園長・主事研修会／第40回主任・中堅研修会」（当時）で、松村先生に「放射性物質食品への影響を正しく理解するために」というテーマでご講演頂きました。ご記憶の方も多いと思います。

当時、福島で発生した原発事故は、『家畜や魚介類、野菜類に至る多くの食材は放射性物質への影響が懸念される』という心無い風評が飛び交い、それらを食する恐れを増幅・拡大させ、地域の産業に塗炭の苦しみを与えました。そこで、村松先生を講師に招き、放射性物質が食品に与える影響についてお話し頂いたのです。

先生のご専門は分析化学。微量元素やアイソトープなど地球環境における分野では世界的な研究者として知られていました。自然界における放射線についての先生のお話は具体的で分かり易く、風評の愚かさ・怖さを説いてくださいました。

惜しい人材の早世が悔やまれてなりません。

茲に、生前のご功績を称え、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合　掌

「お別れ会」

仏教保育振興国会議員懇話会会長
故・衆議院議員 鳩山 邦夫 先生

〈日仏保は供花贈呈〉

平成28年7月12日、東京都青山葬儀所において6月21日に永眠された鳩山邦夫先生（本紙前号№627に訃報掲載）のお別れ会が行われました。

実行委員長の内閣総理大臣・安倍晋三氏、衆議院議長・大島理森氏をはじめとする政・財界や関係団体からの参加者で長蛇の列が続いていました。当協会からはご霊前に供花をお贈りし、当日は古屋吉雄常任理事らが参列して故人を偲びました。

鳩山邦夫先生、長年にわたって仏教保育振興にご尽力いただき、衷心より感謝申し上げます。安らかにお眠りください。

合　掌

暑中見舞

（敬称略）

次号へつづく

台東初音幼稚園
園長 高橋 海有
〒110・0001 東京都台東区谷中5・2・4
電話 03・3822・2431

社福・三井福祉会 三井保育所
所長 三井 雅弘
〒764・0032 香川県仲多度郡多度津町三井3855・1
電話 0877・32・4058

建中寺幼稚園・葵保育園
幼稚園園長 保育園理事長 村上 真瑞
〒461・0003 名古屋市東区筒井1・7・52
電話 052・935・2172

滝川幼稚園
園長 泉 敬之
〒073・0031 北海道滝川市栄町2・7・13
電話 0125・23・2478

学・帯広竜谷学園 帯広幼稚園
園理事長 陰山 正憲
園長 今出 正行
〒080・2471 北海道帯広市西21条南3丁目22・2
電話 0155・35・7122

松尾幼稚園
日仏保副理事長 副園長 日野 昭文
〒615・8296 京都市西京区松室山添町6
電話 075・381・2591

パドマ幼稚園
日仏保理事 園長 金子 英滋
〒380・0847 長野市若松町1028
電話 026・234・5858

学・たから学園 たから幼稚園
園理事長 保森 英士
〒963・8877 福島県郡山市堂前町1・7
電話 024・922・1973

高安寺保育園
園長 小澤 宏
〒183・0021 東京都府中市片町2・4・1
電話 042・364・7651

社会福祉法人 よしの保育園
園理事長 増澤 秀丸
〒198・0064 東京都青梅市柚木町2・312・1
電話 0428・76・0809

宗・延命寺 今泉保育園
日仏保連営審議委員 園長 樋口 威道
〒146・0093 東京都大田区矢口2・26・17
電話 03・3758・0074

幼保連携型認定こども園 萬徳寺保育園
日仏保参務 園理事長 岩堀 法道
〒314・0146 茨城県神栖市平泉2325・1
電話 0299・92・2704

月かげみどり保育園
日仏保理事 園長 浦田 裕人
〒604・8423 京都市中京区西ノ京西月光町19・1
電話 075・821・5010

明徳幼稚園
園理事長 園長 友田 達祐
蓮池 光洋
〒105・0011 東京都港区芝公園4・7・4
電話 03・3431・0592

白菊幼稚園
園長 矢花 真隆
〒158・0083 東京都世田谷区奥沢1・18・9
電話 03・3720・1273

学・本遠寺学園 初山幼稚園
園理事長 町田 順文
〒216・0026 川崎市宮前区初山1・2・1
電話 044・977・5671

円融寺幼稚園
園長 阿 純章
〒152・0003 東京都目黒区碑文谷1・22・22
電話 03・3716・6070

呉あそか幼稚園
日仏保理事 園長 西村 英昭
〒737・0022 広島県呉市清水2・1・26
電話 0823・25・5671

金の峯幼稚園
日仏保理事・東仏保委員長 豊山保育委員長・園長 安藤 文隆
〒165・0022 東京都中野区江古田3・9・9
電話 03・3385・0014

宗・西蔵院 是政保育園
園代表役員 園長 榎本 隆乗
榎本 崇子
〒183・0014 東京都府中市是政3・6
電話 042・361・7452

麻布山幼稚園
日仏保常任理事 園長 麻布 恒子
〒106・0046 東京都港区元麻布1・6・21
電話 03・3453・6710

宗教法人 常徳幼稚園
園長 武田 治恵
〒156・0051 東京都世田谷区宮坂2・10・1
電話 03・3421・2251

学校法人 寿福寺学園
日仏保副理事 園理事長 髙山 久照
〒179・0074 東京都練馬区春日町3・14・24
電話 03・3999・8739

学・高西寺学園認定こども園 多摩みゆき幼稚園
日仏保参務 園理事長 関岡 俊二
〒206・0021 東京都多摩市連光寺2・24・6
電話 042・374・6040

学・清谷学園 日野わかくさ幼稚園
日仏保連営審議委員 園長 清水 博雅
〒191・0034 東京都日野市落川943
電話 042・591・1688

学・善永学園 光輪幼稚園
日仏保常任理事 園理事長・園長 髙輪 真澄
〒144・0047 東京都大田区萩中1・12・7
電話 03・3732・8781

大巌寺文化苑 慈光保育園・大巌寺幼稚園
苑主 長谷川匡俊
〒260・0812 千葉市中央区大巌寺町457・5
電話 043・263・7965

水上わかくりこども園
日仏保監事・園理事長 園長 堪山 泰学
堪山 泰賢
〒379・1617 群馬県利根郡みなかみ町湯原985
電話 0278・72・4120

ふくむろ幼稚園
園長 三浦 宗格
〒983・0005 仙台市宮城野区福室5・11・30
電話 022・258・0026

福島ルンビニー幼稚園
日仏保副理事長 園長 吉岡 棟憲
〒960・1101 福島市大森字南中道47・1
電話 024・545・0816

りんでん幼稚園
園理事長 加藤 法親
〒567・0832 大阪府茨木市白川1・11・1
電話 072・633・1212

八王子ひまわり保育園
園理事長 園長 野上 良仁
野上 浩達
〒193・0944 東京都八王子市館町1628
電話 042・661・3046

むらさき幼稚園
園理事長・園長 家田 光信
〒617・0814 京都府長岡京市今里5・12・9
電話 075・953・0505

永安寺学園幼稚園
日仏保監事 園理事長 金子 聡秀
〒157・0077 東京都世田谷区鎌田3・23・19
電話 03・3709・0400

社福・多善会 北港学園保育所
日仏保参務 園理事長 神谷 周道
〒554・0051 大阪市此花区西島3・26・11
電話 06・6461・7848

瀬田幼稚園
園長 山科 尚巳
〒158・0095 東京都世田谷区瀬田4・10・3
電話 03・3700・0940

鈴蘭幼稚園
園長 梅田 静子
〒158・0093 東京都世田谷区上野毛2・15・15
電話 03・3704・1881

言問幼稚園
日仏保参務 日仏保連営審議委員・園長 小林 昭彦
〒131・0033 東京都墨田区向島5・4・4
電話 03・3622・7771

「気がかりな話題」

◆数年前から、「孤食」や貧困家庭の子どもたちに無料や低価格で食事を提供する「子ども食堂」が増え始めています。その多くは地域のボランティアによって開かれていますが、食材や活動費は寄付などで賄っているようです。東京都内ではおよそ１００カ所が「子ども食堂ネットワーク」に参加しており、支援に乗り出す自治体も出てきましたが、費用や対象となる子どもたちへの周知などの課題も少なくないというが現状のようです。対象者を決めないで子どもの「居場所」として解放しているところも出てきています。貧困家庭の子らへの楽しい「居場所」の『輪』が広がることを願わずにはいられません。

◆近年保育者の資質向上が遡上されていますが、それよりも深刻な問題は「保育者不足」。保育の現場では「質」の云々よりも『必要人数を確保するのが容易ではない』と嘆く声も多く聞かれます。そこで、保育者が育つ園環境を整えることが改めて求められています。保育者の資質として「人間性・社会性・専門性」はもとより、保育指針では倫理観や人間性を基盤とし、教育要領には教師の専門性が謳われています。これからの新たな課題としては、職業人としての倫理観や共感性、協調性など高めることが期待されています。これらは研修だけで培われるものではなく、園内環境の見直しが大切だということでしょう。

事務局日誌

7／1　こどものくに「ひまわり版」編集会議
7／4　「仏カリ」「仏教保育」編集会議
　　事務局会議
7／5　こどものくに「たんぽぽ版」編集会議
7／21～22　「第84回 夏期仏教保育講習会」
　　（大本山増上寺・光摂殿）
7／30～31　「第34回 全国仏教保育福島大会」
　　（福島県郡山市・ホテルハマツ）

編集後記

■雲一つない〝天空の青〟、それが7月のイメージでしたが、今年は少し違うようです。梅雨明けを告げる7月中・下旬でも小雨が続き、台風の接近も報じられています。「お泊り保育」や「夕涼み会」など、園行事を楽しみにしている子どもたちには気がかりなお天気模様のようです■今夏の長雨は24節気の一つで梅雨明けを知らす『大暑』の7月22日も「降りみ降らずみ」の雨に見舞われました。前日の21日から、大本山増上寺の光摂殿で恒例の「仏教保育夏期講習会」が開かれましたが、その日も霧雨が舞い、外気は涼しく会場の冷房が時には寒く感じるほどでした。しかし、全国から集った１４０余名の教諭・保育士たちは元気に講習に臨み、実技では汗をぬぐいながら「所狭し」と体を動かして研修に励んでいました。二日間でしたが、大いに講習の実を上げたようです■増上寺での講習会に次いで、7月30・31日は二年に一度の「第34回全国仏教保育福島大会」が郡山市で開催されました。「合掌の姿に花は咲く～被災地（ふくしま）で学ぶ生命尊重の保育～」の大会テーマに沿って仏教保育に更なる磨きをかけたことでしょう。

（O・I）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島 満
毎月1回1日発行（1部315円）

仏教保育綱領

慈心不殺	生命尊重の保育を行なおう
仏道成就	正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進	よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体¥20,000（8%税込¥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。

ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

仏教保育

9 Sep.

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

「第34回全国仏教保育福島大会」

平成28年7月30日・31日／ホテルハマツ（郡山市）

大会テーマ

″合掌の姿に花は咲く″

～被災地（ふくしま）で学ぶ生命尊重の保育～

福島のお土産色々

7月30日・31日の両日、福島県郡山市のホテルハマツにおいて「第34回全国仏教保育福島大会」【主催：公益社団法人日本仏教保育協会、実施：第34回全国仏教保育福島大会実行委員会】を開催しました。

35度近い激暑でしたが、全国から700余名が参加し、「合掌の姿に花は咲く」の大会テーマのもとで、人間本来の生き方である「向き合う・寄り添う・支え合う」という教えを、講座と実技などで改めて学び、保育に活かす研鑽を積みました。

福島は、原発事故に見舞われ、今もなお多くの方々が過酷な避難生活を強いられています。「被災地の復興状況と課題」と題した大井千加子さんの講演では改めてその酷（むご）さを突き付けられた思いをしました。又、バス3台を連ねて被災地（飯館村）を巡った（11分科会・130名参加）先生たちは荒廃した村の惨状を目の当たりにして、快適・利便さをもたらす原発が怖さと紙一重にあることに生命尊重の保育の要諦を再認識するなど、福島ならではの実り多い大会となりました。

吉永小百合さんからのビデオメッセージ

福島県立安積黎明高等学校の合唱

献灯・献花（須賀川幼稚園園児）

大　塚
大会事務局長

保　森
大会副委員長

神　野
愛知県支部長

品　川
郡山市長

畠
福島県副知事

吉　岡
大会実行委員長

緑　谷
大会委員長

八　木
大会会長

全体会

〔開会式〕

12時30分、八木季生名誉会長を導師としてお迎えし祭壇に向かって全員で合掌礼拝。福島県立安積黎明高等学校合唱団による讃仏歌「いまささぐ」の歌声にのせて須賀川幼稚園児による献灯・献花がしめやかに行われ、三帰依文（パーリ文）の合唱により、「第34回全国仏教保育福島大会」式典の幕は上がりました。

その後、安積黎明高等学校合唱団部長の久保田菜々さんによるメッセージの後、ミニ演奏会「福島より感謝を込めて」と題し、復興ソング「花は咲く」「瑠璃色の地球」の歌声が披露されました。全日本合唱コンクール全国大会で連続36回の金賞受賞の実績を持ち、ＮＨＫ全国学校音楽コンクールにおいても15回の金賞・内閣総理大臣賞などに輝いた伝統ある合唱団です。その限りなく透明なハーモニーに全員が魅了されました。

やがて舞台上に掲げたスクリーンから、女優の吉永小百合さんのビデオメッセージが流れます。「皆さま、ようこそ福島へ。福島の原発被害にはとても心を痛めています。このようなことは二度とあってはなりません。これからの福島のことを皆さんも共に考えてくださったらどんなに心強く嬉しいことでしょう。この全国大会が実りあるものになりますことを、心からお祈りしております」と語りかける吉永さんの言葉は、聴く人のこころを〝共振〟させたようです。そのあと、大塚大会事務局長より、開会の言葉が発声されました。

はじめに、八木大会会長が「この福島で全国大会が挙行されたことに、深い感動を抱いております。私には保育の経験はありませんが、幼児教育は生涯を決する大事な要であります。その大事な教育を担っておられるのが先生方です。これからも頑張ってください」と挨拶されました。

続いて、緑谷大会委員長は「このようにたくさんのご来賓の方々をお迎えし、大勢の先生方の参加を得て本大会が開催できましたこと、有り難く思っております。今は亡き、元日仏保理事長の上村映雄先生が、原発事故発生後に『福島で全国大会を開催して、福島を元気にしましょう』と吉岡先生と話し合って、きょうの日を迎えました。元気があふれ出るようオープニングセレモニーに、心から嬉しく思います。大会テーマに相応しい実りを期待しています」と激励の言葉がありました。

次いで、吉岡大会実行委員長は「皆さま、ようこそ福島・郡山へお越し頂き有難うございます。５年前の大震災による被害での惨状は言葉で表わせるものではありませんでした。そんな折、当時の日仏保・上村理事長先生の励ましのお声を受け、３年前に協会を結成して全国大会開催を約しました。もとより加盟園も少なく、支部結成から日も浅い私どもには、本部のご指導・隣県の大会経験の方々のご協力を得て、今日を迎えることができました。とは申しましてもすべてが手作りです。しかし、熱い思いを込めて準備をし、きょうを迎えました。どうか良い思い出を添えてお帰り頂ければこれに超す喜びはありません。それから、ぜひ当県復興のため、お土産など買って、たくさんお金を使ってください」と会場を笑わせながらも、大勢の参加への感謝と歓迎の言葉を述べられました。

このあと、「古屋賞」並びに「仏教保育精励賞」が八木名誉会長から授与されました。「古屋賞」は永年にわたる『仏教保育カリキュラム』の編集・刊行への労に対し、株式会社エフ・コーポレーションに贈られました。「仏教保育精励賞」は、保育現場において仏教保育に功労のあった先生へ贈られる賞で、寺西俊瑞先生（福島県・白河幼稚園）に贈られました。

古屋賞受賞
㈱エフ・コーポレーション

仏教保育精励賞
寺西俊瑞先生（代理）

ご来賓を代表して畠 利行福島県副知事並びに品川萬里郡山市長からは交々、「福島を全国大会の開催地に選んで頂き感謝します。そして盛大に開催できましたこと、お慶び申し上げます。福島では原発事故発生以来、県民挙げて復興に立ち向かっており、被災者全員が一日も早くかつての住処に帰れるよう努力を続けています。また、女性が働きやすい職場環境づくり、待機児童解消に向けた施設整備への支援など、全力で取り組んでいます。どうか、これからも福島を応援してください。大会の実りの大きいことを心から願っています」とお祝辞を頂きました。

続いて、ご来賓紹介、祝電披露と続き、たから幼稚園・菱沼千紘（ひしぬまちひろ）教諭による仏教保育三綱領主唱のあと、大会を企画・運営された福島支部の労に対し支部旗と感謝状が贈呈されました。引き続き、次期大会開催地となった愛知県の神野哲州支部長（天白保育園・名古屋市）が、「愛知支部を挙げて大会開催に向けて努力し、『仏教保育は愛知でもつ！』（「尾張名古屋は城で持つ」にかけ）の意気込みで取り組みます。２０１８年の夏は愛知で会いましょう。」と大会開催への意気込みを披露しました。全員起立して「仏教保育の歌」を斉唱。大塚大会事務局長の「大会宣言（案）」を満場の拍手で採択されました。

その余韻が静かに漂う中、保森大会副委員長の閉会のことばにより式典の幕が降ろされました。

福島支部へ感謝状と支部旗贈呈

〔講　演〕

大井千加子氏（特別養護老人ホーム「なごみの郷」元職員）による講演のテーマは「被災地の復興状況と課題」です。東日本大震災当時、勤務していた南相馬市にある「ヨッシーランド」という介護老人保健施設が津波に遭い、施設は全壊、入所者の大半が津波で流され、帰らぬ人となりました。大井さんご自身も流されましたが、奇跡的に助かり、入所者を懸命に救出されたそうです。

津波と同時に原発事故が発生。大井さんは絶望の中で入所者と各地をさまよいながらたどり着いた特別養護施設「なごみの郷」に迎え入れられ、九死に一生を得たといいます。以来、津波で流された人たちのご冥福を祈りつつ、自然の猛威から自らのいのち、人のいのちをどう守ればいいのかを、貴重な体験の中から得たデータを示されながら講演されているそうです。「福島に見えた皆さんに学んで頂ければ、との思いで壇上に上がりました」と冒頭で述べられ、当時の映像を示しながら、瓦礫に埋もれた隙間から見える人体、頭皮が剥がれ血まみれで震える人を救出されたお話、声にならないうめき声を前に立ち竦んだというお話など何度も息が詰まりそうになり、涙なしには聞けませんでした。

大井千加子氏

〔シンポジウム〕

シンポジストに、星野英紀氏、千葉公慈氏、戸田了達氏の3名をお迎えし、「現代に生きる仏教」をテーマとしたシンポジウムが開催されました。

『他者の喜びを自らの喜びとする人は、生きることの素晴らしさを施してくれる。逆に、自他の「いのち」を軽視した虐待などの残虐な事件も、私たちが生活している世界で起きている。だからこそ、「いのち・生命尊重・生きる力」とは何かを考えましょう』という、テーマに込められた願いを、シンポジストは三人三様のお立場から、みほとけの教えを諄々と解いてくださいました。

清聴と緊張感の漂うお話しでしたが、時おり笑いを誘い緊張感を適度にほぐす髙木氏の洒脱で絶妙なコーディネーターぶりも見事でした。アッという間の2時間でした。

コーディネーター

髙木正尊氏

曹洞宗永興寺住職、成田保育園園長。日本仏教保育協会研究担当常任理事。

シンポジスト

戸田了達氏

日蓮宗西中山妙福寺住職、妙福寺保育園園長、日本仏教保育協会研究部長、立正大学社会福祉学部講師。仏教情報センターテレホン相談員、日蓮宗相談室相談員として活躍されている。

千葉公慈氏

曹洞宗宝林寺住職、駒沢女子大学人文学部日本文化学科主任教授。専門分野はインド仏教。ＴＶの「お坊さん バラエティぶっちゃけ寺」にレギュラー出演され、得意即妙な会話で人気を博している。

星野英紀氏

真言宗豊山派宗務総長。真言宗豊山派福蔵院住職。大正大学の元学長であり現在は名誉教授で宗教学者として知られている。現在は原発事故被災寺院の調査研究をされている。

懇親会

司会・ペンギンナッツ

フラダンス（小松フラスタジオ）

乾杯・関岡参務

二本松提灯祭り（竹田若連会）

梁川保育園の皆さんによる演舞「白虎隊」

ひょっとこ踊り
（郡山市指定重要無形文化財「高柴七福神踊り」の中のひとつ）

次期大会開催地・愛知支部の皆さん

懇親会

およそ500名近い人がテーブルに着いた懇親会の会場は壮大な眺めでした。日仏保・関岡俊二参務による『乾杯』の挨拶が終わると梁川保育園の皆さんによる「白虎隊」の演舞が舞台で繰り広げられました。鶴ヶ城を眺めながら飯盛山で壮絶な最期を遂げた話は有名です。白虎隊の哀れを誘う詩吟は大塚大会事務局長が吟じられました。

食欲をそそる豪華な料理が運ばれてくる頃には「二本松提灯祭り」が披露されました。この提灯祭りは300年ほど前に『敬神の意を昂揚させるため』に二本松神社を祀り、神輿を収めたことに由来したものだそうです。激しい和太鼓の響きに併せて、舞台狭しと機敏に動く地元の若衆姿は圧巻でした。

アトラクションの最後を飾るのは、地元を代表する小松フラスタジオの皆さんによる「フラダンス」です。ハワイの伝統文化である華麗なフラダンスは、地酒の程よい酔いと美味しい料理とが相まって、一日の疲れも癒されたようです。

吉岡大会実行委員長が「手作りのおもてなし」だと話されましたが、気軽に舞台に上がって歌ったり踊ったりできるのは、正に『手作り』ならではの楽しさがありました。福島支部の先生方、本当に有難うございました。

分科会

翌日は「分科会」です。先生たちはそれぞれ希望する会場で研究課題に臨みました。どの会場にも、福島支部の先生方の気配りが行き届いて、快適に研修の実を上げたようです。

第1分科会「生命尊重の保育を学ぶ」

第2分科会「日常の保育の中の仏教の教えとは」

第3分科会「新制度で仏教保育を生かすには」

第4分科会
「『生きる力』『物語る力』を育てる」

第5分科会
「子どもの食から学ぶ『いのち』を生かす保育」

第6分科会
「障がい児に対する指導と支援」

第7分科会
「保育に生かそう仏教讃歌」

第8分科会
「造形の楽しさと、知っておくべきこと」

第9分科会
「2歳児保育の意味と実践」

第10分科会
「東日本大震災で学んだ危機管理と復興」

第11分科会
特別企画
「原発事故被災地フィールドワークバスツアー」

「第34回 全国仏教保育福島大会」を終えて

大会実行委員長　吉岡　棟憲

去る7月30日(土)～31日(日)の二日間に亘って福島県郡山市を会場に開催しました第34回全国仏教保育福島大会が無事終了いたしました。小さな小さな組織の福島県仏教保育協会が実行委員会を担当しただけに、周囲からは運営に関して心配の声が聞こえてきましたが、特別な失態もなく大成功の中、そして大きな成果を挙げて（自己評価）終了できたのは、これ偏に日仏保をはじめ全国各地からの格別なご支援を頂戴したお陰であります。紙面をお借りして心より感謝し御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

今大会には会費納入参加者629名、懇親会参加者425名ありましたが、大会当日にはご来賓をはじめアトラクション出席者、出店業者、裏方関係などを含めると約800名もの方が会場に来てくれたことになります。これだけ多くの人が足を運んでくれたのかと思うと夢のような二日間だったと今更ながらに感激しているところです。

さて、今回の大会テーマ〝合掌の姿に花は咲く、被災地（ふくしま）で学ぶ生命尊重の保育〟の思いが参加者によく伝わったようで安心しました。開会式には、全国にその名を轟かせている安積黎明高校合唱団が登壇し、讃仏歌や復興ソング「花は咲く」などを披露して参加者の心を洗い、講演では「被災地の復興状況と課題」と題して被災現場の真実を語った大井千加子さんの話に全員が涙し聞き入りました。お楽しみの懇親会は経費をかけない手作りの余興でしたが、保育士たちが踊る会津白虎隊の剣舞や二本松提灯祭りのおはやし、福島を代表する踊りのフラガールによるハワイアンダンスなどを演出しました。自慢の日本酒、福島の地酒の振る舞いもあってか大変盛り上がりをみせた時間でした。

翌日の分科会は11会場を設定しましたが10分科会がホテル内で実施でき好評でした。また、メインとなった「フィールドワークバスツアー・原発事故被災地飯館村視察」には130名の参加があり、バス3台に分乗して著名な講師3名からの話を聴いての研修でした。人が住めなくなり荒廃した村の姿に誰もが驚きを隠せず、一応に「現場を見なければ事故の様子は語れない。原発の問題についても真剣さが増した」と感想を述べ、良い企画であったとのお褒めの言葉を頂きました。

私たち福島県内の加盟園はこの大会を通して一致協力することの大切さを改めて知り、同時に団結すればこのような大きな仕事もできるという大きな自信を頂きました。これからの組織の充実、会の発展につながる仏教保育の絆をいただき有り難く思っています。

皆さまご協力本当にありがとうございました。

智山保育連合会

「第54回智山保育大会」報告

智山保育連合会事務局

智山保育連合会では、毎年夏の時期に真言宗智山派寺院付属の幼稚園と保育園に従事する園長・設置者・保育士を対象に研修会を開催しております。

本年度は、7月23日（土）に総本山智積院別院真福寺を会場として本宗寺院付属の幼稚園・保育園15園、約100名が集い開催しました。

開会式では、緑谷一雄師（日本仏教保育協会理事長）はじめ、安藤文隆師（真言宗豊山派保育連合会会長）、芙蓉良英師（真言宗智山派宗務総長）にご来賓のご挨拶を頂戴しました。また、各加盟園に於いて幼児保育に長く従事された保育士・教諭の功績を讃え「永年勤続者表彰」を行い、開会式を終了しました。

第1講は、高橋英心師（真言宗智山派長樂寺御内）より、写仏のご講義を頂戴しました。参加者は写仏の線を描くたびに、仏さまのお姿に近づいていくことで、仏さまと見守られていることを実感するように一生懸命取り組まれていました。

その後、虎ノ門ヒルズにて懇親会（昼食）を行いました。例年とは趣向を変え、立食パーティー形式での開催でしたが、参加者は美味しい料理に舌鼓を打ち、終始賑やかな懇親会となりました。

第2講は、徳永隆昭師（真言宗智山派成心院御山主・別院真福寺職員）より「躾、今、昔」というテーマにてご法話を頂戴しました。「躾」というとても難しい内容でしたが、平易な言葉でとてもわかりやすいお話に参加者は引き込まれ、30分という時間が非常に短く感じた参加者も多くみられました。

第3講は、諸橋精光師（真言宗豊山派千蔵院御山主）より「紙芝居で伝える仏の教え」というテーマにてご講義を頂戴しました。オリジナルの大きな絵と語りで物語を表現した「超大型紙芝居」を上演いただきながら、先生の創作活動への想いや紙芝居の魅力、そして、子供たちのちいさな心にも備わる〝仏の心〟（仏性）に語りかけ、伝える楽しさと大切さをお話いただきました。

すべての研修プログラムを終え、最後の閉会式では笹沼弘憲師（真言宗智山派教化部長）にご挨拶を頂戴し、大会は盛会の内に終了しました。

末筆ではありますが、限られた時間の中で講師をお勤め頂きました先生方と会場をお貸し下さった別院真福寺の皆様に感謝を申し上げ報告とさせて頂きます。

日蓮宗保育連盟

「第62回日蓮宗保育研修京都大会」を終えて

日蓮宗保育連盟　事務局長
横川 和克（橘保育園・茨城県筑西市）

日蓮宗保育連盟主催の平成28年度第62回保育研修京都大会は『慈悲のこころ』「だきしめよう!!　未来を担う小さないのち」の研修テーマのもとに、7月30日、31日の二日間、京都府京都市「大本山妙顯寺」「グランドプリンスホテル京都」「国立京都国際会館」を会場に開催されました。妙顯寺での保育研修の開催は、まさに54年ぶりであり、日本全国から連盟加盟の幼稚園、保育園、認定こども園、大学等より242名の設置者、園長、教諭、保育教諭、保育士、職員等が参加した。

大会一日目、開会式では参加者による宗歌「立ち渡る」、仏讃歌「蓮の花」の斉唱、大本山妙顯寺貫首 三田村日正猊下を導師に法味言上が厳修された。

また、主催者 荒居養雄理事長の挨拶後、日蓮宗宗務総長 小林順光猊下によりご祝辞、大本山妙顯寺貫首三田村猊下により歓迎の辞を頂戴した。

その後、永年勤続者（管長表彰30年…3名、理事長表彰20年…1名、10年…5名）の表彰、記念写真撮影と続き、開会式は閉式した。

続いて行われた三田村貫首猊下の記念法話では、「（宗門運動のテーマである）《命に合掌》とは、仏さまに守られてある今に感謝すること。みんなが元気に楽しく過ごせるように祈ることが大事です」とご教示いただいた。

記念講演では立命館大学教授・立命館小学校校長顧問の陰山英男氏が登壇。「常識を破って子どもを伸ばす」と題して陰山氏は、「子どもを伸ばすには、早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣が大事。小さいうちからよく食べよく寝て自然のなかでのびのびと遊ぶこと」と述べ、子どもの能力や学力をあげるためには「集中力を養うこと」と強調。正しく集中するコツとして「緊張は集中力を妨げ、人を委縮させる。リラックスを生み出すのは何よりも親や教師、指導者の笑顔。親や教師の笑顔に比例して子どもは伸びていく」と

締めくくった。

また、記念講演と並行して別室にて開催された定例総会では、予定の議案はすべて承認された。

夕食の懇親会では、舞妓さんの踊り、地元の先生方によるじゃんけんゲーム、吉本興業所属の芸人 川上じゅん氏による腹話術などの余興があり、会場は大いに盛り上がった。

大会二日目、京都市蓮久寺住職・三木大雲上人の晨朝法話「怪談説法」でスタート。三木上人は怪談をまじえ「損得で生きるのではなく、美徳の徳で生きる大切さを幼児教育で教えていくことが必要」とお話しされた。

次に「あそびの世界の誘い」と題した記念講演。佛教大学教育学部教授・高橋司先生によるパネルシアターと、シンガーソングライター・ポンちゃんによる歌遊びが披露され、会場は大きな笑いと感動であふれた。

閉会式では、参加者を代表して茨城県たちばな保育園成島美奈子先生から謝辞があり、続いて来年、第63回高知大会の開催地・高知市筆山保育園橋田文妙先生から挨拶をいただき、本大会は無事閉会した。

保育連盟各園では、ほとけの子の育成と未信徒教化を柱に、今後とも社会教化事業に取り組んでいきたい。

浄土真宗本願寺派保育連盟
「第54回まことの保育講座」報告

副理事長　髙輪　真澄

浄土真宗本願寺派保育連盟では毎年8月18日から20日まで京都西本願寺にて「まことの保育中央講座」を開催しています。今年も本願寺阿弥陀堂並びに聞法会館で、北海道から鹿児島まで、各地から集まった経験3年以上の保育者54名が参加しました。この講座は基調講演並びに真宗基礎講座をはさみながら7～8名の班別討議を行いながら、自分の持っている課題を解決していき、そしてそこから新たな「気づき」を導き出そうとする講座です。

今年の基調講演は、元 岐阜聖徳学園大学教授の荒木照子先生の「いのちの豊かな響きあいを支える保育のあり方」というお話でした。子ども・保育者・保護者が互いに響きあいながら育っていくことの大切さを話され、保育のエピソード記録や生活・遊びのあしあと表など実例を挙げながら、記録していくことの大切さを語られました。

真宗基礎講座は龍谷大学講師の小池秀章先生から「浄土真宗のみ教えを学ぶ」と題してお話していただきました。

参加者はこうした講義や班別討議の中から「まことの保育」について深く考え、理解することができたと思います。そして自分一人じゃない、全国にこんなに大勢の仲間がいることを実感したことでしょう。これからは自園に戻って子どもたちと保護者とそして同僚と、実際の保育に生かしていってもらいたいと思います。

暑中見舞

（敬称略）

中野小鳩幼稚園
園　長　根本　定子
〒166・0025
東京都中野区沼袋3・21・7
電話　03・3385・0017

妙覚寺　一之江保育園
園　長　露木　正道
〒132・0024
東京都江戸川区一之江6・19・10
電話　03・3656・5636

大徳寺保育園
園　長　森　義昭
〒603・8231
京都市北区紫野大徳寺町74
電話　075・491・8818

社福いまいずみ 鵜の木いまいずみ保育園
日仏保連営議委員・園理事長　樋口威道
園　長　樋口明道
〒146・0084
東京都大田区南久が原2・30・5
電話　03・3756・0505

日仏保理事
園　長　丹羽　義昭
〒340・0032
埼玉県草加市遊馬町430
電話　048・925・1741

認定こども園　あずま幼稚園

「話題を二つ」

◆過日、書店に平積みされた『聞いてびっくり「あの世」の仕組み』という奇妙なタイトルの本が目についた。著者は予知能力者・松原照子さんという。「死」を考えることは「生」を考えること。「死」を知れば「いかに生きるか」を考えられる、という序章につられて、つい買ってしまった。信じる、信じないはともかく、2、3紹介しよう。

曰く『あの世ではまず、**自らの人生を振り返る映像**を見る』、曰く『あの世に行っても、五感のうち、**嗅覚と味覚は生前と同じ**』、曰く『あの世はすべて**自己管理**の世界。タラタラ過ごしても怒られない』etc…。ざっと目を通したが、「この世で悪さをすると、あの世で怖い思いをする」と感じたりもした。

◆今、日本中に『空き家』が急増しているそうだ。総住宅数に占める割合は13・5％という。核家族化が進み、取り残された父母らが亡くなると住む者は誰もいない。やがて廃屋となり、倒壊の危険性を帯びてくる。「空き家条例」などのルール作りに取り組む自治体が増え、政府もついに住宅基本計画の中に「空き家の利活用促進」を盛り込んだ法案を閣議決定した。

なぜか寂しい話題である。

事務局日誌

8／17～20　真宗大谷派夏期講習（真宗教化センター・東本願寺）
8／18～20　浄土真宗本願寺派「第54回まことの保育中央講座」（本願寺）
8／25　こどものくに「チューリップ版」企画会議
8／26　真言宗豊山派教員研修会（護国寺）
8／27～28　天台宗保育全国大会（博多グリーンホテル）

編集後記

■雨に風、牙を剥いた大自然が列島を食い荒らした暑い夏がようやく去り、草むらから鈴虫、松虫など「秋の虫」の季節が訪れてきました■それにしても、夏とは人の心を狂わせる妖気をもたらせるのでしょうか。埼玉県松山市で見つかった少年の遺体は、中学生を含む5人の少年の犯行だったとのこと。昨年、川崎市で起きた事件を再現するかのようです。絶えない未成年同士の事件には、やりきれない思いです■中学生の自殺が4年連続増加し過去最多、という報道に「どうして？なぜ？」と、心は千々に乱れます。国内全体での自殺者は減少したが、中高生の自殺は増えており、しかも長期の休み明けに集中する傾向があるそうで、夏休み明けが最も多いということです。教員向けの予防教育研修も各地で行われているようではありますが……■この夏、中教審で議論された幼稚園教育要領改訂、保育所保育指針改定に向けた中間まとめが公表されました。かなり具体的な方向性が示されています。今後の検討が期待されます■いろいろあった夏でしたが、秋の夜を心地よく一献傾けながら名月の美しさに酔いしれる……、そんなゆとりを持ちたいものです。（O・I）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島 満
毎月1回1日発行（1部315円）

仏教保育綱領

慈心不殺　生命尊重の保育を行なおう
仏道成就　正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進　よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体¥20,000（8%税込¥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。

ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

日仏保

仏教保育

10 Oct.

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

第34回 全国仏教保育福島大会 シンポジウムより

テーマ「現代に生きる仏教」

高木正尊氏

戸田了達氏

千葉公慈氏

星野英紀氏

去る7月30日、福島県郡山市で開催した第34回全国仏教保育福島大会において「現代に生きる仏教」をテーマに、シンポジウムが行われました（概要は本紙9月号・№629に既報）。

「他者の喜びを自らの喜びとする人は、生きることの素晴らしさを施してくれる。逆に自他の『いのち』を軽視した虐待などの残虐な事件も私たちが生活している世界で起きている。だからこそ『いのち・生命尊重・生きる力』とは何かを考えましょう」というテーマに込められた願いを、高木正尊氏のコーディネートにより3人のシンポジスト（星野英紀氏、千葉公慈氏、戸田了達氏）が語ってくださいました。

「生命尊重」は、言うまでもなく仏教保育の大きな柱の一つです。本稿では、この命題に迫ったシンポジウムを改めて考察したいと思います。

危機管理における三つの課題

（星野英紀氏） 福島は、ご存知のとおり3・11の大震災によって未曽有の原発事故が起こりました。その最大の被災地である飯館村は原発所在地から40キロ離れています。事故発生後、最初の指示が「3キロ以内は屋内退避」というものでした。つまり、外には出るなという程度のものでした。確かに発生現場に近ければ危険だという認識を誰もが持ち、指示どおり屋内で待機していました。しかし、放射能は風次第。風に乗ってどこにでも飛んで行きます。やがて避難区域も拡大されていきました。しかし、リアルタイムでの情報もなく避難勧告・指示なども公表されませんでした。パニックを防ぐという理由もあったのかも知れませんが、それが住民を塗炭の苦しみに追い込むことになりました。そして悟りました。「情報は〝あなた頼り〟ではダメ」自分で判断することの大切さを。特に、子どもを預かっている我々教師たちは、日ごろから危機管理における勉強し、自分で判断するのは当然の務めであると思いました。

淡路・阪神の大地震で家屋倒壊等による仮設住宅避難の貴重な教訓を得ながらも、原発による避難先の仮設住宅等への気配りには生かされていなかったケースもあったようです。幼稚園・保育園では「いざ！」という時に備えて、日ごろから地域との交流を保つことを心がけておくべきだと痛感しました。

何よりも問題なのは「原発」そのものです。住民はこぞって原発設置に反対を唱えましたが、日本経済の大動脈だと、経済界では稼働大賛成で原子力発電所が建立されました。

私たちは仏教を説く立場の者です。皆さんは仏教保育を司る教師です。子どもを守り・育てるのが務めです。『状況判断は自分で。近隣との交流は密に。危険と紙一重の原発は不要』。原発事故で調べ得た三つの今後の課題です。

お釈迦さまの「七不衰法」の教え

（千葉公慈氏） 「合掌の姿に花は咲く～福島で学ぶ生命尊重の保育～」。この大会テーマには、仏教の生命線である生命尊重が凝縮されたテーマだと思いました。「合掌の姿に花は咲く」の花を、私は『いのち』と置き換え『合掌の姿に〝いのち〟咲く』のだと教えられた気がしました。皆さん、どうでしょう？「合掌」というところを『心を寄せる』と読み替えてみませんか？「〝心を寄せる〟姿に〝いのち〟咲く」、素晴らしいテーマだと思いませんか！

仏教における第一の戒律が「不殺生戒」ですから、地球上のすべての宗教の第一戒律に「生命尊重」を謳っていることは実に意義深いことです。

ご当地福島でも多くの方が命を奪われました。しかし、私は

確信しました。先ほどの大井千加子さんのお話を伺っていて『誰も死んではいないのだ』ということを。〝いのち〟は、吹き込むことができるのだと実感できたのです。仏教では『開眼供養』という仏像に〝いのち〟を吹き込む供養があります。もとより、仏像が歩いたり体温を持つなどということはあり得ませんが、そこに〝いのち〟を吹き込めることができるという思いで執り行います。

東日本大震災、恒例のように襲いかかる風水害、テロリストによる無差別殺人等々、目を覆うような悲惨な現実があります。これらを通して今、私たちが考えなくて、いつ考えるのかと。とは言っても、私たち人間は現実と理想の狭間で揺れ動く存在です。その現実の中で、「子どもたちに如何にして理想を伝えていくか」です。理想を追求していく中で、現実から目をそらさず直視し、時には眼差しを高く、時には足元を見ながら、そのギャップを埋めていく…。大事なことです。

皆さん、お釈迦さまの教えでこの世が滅びないための教え、七つあるのをご存知ですか？「七不衰法（しちふすいほう）」という教えです。

（一つ）人々が集まって、よく集会をする国は、永遠に続くだろう。

（二つ）集まって決めた会議は、議決どおり行動すること。

（三つ）古いしきたりや風習を守る人々であること。

（四つ）年上（年配者）を敬う部族であること。

（五つ）子どもを大事にする部族であること。

（六つ）社会を守ってきた祠・社には手を合わせて拝み、供物を絶やさぬこと。

（七つ）よく勉強する人たちを大切にすること。

これらは、現代にも通じる教訓ではないでしょうか。

大人だからこそ子どもが見える。理想を知っているから現実を直視できる。現実を直視しているから理想を追うことが出来る…、そう思います。

出会った人と一緒に歩こう

（戸田了達氏） 私は寺の住職をしながら保育園の園長をしていますが、「保育園があって良かったなぁ」と、つくづく感じています。それは、仏教に興味・関心のなかったお父さんやお母さんに仏教の教えを直接お伝えできるからです。こんな素晴らしいチャンスを頂いたことに、いつも感謝しています。

仏教とは、人が幸せになるための教えだと思います。だから、幸せになりたい人は仏教を学べば良い。そう思っています。

では、私たちが求めている幸せとは何でしょうか。仏教が求める幸せってどのようなことを指すのでしょうか。これが、私のいちばんのテーマなのです。

皆さんは、子どもたちが幸せに育って欲しい、そう願って保育をしておられると思います。では、幸せについて考えられたことはありますか？

例えば、物やお金がたくさんあれば幸せだと思っている人もいるでしょう。健康で長生きされる人もたくさんいます。「でも、お金はない」、その人は不幸なのでしょうか。幸・不幸は、自分の中で勝手に決めているのではないでしょうか。自分が出会った（人・物）ものの中で判断して、この人と出会って良かった、あの人と関わりを持ったばかりにと嘆く出会いもあるかも知れません。

しかし、私たちは出会った人と一緒に歩いていくしかないのです。そこには幸せも不幸せもない、ともに歩いていくしかないのです。出会った人と、ひたすら現実という道を歩いていく、たとえ苦しい道だとしても、それが今の自分の幸せなのではないか。そう思えば、ともに歩く人の尊さが分かるようになります。皆さんは、保育園・幼稚園の先生という職についたのです。そこで出会った子どもたちと全力で向かい合って一緒に歩んでもらいたいなぁ、と思います。

「現代に生きる仏教」きょうのテーマですが、生と死、あるいは人間の悩みや苦しみ、それらをとことん見つめて幸せになる道をお釈迦さまは説かれました。それが仏教だと思っています。

（星野英紀氏） 「仏教福祉」という言葉があります、福祉は宗教、仏教の究極を目指すところです。だが、社会福祉の中では「仏教福祉」は具体的な方法としては成立しないと言います。このことは、日々の保育についても言えるのではないかと思います。様々な保育・教育の中で問題が起きたり課題が出てくる。そんな時、仏教における考え方、理念、方法などで一応問題を解決します。しかし、次の保育の中で起こってくる様々な事象の即回答には繋がらないってこともある。仏教にとって、それはちょっと気の毒に思うことがあります。

ですから、園長先生や主任の先生方が日々研鑽される中で「そうか、仏教ってこうなんだ」と、わざとらしくない日々の教育に生かしていく。それが立派な仏教保育だと私は思います。

（千葉公慈氏） 私は「包まれている」のだと思っています。つまり「保育そのものが仏教に包まれている」。お釈迦さまは80年の生涯のうち51年間にわたる修行生活を送られました。人間教育に捧げた生涯でした。

人は2度死ぬと言います。1度目は肉体の死です。肉体の死は誰も避けられません。2度目は、その死が忘れられるが、生きている誰かに記憶として受け継がれて蘇ってきます。保育とはお釈迦様の智慧を受け継がれた仏教そのものであると提言したいと思います。

（戸田了達氏） 法華経には「あなたも仏さまですよ」と謳われています。

仏教という引き出しがそばにあって取り出せるというものではありません。元々自分の中にあって、人間が生きていく上で大切なものと思っているものを整理したものが仏教だと思います。

したがって、私たちが大事なことだと子どもたちに諭すことは、すべて仏教なのです。ですから、「仏教」そのものが「保育」でもあると思っています。

◇

＊3人3様、それぞれのお立場で仏教・生命尊重について語ってくださいました。

妙心寺派社会事業協会

「社会事業従事者研修会」

川島由里子

7月20日（水）～22日（金）の暑い夏の盛り、二泊三日の日程で開催された。坐禅、朝課、作務、粥座（朝食）と続く一連の朝の行事は例年通りであるが、新しい参加者にとっては、自分と向き合う厳しい時間であったと思う。

今年の特別講座は、ジャーナリストの猪熊弘子先生。会場も本山妙心寺から天台宗青蓮院の書院に場所を移し、畳に座っての講演「『死を招いた保育』が教えてくれたこと」であった。

実際にあった保育中の子どもの事故死を取材されたご経験をもとに、子どもの「いのち」を守る保育はどこにあるのかについてお話下さった。

親が良かれと自ら選んだ園で、わが子を亡くすということがどういうことなのか。

子どもの人生も親の人生も変わってしまうこと。わが子を託す園を自分で選んだということで、親の悲しみは二重に深いものになること。その悲しみは生涯続くこと。そしてそれは、親だけでなく保育者にも言えること。一つ一つ胸に染み入り、私たちが心しなければならないことは、事故が起きたらどうするか（救命）ではなく、事故を起こさない保育のあり方を徹底して考え、実践することなのだと学んだ。

講演の最後に、事故を起こさない保育の根底にあるのは、「当たり前のことを並外れた愛をもって行う」ことだと言われたことが、心に残っている。

講演の後、青蓮院の執事長、東伏見光晋師の法話「空について」をお聞きした。「空」の概念は聞いただけでは把みきれない。しかし過去・現在・未来に捉われず、自分の物差しや分別を放し、あるがままの自分を見つめながら生きることが大事なのだと、師のメッセージを受け取った。

その後、青蓮院門跡と曼荼羅青不動で有名な東山山頂の青龍殿を拝観した。青龍殿は清水寺舞台の5倍の広さを持つ大舞台があり、京都市内一望の景観は圧巻であった。

最後は、ふろしき研究会代表の森田知都子氏のふろしき講座。すたれて居場所を失いつつあるふろしきを復活させ、新しい命を吹き込みたいと精力的に活動されている先生である。ふろしきの歴史や文化的意味に触れながら、実際にふろしきを帽子やリュック、エコバッグやティッシュケースカバーにしたり、瓶や本をおしゃれに包んだりと、楽しく有意義な研修であった。

夏の京都は暑くて大変だが、それに勝る深い学びを得られた三日間であった。

天台宗

「第65回天台保育全国大会 比叡山延暦寺大会」報告

小林昭寛（言問幼稚園）

今年の天台保育全国大会は、8月27日（土）～28日（日）福岡市博多グリーンホテルを会場として開催されました。

九州の天台保育連盟加盟園は4園あります。同地区での初開催ということで、熊本大震災の被害からの復興も道半ばではありますが、加盟園の皆様、及び九州西教区の諸大徳様のご尽力により、無事開催される事となりました。

開会式では、御来賓の天台宗参務社会部長角本尚雄師から、ご挨拶頂きました。角本師の御自坊では、熊本大震災で大きな被害がありましたが、師より、今大会は是非開催をしたいとの強い要望を下さり、様々な面でご尽力ご高配下さいました。

第一講は、玄清法流統管の梶谷隆幸師による「玄清琵琶」についてのお話と、梶谷師及び木戸清賢師による琵琶演奏を拝聴しました。

天台宗の伝承法流の一派である玄清法流は、玄清法印を開祖とし、一千数百年の歴史を持つ

「荒神祭り」を継承しておられ、成就院にて行われる琵琶法楽は、福岡県無形文化財に指定されているそうです。また、様々な場所での公演活動など、新たな取り組みもされているとの事で、伝統と革新の両方に触れ、琵琶の音色に厳粛な心地がしました。

続いての第二講は、落語家で天台宗僧侶の露の団姫（つゆのまるこ）師と、団姫師のご主人様で、太神楽曲芸師の豊来家大治朗さんによる、落語「仏教落語」と講演「まるこ&大治朗の子育てぶっちゃけ夫婦トーク」を拝聴しました。団姫師はテレビ番組「ぶっちゃけ寺」の出演で有名になりましたが、天台宗の僧侶として、落語を通じて様々な活動をしていらっしゃいます。また、大治朗さんとの講演では、お二方の人柄そのままの、親しみやすく飾らないお話しに、聴衆も引き込まれ、たくさんの質問が出ました。

夕食懇親会では、清興の大治朗さんによる太神楽曲芸にドキドキしたり、和やかな雰囲気の内に、各地域の先生方との懇親を深めることができました。

翌日は、妙香庵を参拝しました。庵は、宗祖伝教大師最澄様入唐の際、航海の無事を祈願し、帰国後に発願された全国六所宝塔のうち、九州守護の為に建てられた安西宝塔があった宝満山の麓にあります。そちらには、最澄様が帰国の折お世話になった横大路家に贈られた、「千年家の火」が現在護持されており、遥かな時空を超えた求道の心に触れ、改めて身の引き締まる思いがしました。

その後、太宰府天満宮を参拝し、内容の濃い二日間の研修を終えることができました。

研修期間中、天台保育連盟の九州地区の加盟園各位、九州西教区の諸大徳様、連盟事務局の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

真言宗豊山派保育連合会

「第61回教職員研修大会」報告

事務局長　水野義昭

8月26日（金）、猛暑の最中、真言宗豊山派保育連合会第61回教職員研修大会が109名の参加で行われました。本研修会は毎年夏季に、真言宗豊山派宗務所での一日研修と全国各地で行なう地方研修（一泊二日）を1年おきに開催しています。

開会式では参加園代表による献灯・献香・献華の後、御導師に真言宗豊山派管長・豊山派保育連合会名誉総裁の田代弘興猊下をお迎えし、全員で懺悔文から般若心経、回向文までのおつとめを行ないました。

次いで安藤文隆会長より激励の言葉をいただき、続けて永年勤続者表彰で10年及び5年勤続の先生23名が表彰されました。猊下よりご垂示で「私の保育園も昔、この連合会に加盟し、また人形劇団ピッコロを主宰して全国の園を訪問したことを懐かしく思います。そして、現代は多難な時代ですが仏教保育を大きな基盤として、幼児教育に専念してください。」とお言葉をいただきました。

閉式の言葉の後、猊下とご来賓の先生方と共に記念撮影をし、第一講の3階会場に移動。

第一講は露の団姫先生（落語家・天台宗僧侶）の仏教講話『仏教落語』と『仏教に学ぶ子育て』。前編は先生の新作落語で、青年が亡くなってから巡り会う多くのほとけ様とその意味を面白く、そして、わかりやすく語られ、「自分の役割を自分の持ち場で頑張る」ことの大切さを感じさせる内容でした。後編もお釈迦さまの教え「すべての命は平等であり大切にしなければならない」を心に刻み、とらわれのない心が幸せになる秘訣であり、その心を育むことこそが子育てだと結ばれました。語り口の巧みさと心のこもったお話しぶりは、人と人の接し方に大きな参考となるものでした。

第二講、食事作法『食の大切さ』は根本一弘先生（中野小鳩幼稚園園長）より、食べ物を粗末にしないこと、「食」とは愛

情をいただくことであると教示され、合掌・食前のことばで昼食の時間となりました。

午後の第三講は、福田りゅうぞう先生（あそびダンス作家）による保育実技『保育に役立つあそびダンス・遊び歌』。全国各地で親子コンサートや幼稚園・保育園・子育て関連施設などでご活躍の先生は元気いっぱい。「アキレスケンタウルス体操」「ポップコーン」「じしゃくのパワー」等々、ジャンプ、ふれあいあそび、リアクションを楽しむ等々、子どもたちと楽しく体を動かすヒントが満載。保育士であった先生の体験を通して組み立てられた講義は、子どもの言葉と行動をしっかり見つめながら、響きあう保育がいかに重要なのかを実感させられた内容でした。

閉会式では参加者代表に修了証が授与され、そして、代表よりお礼の言葉が述べられました。大澤聖隆理事長の「保育の現場を大切にし、思いやる心・仏心をもって子どもたちに接してください。」の言葉と、来年度の本山長谷寺での研修大会開催を告知し、本大会を終了しました。

最後に、恵まれた会場をご提供いただき、また会場設定にご尽力いただきました真言宗豊山派宗務所の皆様に厚く感謝申し上げます。

真宗大谷派
「第60回仏教大学保育講座」

五島　満（銀の鈴幼稚園）

仏教保育大学講座は、8月1日（月）～8月4日（木）にわたり開催され、真宗十派からなる真宗教団連合会の主催により第60回を迎えた。今回は浄土真宗本願寺派の担当によって運営され、大勢の保育者が全国から参加した。

本講座は初年度から5年未満程度の職歴の保育者の講座である。ただ単に保育技術や方法論を学ぶためのものではなく、日々の保育の中で人と向き合い、自分を見つめ、自らの人生に目覚めて生きることを開設の願いとしている。

西本願寺御影堂で開講式が行われ、その後、五十嵐雄道先生より、ホスピス活動を通じた、〝いのち〟についての基調講義をいただき、四日間の講座が始まった。その後は龍谷大学、ホテル洛兆にて、基調講義や日々の保育を振り返り、班別討議、全体討議を繰り返しながら研鑽を深めた。二日目の夜には工夫を凝らした保育者ならではの楽しい夜のつどいも行われた。

平成29年度 幼児教育関係概算要求の概要

文部科学省は過日、平成 29 年度予算概算要求・要望を財務省に提出しました。幼児教育振興における要求趣旨として、『幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることに鑑み、幼児教育無償化に向けた取り組みを段階的に進めるとともに、幼児教育の質の向上及び環境整備を促進することにより、幼児教育の振興を図る』と謳っています。

幼稚園関係では、私立高等学校等経常費助成費補助の一般補助として 303 億円 (前年度比 8 億円増) を要求し、園児一人当たり単価 23,523 円で前年度と比して 1．2 %増になっています。幼児教育振興全体では 475 億 8,300 万円を計上しており、このうち就園奨励費については前年度と同額での事項要求となっています。

1）幼児教育無償化に向けた取り組みの段階的推進（事項要求）

・就園奨励費

32,272 百万円（32,272 百万円）

８月に開催された「幼児教育無償化に関する関係閣僚・与党実務者連絡会議」で取りまとめられた方針を踏まえ、幼児教育無償化に向けた取り組みを「環境整備」と「財源確保」を図りながら段階的に進めることとし、その対象範囲や内容等については予算編成過程において検討するとしています。

2）幼児教育の質の向上

736 百万円（254 百万円）

◆幼児教育の質向上推進プラン

222 百万円（222 百万円）

①幼児教育の推進体制構築事業

203 百万円（203 百万円）

地域における幼児教育の質の向上を図るため、地域の幼児教育の拠点となる幼児教育センターの設置をはじめ、幼稚園・保育所・認定こども園等を巡回して助言等を行う「幼児教育アドバイザー」の育成や配置など、自治体における幼児教育の推進体制の検討・整備を行う。

【委託事業→都道府県・市町村】

②幼児期の教育内容等の深化・充実調査研究

19 百万円（19 百万円）

効果的な指導方法や実効性のある学校評価など、幼児期における教育内容等について、より深化・充実するための調査研究を実施する。

【委託事業→都道府県・市町村・大学、教育研究団体等】

◆幼稚園の人材確保のための取り組みの推進

389 百万円（新規）

幼稚園に優秀な人材を確保するため、人材登録制度の構築や離職防止をはかる研修など先導的な取り組みを支援するとともに、事務の負担軽減を図るための ICT 化を支援し、幼稚園教員が働きやすい環境を整備する。

①幼稚園の人材確保支援事業　　108 百万円（新規）

【委託事業→地方公共団体・幼稚園関係団体】

②園務改善のためのＩＣＴ化支援

281 百万円（新規）

【補助率→国３/ ４　事業者１/ ４】

◆幼稚園教育要領の普及・啓発

116 百万円（22 百万円）

幼稚園教育要領について、各幼稚園が適切な教育課程を編成し実施する上での参考資料を作成するとともに、新幼稚園教育要領の改訂の趣旨や理念等について、周知・徹底を図る。

3）幼児教育の環境整備の充実

14,575 百万円（5,637 百万円）

◆認定子ども園等への財政支援

13,072 百万円（5,136 百万円）

認定子ども園等への施設整備・園舎の耐震化・防災対策に要する経費の一部を補助するとともに、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有促進や研修等の実施費用を支援する。

【負担割合→（認定こども園施設整備の場合）
国１/ ２ 市町村１/ ４ 事業者１/ ４】

◆私立幼稚園の施設整備の充実

1,503 百万円（501 百万円）

緊急課題となっている耐震化に取り組むとともに、学校法人立幼稚園等の施設のアスベスト対策・防犯対策やエコ改修等に要する経費の一部を補助することにより、幼稚園の環境整備を図る。

【補助率→１/ ３（Is 値 0.3 未満１/ ２）】

平成29年度 保育対策関係概算要求の概要

厚生労働省は過日、平成 29 年度予算の概算要求・要望を財務省に提出しました。待機児童の解消に向けた整備量の拡充とともに、切れ目のない保育利用を支援する構成が強く打ち出されています。

●「入園予約制」で育児休業の中断を解消。●「サテライト型小規模保育事業所」で３歳児の行く先確保。●「保育専門調査官」を配置し保育所保育指針の改定の周知等々です。「ニッポン一億総活躍プラン」の３本の矢の一つである「夢をつむぐ子育て支援」が掲げられており、総額では前年度比 8,108 億円（2.3％）増の 31 兆 1,217 億円となっています。

■ 第２の矢「夢をつむぐ子育て支援」

１）待機児童の解消

◆ 保育の受け皿の拡大
（712 億円《うち当別会計 24 億円》）

●待機児童の解消に向け、「待機児童解消加速化プラン」に基づき、平成 29 年度末までに必要となる保育の受け皿を確保するため、保育園等の整備などのよる受け入れ児童数の拡大を図る。
●保育園等の設備等の際に地域住民との合意形成を進める自治体・保育園等における「地域連携コーディネーター」の配置を支援する。

◆ 多様な保育サービスの充実（126 億円）

●０歳児の育児休業終了後の「入園予約制」の導入を支援する。
●３歳児以降の継続的な保育サービス確保のため、３歳以上の子どもの受け入れに特化した保育園等における３歳未満対象の「サテライト型小規模保育事業所」の設置を支援する。
●「放課後子ども総合プラン」に掲げる平成 31 年度末までに約 122 万人分の受け皿を確保するという整備目標の 30 年度末までの達成を目指す（計画の前倒し）とともに、放課後児童支援員等の人材確保対策などを推進する。

◆ 保育人材確保のための総合的な対策
（330 億円《うち特別会計 130 億円》）

●２％相当の処遇改善を行うとともに、保育士としての技能・経験を積んだ職員について、全産業の女性労働者と賃金差がなくなるよう、４万円程度の追加的な処遇改善を実施する。
●保育士の宿舎を借り上げるための費用を支援する「保育士宿舎借り上げ支援事業」について、その対象要件（保育園等に採用されてから５年間）を見直し、対象者を拡大する。
●人材情報サイトの開設による求人情報の提供、就職希望者向けの保育園等の見学会の開催など、新卒の人材確保や潜在保育士の再就職支援、就業継続支援の取り組みを行う市町村を積極的に支援する。
●保育、看護、介護の各分野における人材確保のため、全国の主要なハローワークに設置された「福祉人事コーナー」を拡充するとともに、関係機関との連携強化を図るなど、就職支援の取り組みを強化する。
●保育事業主による「魅力ある職場づくり」のための雇用管理改善の取り組みについて、助成金の拡充を行う。

■ 総合的子育て支援の推進

◆ 妊産婦から子育て期にわたる切れ目のない支援の実施（207 億円）

●分娩施設が少ない地域において、新規に開設する場合や産科等を増設する場合等の費用を支援する
●子育て世代包括支援センターの全国展開に向け、その施設促進を図るとともに、地域の実情に応じて産前・産後サポート事業、産後ケア事業を実施する。

◆ 児童虐待防止対策の強化・社会的養護の推進
（1,411 億円）

●児童相談所、市町村の体制の強化及び専門性の向上を図り、相談機能を強化する。特に、児童相談所等における弁護士等の活用の促進や、市町村における要介護児童等への支援拠点の運営支援、要保護児童対策地域協議会の機能強化を図る。また、児童相談所全国、共通ダイヤル【１８９】の利便性向上のための更なる改善を図る。

＊この他「ひとり親家庭等の自立支援の推進、児童扶養手当や就学等に必要な資金など、効果的な支援策を打ち出しています。（2,079 億円《うち特別会計 59 億円》）

子どもの〝いのち〟を守るための防災対策

9月は防災の月。

各所で防災訓練やその対策についての講習等が行われました。どちらの幼稚園・保育所でも「いざ！」というときの備えに対策を講じておられることでしょう。日本は地震大国。何処の地域にあっても「安心・安全」な場所はないとか。子どもたちの〝いのち〟を守る対策は十分でしょうか？

今、『家族で学ぶ地震・防災はじめの一歩』著者：大木聖子（慶応義塾大学准教授・地震学者。東京堂出版）という本が，売れ行きを伸ばしているそうです。その引用で恐縮だが、一部を紹介しましょう。

●保育室の中で危険なもの

・時計が落ちてくる・蛍光灯が落ちてくる・窓ガラスが割れる・本棚が倒れてくるｅｔｃ・・・（普段から、蛍光灯や本棚、ロッカーなど、危ないものを意識しておくこと）。

●おうちの中で気を付けること

・家具は絶対に手で押さえないこと。（棚は固定する。揺れの最中は、絶対に手で押さえてはいけない）・キッチンには食器棚、電子レンジなどに注意などｅｔｃ・・・（食器棚の扉は揺れても開かないような対策を。重い家電は粘着テープなどで固定する）。

こうした具体的な対策を普段から子どもたちに意識付けられるように，ゲーム感覚で遊びながら学べる対策が満載されています。

事務局日誌

9／13　「仏カリ」「仏教保育」編集会議
　　事務局会議
9／27　こどものくに「たんぽぽ版」編集会議

編集後記

■今年のノーベル医学生理学賞が東京工業大学の大隅良典栄誉教授に贈られました。受賞理由は「オートファジー（自食作用）の仕組みの発見とか。難しいことは分かりませんが、病気治療の開発への道に繋がるのだと言います。日本のノーベル賞受賞は昨年に続いて25人目だそうで、同胞に身を置く者として誇らしい思いに尽きます■3年ほど前、第32回夏季五輪の開催が東京に決まりました。二度目の東京オリンピックがもたらす経済効果もさることながら、子どもに夢や希望与えてくれる。加えて、その国の歴史に残る国家的なイベントとして国民は喜びに沸いたものでした。その開催に伴う建造物をはじめ、費用等で議論が交わされています。子どもたちの夢・希望を壊さないでと、心から願います■明治の初めに義務教育が国民に課され、国は親の貧富や職業に関わらずすべての子どもに等しく教育を受けさせる方針を定めました。それから一世紀余が過ぎ、教育レベルの高い国になりました。そして未就学でも幼・保で保育・教育が受けられる時代へと移ってきました。今、待機児童問題が姦しく吹き荒れています。運動会で湧く季節。青空の下、すべての子どもたちが活気にあふれる歓びの声が聴きたいと願っています。（O・I）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島 満
毎月1回1日発行（1部315円）

仏教保育綱領

慈心不殺	生命尊重の保育を行なおう
仏道成就	正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進	よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体¥20,000（8%税込¥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。

ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

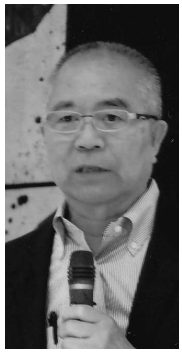
仏教保育

11 Nov.

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

〝認定こども園〟が担う、これからの役割

全国認定こども園協会理事長　若盛　正城（こどものもり・まつぶし幼稚園園長／埼玉県北葛飾郡松伏町）



幼稚園・保育所等における就学前の子どもに対する教育・保育並びに保護者への子育て支援の総合的な提供を行う仕組みとして創設された「認定こども園法」が、今年の10月で10年を迎えました。そして、昨年4月には「子ども・子育て支援新制度が」がスタートしました。その制度について、内閣府子ども・子育て本部では過日「幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に関する検討会」を開き、利用する世帯や利用時間の幅への配慮、子ども一人ひとりへの対応など「認定こども園」のあるべき未来の姿について論議を交わし、審議のまとめ案を近く公表することになっています。

その内容の一部では、幼稚園教諭と保育士資格を一本化に向けてどのようにしていくのか、さらにはより質の高い教育・保育を目指す現職の教諭や保育士の研修の在り方なども検討されています。また、幼稚園教育要領と保育所保育指針における指導要録なども統一されていく方向にあり、制度上では幼保の統合、あるいはその垣根がなくなる認定こども園時代に進みつつあります。

そこで本稿でも「認定こども園」創設10年を機に、認定こども園の誕生の背景、認定こども園が担う役割や目指す未来像などについて「認定こども園のこれから」としてその役割を考察していきたいと思います。

認定こども園の誕生

平成18年10月、「就学前の子どもに関する教育・保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が制定されました。これが「認定こども園法」として施行され、「認定こども園」がスタートしました。以来、今年で10年目を迎えることになりました。

当時の合同会議の「審議のまとめ」によれば、総合施設モデル事業評価委員会の「最終まとめ」には、新たなサービス提供の枠組みなど、総合施設の基本的な姿が明確に示されています。その一部（概要）を紹介します。

- 親の就労の有無・形態などでの区別はせず、就学前の子どもすべての子育て家庭を対象とする
- 幼稚園（教育）機能、保育所（保育）機能を併合する
- 子育て支援に関しては親の肩代わり支援よりも、親の育ちを支援する
- 保育者については幼稚園教諭免許と保育士資格を併用することが望ましい
- 教育・保育内容については、幼稚園教育要領と保育所保育指針を踏まえるとともに、新たにガイドラインを定める、等々・・・。

類型は四つ。

1幼保連携型（幼稚園と保育所が連携し、一体的な運営を行うことで、総合施設としての機能を果たすタイプ）。

2幼稚園型（幼稚園が機能を拡充させることで総合施設としての機能を果たすタイプ）。

3保育所型（保育所が機能を拡充させることで総合施設としての機能を果たすタイプ）。

4地方裁量型（幼稚園・保育所のいずれの認可もないが、地域の教育・保育施設が総合施設としての機能を果たすタイプ）。

これらの内容を制度化するために、認定こども園に関する法律案が平成18年3月に国会に提出され7月に成立、同年10月から施行されました。

新制度施行で移行増大

こうして誕生した認定こども園でしたが、当初の移行は90園ほどしかなく、27年度あたりから徐々に増え、今では4000園を超える広がりをみせています。文部科学省が策定した「第1期教育振興基本構想」には「平成24年度までに2000件以上を目指す」とあ

り、大都市並びにその近郊都市部では行政からも移行への要請を促しましたが、結果はその半数にもおよびませんでした。

しかし、平成27年度の「子ども・子育て支援新制度」の施行後は一気に倍近い伸びを見せ、翌28年、つまり今年に入ってから４０００を超す勢いを見せています。

認定こども園は先にも触れたように１幼保連携型、２幼稚園型、３保育所型、４地方裁量型の四つのタイプが認められていますが、この四つのタイプに関係なく基本的には同じ財政措置によって講じられるようになったことがあげられると思います。

例えば、新制度施行以前の財政措置は認可施設部分だけが対象となっていました。つまり、幼保連携型以外の幼稚園型とか保育所型は、幼稚園部分では私学助成、保育所部分には運営費がそれぞれに交付されましたが、幼稚園型の保育所機能部分とか保育所型の幼稚園機能部分は認可外の機能なので私学助成や運営費などは適用されませんでしたし（学法、社福は安心子ども基金から事業費が補助されていた）、地方裁量型においても国からの財政措置はなかったのです。新制度になって初めてタイプを問わず施設型給付が１～３号認定に応じて支給されるようになりました。それが、既存の施設から認定こども園への移行が進んだ理由だと考えられます。

それと、社会福祉法人立の認可保育所からの移行が増えてきました。昨年は１０００園に満たない状況でしたが、今年に入って１６００近い園が移行しています。保育所の運営に比して直接契約できる認定こども園に魅力を感じたものと思われます。それと、需給調整の特例が認められたこと、また女性の就労が増えてきて保育所志向が多くなったこと、少子・高齢化の加速など、社会の構造が変化していくことへの危機感はどの地域においても拡大しています。地域における共助・共生に向けた取り組みの必要性や新しいビジョンが求められています。

認定こども園あるべき姿

子ども・子育て本部が10月５日に開いた「幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に関する検討会（座長・無藤 隆＝白梅学園大学教授）では、認定こども園における研修の重要性をはじめ、地域における拠点としての役割などを明確にすべきとの意見も出されています。また、幼稚園教育要領並びに保育所保育指針の改定に大きな変更がなければ、具体的な改訂案をまとめて平成28年度中に大臣告知することにしています。その検討会での審議のまとめ案は、序文を含む4部構成からなっていて、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂の背景に触れてから、幼稚園教育要領や保育所保育指針の改訂との整合性、子ども・子育て支援新制度の移行への対応などを示しています。その中で、幼保連携型認定こども園として配慮すべき事項として、①在園時間が異なる多様な園児がいることへの配慮、②２歳児から3歳児への移行にあたっての配慮、③子育て支援にあたっての配慮、などが挙げられています。

また、同じく検討委員である秋田喜代美東京大学大学院教授は、研修の重要性について「研修や資質の向上はもとより重要だが、研修の体系化など全体の仕組みを作る必要性についても言及すべきである」と指摘しています。

また、さらに委員である鈴木みゆき和洋女子大学教授は、『地域のハブ的な機能』という表現については、「幼稚園について地域の幼児教育のセンターと称するような明確な表現があって良いのではないか」と、問題提起をしています。認定こども園は地域に根差した活動が重要だという理念を盛り込むことの必要を求めた委員もいます。

無藤座長は「焦点が定まった中での深い議論が出来たと評価し、「未来を志向するあるべき『認定こども園』の姿を示せたと思う」と締め括っています。

また女性の就労の増加、少子・高齢化の加速など、社会の構造が変化していくことへの危機感はどの地域においても拡大しています。地域における共助・共生に向けた取り組みの必要性や新しいビジョンが求められています。

認定こども園に期待される役割

こうした背景を受けて、当全国認定こども園協会では、内閣府をはじめ行政関係者や教育・保育の専門家のアドバイスをいただき、認定こども園を設立する園長・設置者をはじめ保育関係者等へ制度運営や次代を担う子どもたち一人一人の主体性を生かした質の高い教育・保育への情報を発信し、講習会や研修会を実施しています。この度の情報もその一つとしてご紹介するものです。

認定こども園の未来のリーダーを育成するため、全国認定こども園協会(若盛正城代表理事)は去る８月22日～24日の三日間、福島県二本松市において「次世代リーダー育成研修会」を開催しました。この研修会は昨年に続いて2回目であり、今回は厚生労働省年金局長・鈴木俊彦氏、慶応義塾大学教授・駒村康平氏、中央大学教授・宮本太郎氏、関西大学教授・山縣文治氏、保育システム研究所代表・吉田正幸氏らを講師に迎え、10年先を見据えた認定こども園の役割や地域社会との関わりなどについて学びを深めました。

以下はその研修会の内容をもとに紹介し、本テーマの参考とさせていただきます。

『10年先を見据えた地域社会と認定こども園に期待される役割は』（社会の変化に対応し持続可能なまちづくりの視点を）より。

・資料「株式会社遊育」（発行人吉田正幸氏／№18・9／26）抜粋のもと転載

「地域共生社会と認定こども園の未来」より

●子ども・子育て支援新制度施行前、厚生労働省の少子化対策担当審議官として基準策定等に携わった鈴木俊彦年金局長の講義。

ご自身が積極的に関わった省内の「新たな福祉サービスのシステム等の在り方検討プロジェクトチーム」や、同チームの問題意識を発展させた「我が事・丸ごと」地域共生社会実現

本部などの取り組みを紹介しながら、大きな視野で認定子ども園の今後と地域社会を捉えることの必要性について説かれました。

少子化対策やひとり親支援、妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援を検討し、低所得者対策を考える中で、これだけ日本の福祉制度が発展し、事業が高度化・一般化しているにも関わらず、「実際に困っている世帯や人々にジャストミートの支援が行われていないではないかとの懸念がぬぐい切れなかった」と新たな福祉サービスを考えるに至った問題意識を明らかにされました。

そこから、本当に支援が必要な人にジャストミートで支援を届けるためには、自分の地域にはどのようなニーズがあり、今後どのように推移していくのかをリアルに認識し、オーダーメイドの仕組みを作って実現することだと指摘され、そのことが地域づくりにも繋がると説かれました。

「10年先を見据えた地域社会と認定こども園」より

●鈴木局長のほか、慶應義塾大学の駒村康平教授、中央大学の宮本太郎教授、関西大学の山縣文治教授、保育システム研究所の吉田正幸代表がパネラーとなったパネルディスカッションが行われ、同協会理事の正本秀宗むさしこども園理事長がコーディネーターを務められました。

○**「認定こども園は子どもの可能性を広げる仕組み」**

●慶應義塾大学の駒村康平教授は、「経済学は人々の生活の満足度を高める学問である」と述べ、いち早く二元行政のおかしさに気づき、先駆的に取り組んできた認定こども園は、保護者の働き方に関係なくすべての子どもを受け入れており、子どもの可能性を広げる仕組みであると指摘されました。その上で、現在の若年層の出生率は上昇傾向にあるが、親になる人の絶対数が減っているので子どもの数は増えないと断言し、団塊ジュニア世代が出産適齢期となる前の2000年代に、子ども・子育て支援新制度は成立すべきだったと振り返りました。また、少子化に歯止めをかける政策とともに、誕生した子どもが健やかに育つ支援策も必要として、地域での取り組みの必要性を指摘されました。

●関西大学の山縣文治教授も、将来的には年間の出生率が50万人となる時代が到来すると人口減少社会に言及した上で、地域や施設類型によって施設の将来像は異なると説かれました。少子高齢化社会においては、仕事を求めて人口移動が進むため、女性は働かざるを得ないので地方都市では人口減少に拍車がかかり、幼稚園経営が難しくなると分析。今後の認定こども園は教諭と保育の用語の混乱を整理した上で、内容の充実を図るべきであると指摘されました。さらに、今後の認定こども園は子育て支援が義務付けられていることから、利用者支援事業も取り込み、地域における子育て支援の包括センターを目指すべきだと力説されました。

●中央大学の宮本太郎教授は、子ども・子育て支援施策と経済の関係について言及し、日本はこれまで子ども・子育て施策が政治的には重要な位置付けではなかったが、いち早く労働力減を体験したスウェーデンでは、就労に関係なく就学前保育施設を利用できるようにした結果、経済的にも成長したことを紹介した後、子ども・子育て支援新制度のスタートによって日本もようやくスウェーデン並みに子ども・子育て支援が重要施策に位置付けられたことを評価する一方、人口減少社会に向かうからこそ、子どもへの投資が必要だとして、就学前教育の質向上のために資格の共有化、専門性の向上などへの投資の必要を説かれました。今後の認定こども園に対しては、子どもへの投資は将来的に数倍に跳ね上がってくるとし、消費増税だけでなく幅広く子ども分野に財源を投入する方策を検討するように訴えられました。

●保育システム研究所の吉田正幸代表は、グローバルな視野で社会を捉えることが必要だと指摘し、子どもや若年人口の減少や大都市への人口集中などの異常を変えるには、スタンダードだと思っていた社会への認識を変えるべきと説かれ、社会保障では地域包括の考え方で地域をどう活性化するかが重要であると話されました。また、子どもにとってどのような機能が必要なのか、機能中心の考えで施設運営を見直すよう求めました。

「保育所・幼稚園の行方と、認定こども園の未来」より

●山縣教授は、地域によって少子化の進展が異なることなどから、保育・教育施設はその類型によって今後の動向に大きな影響があり、今後の出生数については、10年後は10万人、20年後には20万人減になると指摘。幼稚園ではすでに人口減の影響受けているが、保育所は影響を受けつつあり、これまで園児数が最も多かった民間幼稚園の園児数が民間保育所を下回っていることであることを解説されました。また、3歳未満児の保育や長時間の保育が求められる中で、教育だけを行う幼稚園として存続することの難しさにも言及し、幼稚園が創設された時代と社会状況が異なる現在の状況の中で、新たに園を開設するとしたらどのような機能が求められるかをゼロから考えるように話されました。さらに、幼稚園における建学の精神を掲げる前に公共性を考えることが望まれると提言。

「子ども・子育て支援施策の課題と可能性」より

●保育システム研究所の吉田代表は、制度改革が求められた背景として、少子高齢・人口減少社会の到来や女性就労の増大と非正規化、家庭・地域社会の機能低下といった社会構造の変化をデータを基に、①少子化社会に関する政策、②女性就労に関する政策、③子ども環境に関する政策、という三つの側面から説明があり、今後の政策的な課題として、①子どもの健やかな育ちに向けた政策課題（例外のない保育保障、教育・保育の質の向上）、②家庭の豊かな子育てに向けた政策課題（切れ目のない支援、親育ての支援）、③地域多様な活性化に向けた政策課題（子ども・子育てに優しいまちづくり、地域ネットワークの再構築）の三つを挙げて、具体的な課題例を示しました。

また、子ども・子育て支援政策における認定こども園の役割

については、1～3号認定に加えて3歳児未満児のいる在宅子育て家庭を中心とした地域子ども・子育て支援事業の対象を『0号認定』と仮称した上で、すべての子ども・子育て家庭は『0号認定』から始まること。この『0号認定』への様々な支援を充実させるとともに、ここから1～3号認定に繋がっていく子どもの発達や生活の連続性を保障するなど、子ども・子育て家庭への切れ目のない支援を包括的に行っていくことの重要性を説かれました。（その他紙面上割愛させていただき、ご紹介の一部とさせていただきます。）

◇

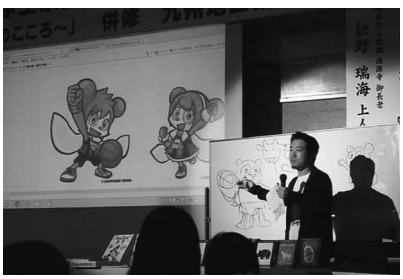
次代を担う子どもたちが、未来に夢や希望を持ち、世界に羽ばたいていくための基礎基本となる就学までに育みたい資質や能力への実現、小学校との接続・連携地域の実情に合わせて質の向上を図っていくことは必須要件であり、その〝質〟が問われる時代に向かっているのは確かな現状のようです。これからの認定こども園の役割は、「すべての子どもの最善の利益」を目指し、より質の高い教育・保育を担う保育者とその支えとなる保護者、さらには地域社会全体を包括した目標の実現への働きが求められているのではないかと思います。

浄土宗「第42回浄土宗保育協会全国研修会（併修）九州地区研修会」報告

浄土宗保育協会長崎支部　中路秀彦

平成28年6月25日（土）より26日（日）までの二日間の日程にて、長崎県大村市の長崎インターナショナルホテルを会場に全国各地より48施設、160名余りの参加者を迎えて、第42回浄土宗保育協会全国研修会が『浄土宗保育～和のこころ～』のテーマのもとに開催しました。

開会式では『法然上人御影』の掛け軸の御前にて参加者全員で月影を斉唱し、理事長の白簇文雄先生の挨拶の後に、九州地方教化センター委員長・樋口英信上人をはじめ、ご来賓の方々より祝辞を頂きました。その後国家表彰、永年勤続者表彰と続き開会式を終えました。



研修①では、雅楽師の東儀秀樹氏による『雅楽の世界～和の心を知る～』と題して、笙、篳篥、龍笛のそれぞれの音や歴史を紹介され、聴き慣れた現代曲を数曲演奏され、癒しと優雅な雰囲気を感じることが出来ました。

また、自らの経験から日本の伝統を説明できる人が本当の国際人であると述べられ、子どもには日本の伝統を学ぶ機会を与えて欲しいと勧められました。

研修②では、浄土宗教師で長崎県川棚町法源寺長老の松野瑞海上人による『法然さまのまなこ』と題して、お念仏と手を合わせることの大切さを伝えられました。「人間だからこそ悩むものであり、素直に真実に生きようとするから悩むもの。悩むことによって人は成長し前進していく」と話され、参加者に前向きな気持ちと心が穏やかになるお話を頂戴致しました。

一日目の終わりは同会場にて懇親会を行い、参加者の皆様との良い交流の場となりました。マジシャンのビックリつかささんが登場すると会場は大いに盛り上がり、笑いの絶えない盛会のうちに終えました。

二日目の研修③では、（株）AUN代表取締役・イラストレーターの幸池重季氏による『イラストによる表現と伝達力』と題して、表現による気持ちの伝達を分かりやすく説明された後、参加者全員でイラスト実践を行いました。

「立ち止まる→イメージする→表現する→新しく発見する」「目に見えない大切なものを絵で表現することが出来る。思いやりや優しさや愛情、絆など。出来栄えより過程が大切」などと話され、参加者のイラストを紹介しながら、その人の思いについて語り合う楽しい時間になりました。

二日間の研修会を通して、一保育者がお念仏の心を知るとともに、伝統を知ることや目に見えないものを大切にすることがあらゆる調和に繋がることを学び、改めて「和のこころ」を知る良い機会となりました。

今回の研修会では、遠方に関わらず沢山の方々にご来崎頂いて大変有意義な研修であったことを、当研修会に関わったすべての方々に感謝申し上げご報告とさせて頂きます。

訃　報

安井 覚明 先生（享年89歳）

日仏保参務・青葉幼稚園理事長（神奈川県）・高野山真言宗真福寺住職

平成28年10月17日、公益社団法人日本仏教保育協会参務・安井覚明先生が89歳の長寿を全うし遷化されました。

日ごろから闊達で、酒を愛し人を愛して止まなかった先生は健康そのものでしたが、突如食事が摂れなくなり入院。その3週間後に亡くなられました。

先生は、ご本山である高野山真言宗布教会会長はじめ、地元の自治布教団団長など多くの公職にあって活動を続けてこられました。もとより、生涯を通しての仏教に根差した幼児教育への情熱は高く評価されています。また、障害児たちに注ぐ眼差しは温かく、その支援にも尽力されました。

日仏保では長年副理事長・参務等の要職を務められ、また「ほとけの子」編集委員としてもご尽力され、平成17年5月に仏教保育の振興並びに事業推進に大きな貢献のあった個人に顕彰する「仏教保育功労賞」が贈られました。

茲に、生前のご功績を称え、謹んでご冥福をお祈りいたします。

合　掌

公益社団法人 日本仏教保育協会
理事長　緑谷一雄
社員一同

「第33回全国仏教保育京都大会」のテーマソング

"つつまれるいのち" が

日仏保のホームページで
ダウンロードできます。

平成26年7月に開催された「第33回全国仏教保育京都大会」の実行委員会が制作・発表した大会テーマソング〝つつまれるいのち〟は、大変好評をいただきました。大会終了後、現在に至るまで、CD販売等のお問い合わせがたくさんございます。

そこで、皆さまのご要望にお応えし、音楽ダウンロードを開始いたします。ダウンロードにつきましては、広く皆さまに知っていただけるよう、特に制限は設けません。保育現場で活用していただければ、幸いです。

なお、商用利用はご遠慮ください。

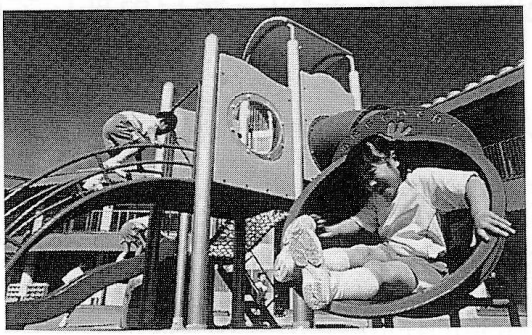
日仏保ホームページ
http：//www.buppo.com/

つつまれるいのち

作詞／第33回全国仏教保育京都大会実行委員会
作曲／ＰＯＮＣＨＡＮ（横田昭）

あたたかい　陽の光に　つつまれて
幾千年　続いてきた　小さないのち
はれの日も　あめの日も
どんな時も　独りじゃない
目を閉じると　すぐそこに
胸に手をあてると　心の中に
ずっと　ずっと　つつんでくれている
やさしさに　気付きます
あたたかい　やさしさに　つつまれて
幾千年　続いてきた　大切ないのち
いつ　いつ　までも
ありがとう　ありがとう

京都大会での講師時、ponchan（横田昭氏）



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

第13回理事会・第10回運営審議委員会

平成29年1月23日（月）

受　付　午後2時00分～2時30分
会　議　午後2時30分～3時50分
会　場　増上寺光摂殿

平成28年度 第2回仏教保育研修会

平成29年1月23日（月）

受　付　午後3時45分～4時00分
研修会　午後4時00分～5時30分
会　場　増上寺光摂殿
講　師　吉田正幸先生（有限会社 遊育）
テーマ　詳細が決定次第お知らせいたします。
参加費　無料

新年懇親会

平成29年1月23日（月）

受　付　午後5時30分～6時00分
懇親会　午後6時00分～
会　場　ザ・プリンスパークタワー東京
会　費　15，000円

関西地区連絡協議会

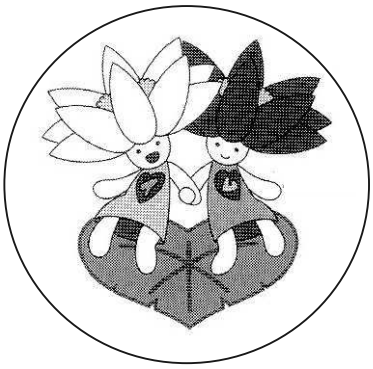
平成29年2月8日（水）

受　付　午後3時00分～3時30分
報告会　午後3時30分～4時30分
懇親会　午後5時00分～7時00分
会　場　ホテルグランヴィア京都

養成機関連絡協議会

平成29年2月23日（木）

受　付　午後3時30分～4時00分
協議会　午後4時00分～
懇親会　午後6時00分～
会　場　芝パークホテル
テーマ　詳細が決定次第お知らせいたします。



「お詫びと訂正」

本誌先月号（10月号・No６３０）掲載の３P、天台宗の夏期保育研修会表題を「第65回天台保育全国大会比叡山延暦寺大会」と記載しましたが誤りでした。
「第65回天台保育全国保育大会福岡大会」が正しい表題でした。謹んでお詫びし訂正いたします。

全仏ムだより

本会では甚大な自然災害に対し、幅広く迅速な支援を行うことを目的に支援金の拠出を行ってまいりました。このたび第12次支援として下記内容にて東日本大震災や熊本地震をはじめとする、国内外の激甚災害に対する支援活動を対象とし、本会救援基金よる被災地支援を行うはこびとなりましたのでご案内いたします。

※助成金申込ご希望の方は、必ず下記項目をご確認いただき、お申し込みくださいますようお願いします。

■支援名称■

公益財団法人全日本仏教会　災害救援活動支援金

■支援対象■

寺院（住職・教師等）が主体の団体による、被災地地域住民のために行う事業

1：被災地におけるボランティア活動
（例：炊き出し、傾聴ボランティア、瓦礫撤去、足湯等）

2：被災地の子どもを対象とした保養事業
（例：被災地の子どもを他府県に招いての寺子屋・キャンプ開催等）

※同一団体からの申請は、熊本地震・東日本大震災・その他被災地に対し、それぞれ1件ずつといたします。
対象活動期間内の同一事業複数開催は、一事業とみなします。

■支援内容■

熊本地震　事業経費の30%、30万円を上限に拠出
東日本大震災　事業経費の30%、10万円を上限に拠出
その他被災地　事業経費の30%、10万円を上限に拠出

※事業経費とは、支援活動にかかる経費（交通費、宿泊費、材料費、運搬費、講師謝礼等）であり、主催者の日当などは含みません。

■対象活動期間■

2016年2月1日～2016年9月30日を、対象活動期間といたします。

■申込締切日時■

2016年10月31日（月）16時必着
※全ての提出物の締切になります。

■申込方法及びその後の流れ（必ずお読みください）■

下記書類に必要事項をご記入の上、ご提出ください。

【ご提出書類及びデーター覧】

●**郵送・宅配でのご提出書類：**
①助成金申請書兼活動報告書（本会webサイトよりダウンロードできます）
②事業決算書（本会webサイトよりダウンロードできます）
③事業経費の領収書のコピー
④保養活動参加者に配布した日程表(コピー可)
⑤チラシ等の宣伝物（コピー可）
⑥支援活動を行った方々の感想や本会への要望（400字程度・メール提出可）

●**メールでのご提出データ：**
⑦当日の活動内容がわかる写真（支援場所、支援内容、支援対象者が写っているものを3枚）

【ご提出宛先】

●**郵送・宅配でのご提出書類宛先：**
公益財団法人全日本仏教会 財務部
〒105-0011
東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階

●**メールでのご提出データ送付先アドレス：**
zaimu@jbf.ne.jp

詳細については、本会webサイトをご覧ください

公益財団法人
全日本仏教会
WFB（世界仏教徒連盟）日本センター
〒105-0011
東京都港区芝公園4-7-4　明照会館2F
電話 03-3437-9275 FAX 03-3437-3260
http：//www.jbf.ne.jp/

「3歳児の〝壁〟は破れるか？」

アベノミクスの〝第2の矢〟である「夢をつむぐ子育て支援」に向けた政策への意気込みは、28年度の幼児教育や保育予算の概算要求にも反映されています。

特に、厚労省の待機児童解消のための受け皿拡大をはじめ、保育サービスの充実、保育人材の確保等に向けた予算にはその意気込みが窺われます。

かねてより各市区町村や民間企業などが運営の主体となり、費用も含めて20人以上の子どもを8～11時間預かる認可保育所を柱に支援の拡充を図っていますが、中でも、東京都では子どもが3歳になった時に移る保育施設が不足し、「3歳の壁」問題への対応が急がれています。

そこで、私立幼稚園にも長時間保育を必要とする3歳児を受け入れる狙いで補助を出す自治体も出始めました。1日8時間以上、年間220日以上の開園を求め、1日単位だけでなく、月額での利用料金の設定も補助金受給の要件とした自治体もあります。しかし、幼稚園が長時間保育に踏み出すには時間の延長や職員確保など難題も多く、ハードルは高いようです。

幼稚園、保育園、認定こども園が併存する時代に突入したとは言っても、目前の壁への解消には、まだまだ時間がかかりそうです。

事務局日誌

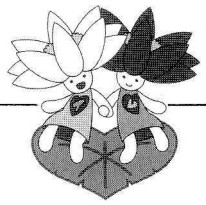
10／12　「仏カリ」「仏教保育」編集会議
10／13　事務局会議
10／18　こどものくに「チューリップ版」編集会議
　　こどものくに「たんぽぽ版」編集会議

編集後記

■9月号・10月号と、7月に開催された「第34回全国仏教保育福島大会」の記事が掲載されました。振り返ると、最近のことのように感じたり、月日の流れを感じたりと、思いは多様です■大会当日、700名からの参加者が掌を合わせました。皆さんにとって、あの時の合掌は今もなお息づいていますか。合掌は、祈り、感謝、反省、願い等、その意がありますが、私は『気づきの真実』と捉えています。因みに、保育における真実とは何か、と考えることがあります。現場の私たちは、真実になっているのかどうか。もしも、本音と建て前があったとしたら、どちらが真実なのか。答えは自ずと現場の上に姿を現すことでしょう■私たちは、保育のスタイルとして日々合掌しているわけではありませんし、ましてや食べるため、報酬のためでもないはずです。深い呼吸の中に、自分の指先・足先に意識感覚を向け、思い計らいを離れたところに落ち着いて、気づきの真実としての合掌が出来たらと思っています。福島大会でともに示した姿に、これからも花が咲き続けますことを願って……。

（髙　木）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島　満
毎月1回1日発行（1部315円）



仏教保育綱領

慈心不殺	生命尊重の保育を行なおう
仏道成就	正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進	よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体￥20,000（8%税込￥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。

ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

仏教保育

12 Dec.

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

平成28年度「菩提樹学園運営委員会」開催

「菩提樹学園支援への存続願う！」

平成28年11月7日／本部事務局

公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は11月7日、当協会本部事務局において「インド菩提樹学園運営委員会」を開催しました。今回は、公益財団法人国際仏教興隆協会事務総長・佐藤雅彦先生、同協会総務部・大工原彌太郎先生のお二人が見えられ、インドの物価上昇や寄付金の減少等により学園の運営にも厳しい影響が出ていることが報告されました。しかし、貧困家庭への支援への思いは同じ。菩提樹学園の灯を消さないための今後の対応等について協議が行われました。

■はじめに

世界遺産で知られるブッダガヤは大菩提寺を中心に各国の寺院が立ち並んでいます。国際仏教興隆協会が運営する印度山日本寺もそこからほど近い位置にあり、建立されて43年を数えます。その日本寺の境内に菩提樹学園はあります。貧困家庭の子どもに無償で給食付きの保育を行う施設です。

戦後、インドのネール首相が「宗教の融和による平和の実現」として当時荒廃していたブッダガヤの復興を発案し、世界へ向けて協力を呼びかけました。日本の仏教界有志もインドにおける仏教復活を願って国際仏教興隆協会（ＫＢＫＫ）を設立。政財界の協力も得て１９７３年に日本寺が建立されました。菩提樹学園と無料で医療奉仕を行う光明施療院は日本寺建立以来福祉事業として続けられ、これまで日仏保も菩提樹学園には絶やさず支援を続けてきました。

しかし、ブッダガヤ復興護持を発願した世代も代わり、インドの物価上昇と寄付金の減少が福祉事業運営に深刻な影響を及ぼしています。関係者は現代の世代に改めて日本寺の建立の意義やこれまでの活動を伝え、先人のインドへの報恩の思いの継承を訴えています（『中外日報』２０１６年10月28日発行記事より要旨抜粋・転載）。

■新入園児について

入園児の受付は例年、１月上旬から始まります。２０１６年度は35人に絞らせて頂きましたが、２０１７年度もできれば同数の35人の入園を考えています。年少・年中がそれぞれ35人繰り上がってきますので、新入園児も同数でと考えています。幼稚園教育という観点からも急激に減員する訳にもいきません。また、教員の減員においても同様の観点から直近には踏み切れず、止むを得ずパート2名を減員しました。

■各事業別実質経費について 平成27年度（2015）

支出内訳については左の表をご参照ください。（資料より抜粋）

総収入計　43,654,808円
支　　出　42,669,738円

菩提樹学園支出内訳（6,847,559円）

・インド（単位：円）

人件費	3,953,433
消耗品費	1,293,912
旅費交通費	300,312
水道光熱費	500,433
雑費	266,137
福利厚生費	154,255
通信運搬費	6,850
印刷製本費	725

・日　本（単位：円）

旅費交通費	306,204
通信運搬費	3,256
雑費・消耗品費	52,352
保険料	9,690

問題は来年度の予算確保ですが、従来の半額、およそ3000万円程度の確保がやっとという見通しです。募金・浄財を仰ぐ努力してはいますが、厳しい見通しです。

菩提樹学園がどのような位置にあるか、ブッダガヤではどのような評価を受けているかを、第三者的に調査をしてもらいました。概要を説明させて頂きます。

◇

インド・ビハール州ガヤ県ブッダガヤ郷「印度山日本寺社会事業」調査実施報告書より（2016年9月18日）
調査チームリーダー・大橋正明

菩提樹学園のみ、要旨抜粋

●目　的

ブッダガヤの子どもたちを対象にした、無料の保育施設。1977年開園以来、3歳から6歳までの貧困家庭の子どもたちを対象に、毎年200人の園児の給食付き無料教育。「自分で考え、正しい方法で行動できる子ども」を教育目標に、それぞれの年齢に応じた3年間の指導を実施。

●生徒数

長年、1学年2クラスで3年間の6クラス。定員210名（1学年70人）だが、緊縮による教員減で規模を縮小し、2016年度から38名減の172名。入学可否を見極めるための2歳児対象の月1回の短時間テスト・クラスには、45名が登録されている。

在籍している園児のカーストは、マハダリットのブイヤーン75%、ダリットのパスワーン15%、次いでEBCのムスリムとクムハールが数%を占めるはずだが、13年度では、ブイヤーン52%、パスワーン17%、ムスリム8%等でブイヤーン以外の上位カーストが多くなっている。

●内　容

●授業時間＝年少・年中組が8時半～12時半。年長組は13時半まで。給食後降園。

●教育内容＝ナーガリー文字指導、英語と数学の因数分解。暗記中心の内容だがそれらのレベルはかなり高い。習熟度は小学校2年生に編入の実力は十分と言える。一方で情操教育、芸術文化、体育などもよくやっている。

●健康診断は、以前は年に2度実施していたが、現在は年に1度となっている。

●ドナーは、貧困な子どものエンパワメントより、子どもの成績を見て評価する傾向が強く続いている。但し、できない子は退園ではなく留年させたり、補修を受けさせるなどしている。

●カリキュラム、年間のプログラムは2008年から変更なし。校長のソバ先生によれば、個々の子どもに合わせたwritingなどの教育レベルは上げているという。

●教　員

●教員資格のあるのは1名。残りは12年生や10年生終了のレベル。

●現在、教員は7名。専科講師2名おり、水準は確保している。

●給与は就業年により5000～15000Rs.。校長のソバ先生は23000Rs.＋役職手当。7名に対して約93000Rs.。有資格者が教える公立校より安いが、周辺のNGO系や私立よりは厚遇。

●データとしては、39年分の学籍簿あり。

●園児の家庭訪問の記録もある。

●就学前児童の教育ニードの確認

ブッダガヤやその周辺は、外国から資金を得て学校を開設・運営するNGOや寺院などが他地域と比べてアンバランスなほど数多く存在している。更に月額500～1000Rs.の学費の私立学校も、それに劣らない数で存在している。

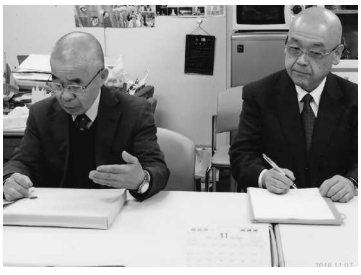
菩提樹学園周辺の寺院立や私立の学校には就学前教育を行っているケースも多く、菩提樹学園創設当初に比べて就学前教育ニードは相当小さくなっている。但し、公立小学校では就学前教育を行っていないため、菩提樹学園が果たす役割はまだ存在していると言える。

しかし、このまま園児の減員が続けば、向こう3年間で現在の半分ほどの規模になる可能性は高く、菩提樹学園がこれまで果たしてきた教育の成果の維持が難しい状況になることは避けられないと思料する。

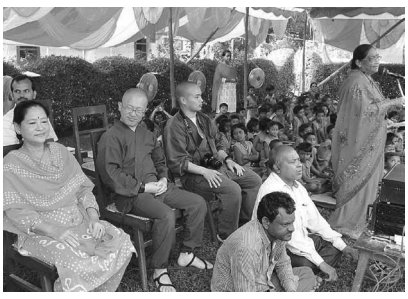
◇

この後、調査報告をもとに状況打開の方法等について協議が続けられ、「菩提樹学園」存続に向けた努力を続けることを確認し合いました。

11月7日、本部事務局での菩提樹学園運営委員会



菩提樹学園運動会の様子（2016.10.19）



菩提樹学園運動会の様子（2016. 10. 19）

日本仏教教育学会「第25回学術大会」より報告

平成28年12月3日／愛知学院大学名城公園キャンパス（名古屋市北区）

12月3日、愛知学院大学名城公園キャンパス アガルス・タワーにおいて標記の大会が開催されました。この大会は、教育に携わる先生が日頃の研究・実践の成果を持ち寄り、仏教教育の果たすべき役割や今日的課題などについて発表し、議論を交わしながら更なる学びを深めることを目的としています。

開会式の後、午前の部・第1部会と第2部会、理事会を挟んで午後の部・第1部会と第2部会に分かれ、シンポジウムなど含む17名の先生方が発表され、実り多い一日となりました。本稿では当協会講師としてご指導頂いている佐藤達全先生（育英短期大学教授）はじめ、仏教教育・保育の実践の成果について発表された先生方（3名）を抜粋でお伝えします。

現代教育の盲点と仏教教育

～幼児教育における お手伝いの意味～

佐藤 達全 先生（育英短期大学教授・日仏保講師）

（1）子育ての現状

現代は、自然科学をはじめとした様々な分野の研究が進み、そこで得られた知識や情報を活用することによって、生活環境が飛躍的に改善され、私たちは快適な生活が送れるようになった。それに伴って、知識を重視する傾向も強まり、子ども時代から「勉強」することや「知識を増やす」ことに関心が集中し過ぎているように思われる。

勉強することは大切であり、それを否定するつもりはないが、身体の発達はもちろん、精神的な発達の道筋は更に複雑である。乳児や幼児には個人差も含めて、それぞれの発達に応じた望ましい生活がある。乳幼児にどんどん知識を詰め込みさえすればその成果が表れるのではなく、心身に破綻をきたすことさえある。それにも関わらず、ますます早期教育に向かっているのではないだろうか。

（2）日本の家庭でのお手伝い

ところで、そうした「便利」で「快適」と喜んでいる生活に「落とし穴」はないだろうか。現代人の生活は、私たちが「自然」から遠ざかり、「身体活動」をしなくなることでもある。これは大人にも子どもにも当てはまる。

人間の生命は、身体活動と精神活動が相互に作用しあう中で営まれている。大切なことは両者の調和である。もちろん、単純に「昔に返ろう」などと言うつもりはない。現代は身体を使って厳しい労働からは解放されるようになったが、その一方で、身体活動と精神活動の調和が崩れているのではないだろうか。子どもに当てはめると、「お手伝い」をすることが少なったことである。

現代の日本では、子育て中の多くの保護者は「お手伝いしなさい」ではなく「お勉強しなさい」と言い、子どもが机に向かっていると安心する。

（3）子どもの発達の道筋

子どもの発達の道筋を基準にした場合、こうした状況は好ましいことであろうか。答えは明らかである。それは幼稚園や保育園における保育内容を示した「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に、幼児期の活動の基本が「あそび」として示されているからである。あそびは身体活動であり、お手伝いにつながる。

長い人生の土台が形成される幼児期には、自分以外の「ひと」と関わりながらの身体活動が重要な意味をもっている。しかも、このことは身体的な発達はもとより、精神的な発達にも大きな影響を与えるはずである。

（4）お手伝いの学習への影響

禅の修行では座禅や読経だけでなく、作務が大きな意味を持っている。大人の場合は作務というが、子どもに当てはめると「お手伝い」である。

その幼児の教育における、お手伝いの意味について考えてみたい（これより質疑応答で意見交換を行った）。

幼児期における情操の芽生え
～仏教保育の実践を通して～

佐藤 和順 先生（岡山県立大学子ども臨床講座学部教授）

（1）研究の目的

子どもたちにとって、その後何年にもわたって続くことになる学校教育の入り口に当たるものが、幼稚園・保育所等である。保育を通して子どもは多くのことを学ぶ。幼児期に学んだことは子どもの原体験となり、その後の成長に影響を与えるものと考えられる。幼児期に仏教保育を受けることが、その後の成長にどのような影響を与えるのであろうか。特に、保護者の宗教に対する態度、仏教保育に関する理解・共感が子どもの情操の芽生え等に影響を有すると考える。本研究は、幼児期の子どもの保護者を対象に宗教に対する態度、及び仏教保育の実践に理解度・共感度を検証し、園における仏教保育の実践における子どもの情操の芽生えとの関係性を明らかにし、今後の学校教育機関における宗教教育の可能性を模索するものである。

（2）研究の方法

宗教に対する態度及び仏教保育の実践について保護者がどの程度理解・共感しているのか、子どもの情操の芽生えと関係性があるのかを質問し調査により明らかにする。研究対象はA県にある同一学校法人に属する仏教保育を実践している幼稚園3園の保護者である。

宗教に対する態度については、シュプランガーの価値理論（理論・経済・審美・宗教・社会・権力）に基づいた6種類の価値志向性を測定する尺度を用いる。価値を興味・関心の対象としてではなく主観的に体験されるものとして捉えている点が尺度の特徴である。具体的には『宗教や信仰の世界は、自分とは無縁だと思う』『自分の人生にもいつかは終わりが来るということを意識しながら生きている』等の質問の回答について得点を算出し、分類するものである。

仏教保育の実践についての理解度・共感度については、『園の方針、教育目標を理解している』『音楽法会の目的、内容を理解している』『音楽法会は子どもの情操教育に役に立っている』等の質問の回答について得点を算出し、分類するものである。

宗教に対する態度、及び仏教保育の実践についての理解度・共感度の関係性及び情操の芽生えに寄与するような要因を検証する。

仏教保育の実践としては、『音楽法会』及び『ののさまのことば』に着目する。

『音楽法会』とは、毎月25日に幼稚園に隣接の本堂に関係園の園児が合同で集合し実施する仏教行事であり、子どもの情操面での育成・人の話を聞く態度の涵養を目的として実施されている。

『ののさまのことば』は、毎月発行の『園だより』に掲載の月間の保育目標に関する仏教的観点からの解説である。

（3）調査結果の分析及び考察

調査対象者は、基本的には仏教保育について受容しており、情操的効果もあると考えている。その意味では情操の芽生えには、一定の成果はあると考えられる。仏教的要素及び宗派の要素を入れていくことが、宗教教育としての課題である。

「保育所実習事前指導」に関する研究
～一人一人を大切にする授業について～

駒井 美智子 先生（横浜創英大学子ども教育学部教授）

（1）研究目的

わが国では少子高齢化が急速に進展し、人口構成のバランスが崩れてしまいつつある。こうした状況の中で、我が国の将来を担う「次世代人材育成」は喫緊の課題であり、乳幼児に対する「充実した保育」はその中心に位置づけられるべき課題であろう。その際に、中心的役割を果たすのが「保育者」である。

現在多くの保育者養成学校では学生自身の「活性化」を目指して、授業方法・指導方法の改善が試みられている。しかしながら、「何が活性化をもたらすか」自体、統一した見解を得ることは難しく、それぞれの養成校、それぞれの教員が独自の考え方に基づき試行錯誤を繰り返しているのが現状であろう。具体的事例を示して考察する。

（2）「保育所実習事前事後指導」の授業概要

表「シラバス」

1回 内容
2回 実習の意義
3回 保育所実習1の内容
4回 保育所の生活 ①0、1、2、3歳児クラスのディリープログラム
5回 保育所の生活 ②3、4、5歳児クラスのディリープログラム
6回 実習の心構え①実習態度
7回 保育所の役割と保育士の職務について
8回 実習の心構え②実習目標

9回　実習の心構え ③保育士に求められる資質や特性
10回　観察記録の取り方とまとめ
11回　実習日誌の書き方
12回　部分実習の指導計画 ①絵本・紙芝居
13回　部分実習の指導計画 ②制作活動（ペープサート・手遊び等）
14回　オリエンテーションに向けての実習生のマナー
15回　実習後の手続きも含めた準備の最終確認

(3) 保育の3機能管理

保育の3機能管理・保育行為の満たすべき機能として、「興味性」「幼児性」「教育性」の3機能を指摘する。「興味性」は幼児が興味を持つような保育を、また「幼児性」は幼児が十分に理解することが出来るような保育を、それぞれ実践すべきことを意味する。更に「教育性」は、幼児を健全な成長へと導くような保育を意味する。

保育士はこれら3機能をすべて満足するような保育内容・保育教材をデザインすべきなのである。

(4) まとめ

保育力アップや即戦力は、そう簡単に育つものではない。其々の学生の気質や性格、学生の人的環境の背景にあるからである。

保育園・幼稚園・幼保連携型認定こども園に就職した1年目からすぐに役立つ、すぐにできるものでもない。日々の授業の中での積み重ねなど、たくさんの経験をすることでアップしていくのである。

幼児期における宗教的情操感育成のための海外研究

柏　まり 先生（岡山県立大学子ども臨床講座学部準教授）

(1) 問題の所在

子どもを取り巻く環境は厳しい。わが国では、依然として児童虐待やしつけ・指導と体罰が混同される事件も少なくない。また、「子どもだから」という大人側の利己的な考え方も根強く存在していることは否定できない。更に、子どもの育ちの問題は、いじめや引きこもり、自己肯定感の低下等、多様化している。

こうした課題を受け、子どもの権利の保障や養護に関する実効的な方策を検討することが喫緊の課題とされている。子どもの権利を理解することは、権利主体である子どもにとって重要である。しかし、子どもの権利条約に関する内容に着目した実践研究は殆どない。

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎となる人間性を育む重要な時期である。宗教的情操教育は人間性の教育であり、人格形成の基本に影響を与えるものとされている。また、宗教的情操教育のためには、幼少年期からの教育が非常に大切であると言われている。

子どもの権利に関する意識を育むことは、幼児の情操感の涵養に通じるものと考える。子どもの健全な育ちを支えるためには、宗教教育の観点から、幼児期からの情操感を育成するための先進的知見を得ることが不可欠である。

(2) 研究の目的

本研究の目的は、子どもの権利条約に準じた子どもの権利を、権利主体である子どもにどのように理解させるのかということを先進事例から学び、幼児期からの宗教的情操感育成に援用することが可能かどうかを検討することである。

先進事例として、子どもの権利に関する意識が高いとされるスウェーデンに着目する。

スウェーデンはナショナルカリキュラムにおいて、子どもの権利の重要性を明確に保持する姿勢を見て取ることができる。

スウェーデンでは、就学前に子どもたちが民主的価値観の基礎を身につけるよう援助している。民主的価値の基礎とは、人間の生命の不可侵性、個人の自由と尊厳、誰もが平等であること、男女の平等、弱者や傷つきやすい者との連帯感である。他者への思いやり、公平で平等な態度を身につけること、自分と他者の権利を理解し尊重することも含まれる。子どもが有する権利を就学前から意識させているのである。

このような理念・カリキュラムを有するスウェーデンの就学前保育の状況を検証することは、幼児期からの宗教的情操感の芽生えに有用と考える。

すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

第13回理事会・第10回運営審議委員会

平成29年1月23日（月）

受　付　午後2時00分～2時30分
会　議　午後2時30分～3時50分
会　場　増上寺光摂殿

平成28年度 第2回仏教保育研修会

平成29年1月23日（月）

受　付　午後3時45分～4時00分
研修会　午後4時00分～5時30分
会　場　増上寺光摂殿
講　師　吉田正幸先生（有限会社 遊育）
テーマ　詳細が決定次第お知らせいたします。
参加費　無料

新年懇親会

平成29年1月23日（月）

受　付　午後5時30分～6時00分
懇親会　午後6時00分～
会　場　ザ・プリンスパークタワー東京
会　費　15，000円

関西地区連絡協議会

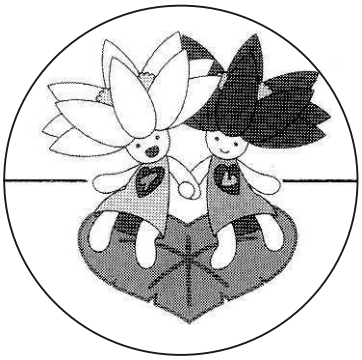
平成29年2月8日（水）

受　付　午後3時00分～3時30分
報告会　午後3時30分～4時30分
懇親会　午後5時00分～7時00分
会　場　ホテルグランヴィア京都

養成機関連絡協議会

平成29年2月23日（木）

受　付　午後3時30分～4時00分
協議会　午後4時00分～
懇親会　午後6時00分～
会　場　芝パークホテル
テーマ　詳細が決定次第お知らせいたします。



成道会

（敬称略）
次号へつづく

大厳寺文化苑 大厳寺幼稚園・蕤苑保育園
苑主 長谷川匡俊
〒260・0812 千葉市中央区大厳寺町457・5
電話 043・263・7965

社福・竜光会 八王子ひまわり保育園
園理事長 野上良仁
園長 野上浩
〒193・0944 東京都八王子市館町1629
電話 042・661・3046

日仏保理事会長 兵庫県仏教保育協会
井藤圭湍
〒652・0032 神戸市兵庫区荒田町3・17・1
電話 078・511・0167

園長 三重保育園
玉置里司
〒514・0803 三重県津市柳山津興3310
電話 059・228・4406

園長 鈴蘭幼稚園
梅田静子
〒158・0093 東京都世田谷区上野毛2・15・15
電話 03・3704・1881

園理事長 山科幼稚園・西念寺保育園
白簱文雄
〒607・8086 京都市山科区竹鼻四丁野町52
電話 075・581・0879

学・寿福寺第一・第二幼稚園
日仏保副理事長 園理事長 髙山久照
〒179・0074 東京都練馬区春日町3・14・24
電話 03・3999・8739

園長 だん王保育園
信ケ原千惠子
〒607・8387 京都市左京区川端通三条上ル法林寺門前町36
電話 075・761・2211

園長 だん王夜間保育園
信ケ原雅文
〒607・8387 京都市左京区川端通三条上ル法林寺門前町36
電話 075・761・2211

社福・讃仰会 法善寺保育園
中山斉
〒115・0053 東京都北区赤羽台3・24・2
電話 03・3900・9606

名誉園長 千葉文化幼稚園
髙山照襄
〒264・0028 千葉市若葉区桜木4・16・38
電話 043・231・0304

日仏保理事 東仏保委員長・園長 金の峯幼稚園
安藤文隆
〒165・0022 東京都中野区江古田3・9・9
電話 03・3385・0014

宮城支部事務局 園長 東岡幼稚園
清野英俊
〒983・0841 仙台市宮城野区原町2・1・66
電話 022・293・4930

宗・延命寺 今泉保育園
日仏保連営審議委員 園長 樋口威道
〒146・0093 東京都大田区矢口2・26・17
電話 03・3758・0074

パドマ幼稚園
日仏保理事長 金子英滋
〒380・0847 長野市若松町1028
電話 026・234・5858

神田寺幼稚園
日仏保連営審議委員 園理事長 友松浩志
〒101・0021 東京都千代田区外神田3・4・10
電話 03・3251・8683

宗・高安寺 高安寺保育園
園長 小澤宏
〒183・0021 東京都府中市片町2・4・1
電話 042・364・7651

呉あそか幼稚園
日仏保理事 園長 西村英昭
〒737・0022 広島県呉市清水2・1・26
電話 0823・25・5671

社福・いまいずみ 鵜の木いまいずみ保育園
日仏保連営審議委員・園理事長 樋口威道
園長 樋口明道
〒146・0084 東京都大田区南久が原2・30・5
電話 03・3756・0505

認定こども園 あずま幼稚園
日仏保理事長 丹羽義昭
〒340・0032 埼玉県草加市遊馬町430
電話 048・925・1741

学・清谷学園 日野わかくさ幼稚園
日仏保連営審議委員 園長 清水博雅
〒191・0034 東京都日野市落川943
電話 042・591・1688

学・瑞鳳学園 おたまや幼稚園・茂庭幼稚園 ピッパラ保育園
日仏保理事 園理事長・園長 鎌田文惠
〒980・0814 仙台市青葉区霊屋下23・5
電話 022・227・4292

日仏保理事長 横浜れんげ幼稚園
杉本智研
〒232・0002 横浜市南区三春台19
電話 045・231・0290

聖徳大学・聖徳大学短期大学部 理事長
川並弘純
〒271・8555 千葉県松戸市岩瀬550
電話 047・365・1111

日仏保連営審議委員 園長 妙福寺保育園
戸田了達
〒178・0064 東京都練馬区南大泉5・6・47
電話 03・3922・3368

園長 洛西花園幼稚園
小山内定代
〒610・1112 京都市西京区大枝北福西町4・3
電話 075・332・2808

園長 總持寺保育園
柳澤則子
〒230・0063 横浜市鶴見区鶴見2・3・29
電話 045・581・3162

学・ルンビニ学園 ルンビニ幼稚園
園理事長 新出光祐
〒380・0921 長野市栗田465
電話 026・226・7685

園長 野田生こばと保育園
菅原諭貴
〒049・2672 北海道二海郡八雲町野田生160・11
電話 0137・66・2527

学・西方寺学園 西方寺幼稚園
園理事長 猪野直樹
〒737・0052 広島県呉市東中央2・4・14
電話 0823・23・5430

学・福島ルンビニー幼稚園
日仏保副理事長 園長 吉岡棟憲
〒960・1101 福島市大森字南中道47・1
電話 024・545・0816

園理事長・園長 さくら保育園
永徳眞隆
〒319・2142 茨城県常陸大宮市上岩瀬382
電話 0295・53・4789

日仏保参務 園理事長 学・高西寺学園 多摩みゆき幼稚園
関岡俊二
〒206・0021 東京都多摩市連光寺2・24・6
電話 042・374・6040

園長 御国幼稚園
松井大圓
〒710・0055 岡山県倉敷市阿知3・20・7
電話 086・425・0141

宗・西蔵院 是政保育園
榎本隆乘
榎本崇子
〒183・0014 東京都府中市是政3・6
電話 042・361・7452

園理事長・園長 学・斜里大谷学園 認定こども園 斜里大谷幼稚園
鈴木啓介
〒099・4113 北海道斜里郡斜里町本町46・10
電話 0152・23・3880

園理事長 園長 学・帯広竜谷学園 帯広幼稚園
陰山正憲
今出正行
〒080・2471 北海道帯広市西21条南3丁目22・2
電話 0155・35・7122

園長 祐天寺附属幼稚園
安藤輝美
〒153・0061 東京都目黒区中目黒5・24・47
電話 03・3712・8870

育休、最長2年に延長！
～親も企業も複雑？～

待機児童問題は、恒久的な社会的現象になってしまったのでしょうか？官民共に歩調を合わせながらその解消に向けた対応を講じてはいますが、依然として預け先探しが困難な状況から脱けられないのが現状のようです。

無認可ながら保育士の人数など一定の基準を満たす「企業主導型保育所」については、設置企業が施設分として支払う固定資産税などを半減するなど、優遇措置を平成29年度税制改正大綱に盛り込むことにしたようです。

また、厚労省では育児休暇を最長2年間に延長する方針を固め、子どもの預け先が見つかる前に育休期間が終わってしまう保護者を救済し、女性の離職を防ぐことを狙いとして、「育児・介護休業法」の改正案を来年の通常国会に提出する方針です。

「保育所が見つからずに仕事を辞めてしまうことを防ぐ」のが狙いだと政府は主張していますが、育休期間が延長された分、女性にばかり負担や不利益が増えるのではないかとの懸念が、企業側も働く側にも根強いようです。

育児に使える休暇を拡大し男性の育休を促すなど、企業の自主的な取り組み、例えば「男性の育休取得を義務化」にするなども、強く議論すべきと思うのですが……。

事務局日誌

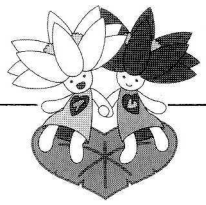
11／7　「仏カリ」「仏教保育」編集会議
　　事務局会議
11／9　「平成28年度菩提樹学園運営委員会」
　　「ほとけの子」編集会議
11／11　「仏カリ」企画会議
11／29　「ほとけの子」拡大会議

編集後記

■民間投資を呼ぶ、不孝をまき散らす、賛否に分かれて右顧左眄したカジノ法案でしたがついに可決されました。正式名は「IR推進法案」。IRとは『Integrated Resort』の略で「統合型リゾート」という意味です。目的は「観光及び地域経済の振興に寄与するとともに財政の改善に資する（以下略）」とあり、理念では『地域の創意工夫及び民間の活力を生かした国際競争力の高い魅力ある滞在型観光を実現し（以下略）』と謳っています。もとより、2020年開催の東京オリンピックに向けた世界からの観光客をターゲットにしたものです。このカジノでのお金のやり取りは『賭博とは見做さない』ということですが……■古来より『博打』ほど割に合わない遊びはないと言われてきました。利益の大半は主宰側、即ち【胴元】に入るからです。カジノの影には〝泣きっ面〟が垣間見える思いがします■来年は「酉年」。物事の始まりを告げる幸先の良い動物として知られています。【看〃臘月尽（みよみよろうげつつく）】〝臘月〟とは陰暦の12月のこと。あっという間に1年が去っていく、の意です。来る年に何を期待されますか？「良いお年を！」。

（O・I）

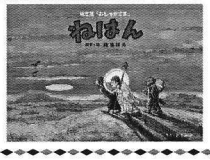
公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島 満
毎月1回1日発行（1部315円）



仏教保育綱領

慈心不殺　生命尊重の保育を行なおう
仏道成就　正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進　よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体￥20,000（8%税込￥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

仏教保育

1 Jan.

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

新春のごあいさつ

平成29年が明けました。
謹んで新春のお慶びを申し上げますと共に
皆様のご多幸と更なるご発展を祈念申し上げます。

公益社団法人 日本仏教保育協会
理事長　緑谷 一雄

新制度のポイント

「子ども・子育て支援新制度」がスタートして、2年が経ちました。

新制度のポイントの一つは教育・保育の量的拡充と質の向上・充実にありますが、一億総活躍というフレーズを受けて、平成29年度の予算は「待機児童解消」に向けた保育の受け入れ拡充や、保育士確保のための処遇改善を重視しており、優先的に確保されるようです。

各自治体においても保育士確保のための施策が進められています。待機児童解消という名のもとに、少々「やり過ぎ」ではと思われるケースも聞こえてきます。数を増やすことは必要ではありますが、保育士としての「質」は何よりも優先されなければなりません。

「質の向上」で重要なポイントは、教育・保育の評価ということになります。しかし、子どもの財源が内閣府のもとで一元化されて保育所、幼稚園、認定こども園が施設型給付になっているにも関わらず評価の体系は二元的なままとなっています。統一的な第三者評価はなかなか難しいようです。「忠恕（ちゅうじょ）」の精神で臨みたいものです。

実り多かった「福島大会」に感謝

昨夏開催の「第34回全国仏教保育福島大会」は、およそ700名の参加を得て、無事に終えることができました。

『〝合掌の姿に花は咲く〟～被災地（ふくしま）で学ぶ生命尊重の保育～』の大会テーマのもと、人間本来の生き方と言える「向き合う・寄り添う・支え合う」という教えを講座や実技で学び、保育に生かす研鑽を積み、実りある大会となりました。

何よりも分科会のメインとなった「フィールドワークバスツアー」での原爆事故被災地飯館村視察にはバス3台に分乗しての見学となり、参加された先生方から「原発問題を真剣に考えさせられた」と感想が寄せられました。

また、懇親会では白虎隊の剣舞、二本松の提灯祭り、フラガールの皆さんによるハワイアンダンス等々、手作りの余興に大いに盛り上がりました。

福島の先生方、改めて感謝申し上げます。

来年は名古屋で

次回「第35回全国仏教保育愛知大会」は平成30年夏、名古屋で開催します。愛知支部の先生方が英知を集結し、名古屋ならではの研鑽と楽しさを満喫できる大会となることでしょう。

来年は名古屋でお会いしましょう。

今年の干支は「酉」です。酉（にわとり）は〝いちにちの始まりを告げる〟縁起の良いものとされています。元気で踏み出しましょう。

菩提樹学園の調査報告を受けて

日仏保副理事長　髙山　久照

菩提樹学園の教育事業は、公益財団法人国際仏教興隆協会（ＫＢＫＫ）の基幹事業であるインド、ビハール州ガヤ県のブッダガヤにおける宗教福祉事業の一つです。昭和43年以来、印度山日本寺を中心としたＫＢＫＫの事業運営は経営努力により維持されているものの、現在資金面では毎年の資金収入漸減に加え、インド経済の諸物価及び人件費の高騰、日印為替レートにおける円安などの要因により、厳しい運営を強いられています。この状況に危機感を抱くＫＢＫＫは現在、同協会の「再生活性化委員会」の提言（平成28年5月）を受け多角的に事業運営の見直しに取り組んでいます。

この流れを受け、「印度山日本寺社会事業調査」（平成28年9月11日～18日）が実施されました。調査は大橋正明・聖心女子大学教授をリーダーとする調査チームによるもので、調査対象の社会事業は無料の診療施院「光明施療院」と、日仏保が協力助成するところの無料幼児教育施設「菩提樹学園」です。

菩提樹学園に関しての報告の抜粋、要点は以下の通りです。

◇

1．菩提樹学園の費用対効果について

他校に比べて正確な数値はこの調査で得ることはできなかったが、おそらく経費は他校と比べて数割高いが、その分、教育は細やかで質がよく保たれているという印象である。

2．給与水準と教師の質

菩提樹学園の教諭の給与水準は、公立学校を除く他の学校より2割程度高い水準にある。学園の教諭たちはよく訓練され献身的である。しかし、他の学校の教員に比べると学歴は少し低い。

3．就学前児童の教育ニードの確認

ブダガヤやその周辺には、外国から資金を得て学校を開設・運営するＮＧＯや寺院などが、他地域と比べて数多く存在している。菩提樹学園周辺のＮＧＯ立、寺院立や私立の学校には就学前教育を行っているものも多いので、就学前教育ニードは菩提樹学園創設時よりも小さくなっている。しかしまだ、公立学校は就学前教育を行っていない。周辺の学校が受け取る幼稚園への入学応募状況の数を聞く限り、就学前教育希望者全員を受け入れるキャパには達していないと推計される。それゆえ、菩提樹学園がこの分野で果たす役割はまだ存在すると言える。

4．卒園者の進学先での進級の遅れについて

少なくない数の卒園生が、最近の主要な進学先である3校（Pragya Vihar、STMG、School and Mahabodi Vidyapith）で小学1年に編入する者がいるが、多くが主に年長組（Upper Kindergarten）、時には年少組（Lower Kindergarten）に編入されている。このため、この年代において1～2年間が無駄になり、後には稼働開始年が遅れる。そして小学校時は同級生との年齢ギャップが大きくなる、といった問題が生じている。

この主な原因は、菩提樹学園の卒業生たちの字の読み書きなどの学力不足であると進学先の校長たちは指摘する。進学先の学校がそれぞれ有する幼稚園を含めた学年ごとの達成目標はインドに一般にみられる詰め込み教育でさらに多くの知識量を要求しているからだ。これはインド人の両親の期待でもある。

日本人から見ると、今の菩提樹学園の教育内容とその求める知識量は、あまりに詰め込み過ぎであるという印象を受ける。

また私たちは、できる子を伸ばすよりできない子を救うことを求めがちである。これに加えて日本的なダンスや折り紙をはじめとした情操教育やゆとり教育の取り入れは、知識量を伸ばす時間を圧迫していることは容易に想定できる。

つまり菩提樹学園の教諭たちは、日本とインドの教育に対する期待や文化の違いの板挟みになり、卒園児の進級の遅れという問題にも直面している。

5．提　案

この問題は文化的社会的なものである以上、容易に解決できないと思われる。それでもまずは、主な進学先の3校と菩提樹学園が十分話し合い、それぞれの学校が、また何よりも幼い生徒たちが、時間や金といった貴重な資源をより効率的に使えるように、カリキュラム内容を相互に調整したり、菩提樹学園の卒業生が1年生に進学した場合（あるいは年長組後期）に、特別の補修クラスを設けるといった取り組みが必要であろう。

（参考）

インドの学校教育段階（菩提樹学園は就学前教育に該当）

就学前教育	年少組（Lower Kindergatten）	～6歳
	年少組（Upper Kindergarten）	
義務教育	初等学校	6 ～11歳（5年間）
	上級初等学校	11～14歳（3年間）

報告を受け、改めてインド社会の幼児教育の状況が日本とは同一には語れないことを痛感しました。菩提樹学園のプログラムでは、現在4歳児クラスから二桁同士の掛け算や文字指導を行っています。それでも卒園児が進学先で学力不足のため、再び年長組に編入させられるケースが多く、現地の状況に合った教育の内容と質の確保が求められていると言えるでしょう。

経済成長が続くインドにおいて、その恩恵を受けることの少ない階層の子どもたちが通っている菩提樹学園。その子どもたちがより有意義な園生活を送ることが出来るよう検討する必要があります。

菩提樹学園の運営が持続可能であるためには、資金面の安定と、菩提樹学園の教育の目的の明確化が重要であると考えます。

ヒンディー語の授業1

ヒンディー語の授業2

英語の授業

九九盤を指さし復唱し掛け算を暗記

クラス開始前の園児たち

お絵かき

第59回 釈尊成道を祝う「幼児と母のつどい」

平成28年12月6日／よみうりホール

平成28年12月6日、有楽町駅前のよみうりホールにおいて東京仏教保育協会の成道会が開催されました。本会は「釈尊成道を祝う幼児と母のつどい」という名称で、今年59回の開催となります。東京仏教保育協会加盟の幼稚園、保育園より約600名の親子が参加されました。

副委員長の五島満先生より会式の言葉があり、その後、お釈迦様のお悟りのお姿のご絵像に向かって参加者全員が合掌礼拝し、成道会が始まりました。

はじめに委員長の安藤文隆先生から成道会のお話を頂きました。「嘘をつかない・弱い者いじめをしない・物を大切にする」、この子どもたちにとって、また大人にとっても大切な心を、お釈迦様のお悟りになぞらえながらお話されました。

また、公益社団法人日本仏教保育協会常任理事の髙輪真澄先生からもお祝いの言葉を頂きました。客席の親子ともども、両先生のお話を静かに聞き入っていました。その後、真言宗豊山派保育連合会からご導師と式衆が尊前にご出仕されて、全員で合掌し、誓いの言葉を唱和いたしました。そして四弘誓願のメロディが厳かに流れる中、参加園の代表園児により、お釈迦様のご尊前に献花が行われました。お釈迦様の前が花でいっぱいになったところで、全員で「成道会のうた」を歌い、ホールの中にお釈迦様のお悟りを讃える子どもたちの声がきれいに響きわたりました。休憩をはさんでお楽しみの人形劇の始まりです。「ヘンゼルとグレーテル」の物語が、着ぐるみの躍動的な人形劇でステージ狭しと上演され、歓声と笑顔に会場が包まれました。

お釈迦様のお悟り「成道」が親子にとって、心の記憶に残るものであってほしいと願います。

第23回真宗保育学会大会
浄土真宗本願寺派開催報告

平成28年10月28・29日／武蔵野大学

武蔵野大学非常勤講師　髙輪　真澄

平成28年10月28日・29日に東京の武蔵野大学雪頂講堂並びにグリーンホールを会場として「第23回真宗保育学会大会」が浄土真宗本願寺派保育連盟の後援で、「真宗保育の本質を考える～育ちあういのち～」をテーマとして開催されました。参加者は全国から約80名。基調講演、シンポジウム、そして研究発表が行われました。

「真宗保育学会」は１９９７年真宗保育実践を行う上での学問的研究をしていく目的で本願寺派保育連盟と宗門の教員養成を行う大学が集まって設立されたものです。年に1回の大会を各地で開催しています。会員には保育連盟に所属する園の教職員や大学の教員がなっています。所属する大学は武蔵野大学、龍谷大学、京都女子大学、相愛大学、兵庫大学、岐阜聖徳学園大学、筑紫女学園大学、九州龍谷短期大学、東九州短期大学などです。

基調講演は、本年より就任された西本照真武蔵野大学学長より「いのちの色・いのちの音」というテーマで、いのちを大切にする保育について例を挙げながらの講演でした。

次にシンポジウムが行われ、大会テーマについて各シンポジストから話を伺いました。シンポジストは山崎龍明武蔵野大学名誉教授、幼稚園代表として井上悦子武蔵野大学附属幼稚園主事、保育園代表として常葉大学非常勤講師の土山雅之白道保育園園長、コーディネーターとして武蔵野大学非常勤講師の髙輪真澄光輪幼稚園園長が担当し、育ちあう保育について話し合われました。

翌日は、研究発表が行われました。

1.「真宗（まことの）保育」の実践における仏典童話の活用に関する一考察
　鎌田　恵　長浜愛児園園長

2.「子育ち・子育て支援における地域との連携」～大阪の地域貢献支援員『スマイルサポーター』事業等を生かした保育園の取り組み～
　岩田公子常称寺保育園園長、白神明子副園長

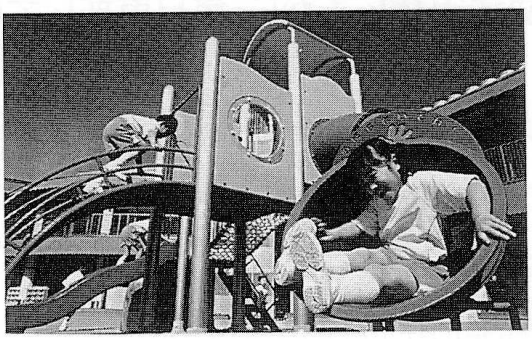
3.「関わりの中で生かされているということ」～場面緘黙の園児から学んだこと～
　工藤敬子天童幼稚園教諭、舟越睦子同教諭

4.「いのちの繋がりに芽生える保育実践」真宗保育（まことの保育）からの一考察
　貞松征夫九州龍谷短期大学元学長、松田順子東九州短期大学教授

○ポスターセッション
特色ある教育活動の一角を担う動物飼育体験
　武蔵野大学附属幼稚園

◇

２０１７年度は10月に九州龍谷短期大学にて大会が開催される予定です。



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

成道会

（敬称略）

松尾幼稚園
日仏保副理事長 副園長
〒615・8296 京都市西京区松室山添町6
電話 075・381・2591
日野 昭文

りんでん幼稚園
園長
〒567・0832 大阪府茨木市白川1・11・1
電話 072・633・1212
加藤 英子

言問幼稚園
日仏保参務 園長
〒131・0033 東京都墨田区向島5・4・4
電話 03・3622・7771
小林 昭彦
小林 昭寛

剱正幼稚園
園長
〒491・0859 愛知県一宮市本町1・4・24
電話 0586・71・3364
祖父江 霊亮

台東初音幼稚園
園長
〒110・0001 東京都台東区谷中5・2・4
電話 03・3822・2431
髙橋 海有

建中寺幼稚園・葵保育園
日仏保運営審議委員 園理事長
〒461・0003 名古屋市東区筒井1・7・52
電話 052・953・2172
村上 真瑞

初山幼稚園
園長
〒216・0026 川崎市宮前区初山1・2・1
電話 044・977・5671
町田 順文

もみじこども園
園理事長
〒300・0812 茨城県土浦市下高津2・10・22
電話 029・821・1645
妹川 真澄

麻布山幼稚園
園理事長
〒106・0046 東京都港区元麻布1・6・21
電話 03・3453・6710
麻布 真海

月かげみどり保育園
日仏保理事 園理事長
〒604・8423 京都市中京区西ノ京西月光町19・1
電話 075・821・5010
浦田 裕人

光明台幼稚園
園長
〒594・1111 大阪府和泉市光明台3・6
電話 0725・56・2661
浅井 るり子

宗教法人 常徳幼稚園
園長
〒156・0051 東京都世田谷区宮坂2・10・1
電話 03・3427・2251
武田 治恵

明徳幼稚園
園理事長 園長
〒105・0011 東京都港区芝公園4・7・4
電話 03・3431・0592
友田 達祐
蓮池 光洋

学・顕真学園 新小岩幼稚園
園理事長
〒132・0031 東京都江戸川区松島4・34・2
電話 03・3651・0963
千葉 進

鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園
園長
〒230・0063 横浜市鶴見区鶴見2・1・3
電話 045・573・8819
山崎 和子

月映保育園
園長
〒134・0091 東京都江戸川区船堀6・9・30
電話 03・3689・0340
木本 龍道

中野小鳩幼稚園
園長
〒165・0025 東京都中野区沼袋3・21・7
電話 03・3385・0017
根本 定子

日仏保参務 園代表
〒554・0051 大阪市此花区西島3・26・11
電話 06・6461・7849
神谷 周道

社福・多善会 北港学園保育所
園理事長
〒144・0047 東京都大田区萩中1・12・7
電話 03・3732・8781
髙輪 真澄

日仏保常任理事 園理事長・園長
学・善永学園 光輪幼稚園
〒198・0064 東京都青梅市柚木町2・312・1
電話 0428・76・0809
増澤 秀丸

宗教法人 よしの保育園
園理事長
日仏保副理事長
〒615・8296 京都市西京区松室山添町6
電話 075・381・2591
日野 昭文

ありがとう
ございました。

訃報

横井 恭一 先生（享年88歳）

日仏保参務・上京保育所創設者（京都市）

平成28年12月17日、公益社団法人日本仏教保育協会参務・横井恭一先生が88歳の長寿を全うし遷化されました。

先生は昭和28年3月佛教大学卒業後、同大学図書館助手を経て、翌29年4月に家政学園高等・中学校教諭に任官。以来20年間同校に奉職。その間、昭和38年から超勝院（浄土宗）の住職を務める傍ら、同40年4月、京都市上京区に「上京保育所」を創設し、施設長・所長として仏教保育に力を注いでこられました。

平成2年の「第21全国仏教保育京都大会（7月28日・29日）」開催に当たっては運営に尽力。

また日仏保理事、参務の在任中においては協会の振興と後進への育成に貢献、その功績が評価され、平成19年には「仏教保育功労賞」が贈られました。

茲に、生前のご功績を称え、謹んでご冥福をお祈りいたします。

合　掌

関西地区連絡協議会

平成29年2月8日（水）

受　付　午後3時00分～3時30分
報告会　午後3時30分～4時30分
懇親会　午後5時00分～7時00分
会　場　ホテルグランヴィア京都

養成機関連絡協議会

平成29年2月23日（木）

受　付　午後3時30分～4時00分
協議会　午後4時00分～
懇親会　午後6時00分～
会　場　芝パークホテル

「高齢者と若者」

●これまで65歳以上とされていた高齢者の定義について、日本老年学会と日本老年医学会は75歳以上とするべきだと提言された。65歳から75歳までは「心身ともに元気な人が多く、高齢者とするのは時代に即さない」というのが提言の論拠である。そこで、この年齢層を「准高齢者」と位置付けしたという。

もとより、高齢者についての厳密な定義はない。65歳以上の身体能力の速度は上がる傾向にあり、生物学的に見た年齢は20年くらい前と比べると10歳ほど若返っている。こうしたことから高齢者は75歳以上とし、65～74歳は「高齢者の準備期間」と位置づけ『社会を支える人たち』と据え直している。因みに90歳以上は「超高齢者」とした。

高齢者の定義を変えるのは結構だが、社会福祉がネガティブにならないことを願う。

●今年の成人式は1月9日。20歳を迎えた若者を祝い励まし、大人になった自覚を促すのが開催の目的である。しかし、若者たちのモラルの低下が目立ち、式典当日のトラブルが絶えない現状に「成人式廃止」を指摘する声が出てきた。選挙権が18歳に引き下げられたことで、20歳という概念が崩れたのかも知れないが、皆さんはどう思われますか？

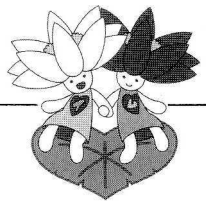
事務局日誌

12／5　「仏教保育」「仏カリ」編集会議
　　事務局会議
12／6　東仏保「成道会の集い」
　　よみうりホール

編集後記

■明けましておめでとうございます。皆様には爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます■今年の干支は「酉」。夜がほのぼのと明ける「あさぼらけ」、一日の始まりを告げる〝とり〟の声に目覚め、いそいそと仕事場に出かける人たちの姿は『今は昔』の風物となりました。そんなノスタルジーに耽るうち、「酉」について知りたくなり調べてみました■「酉」は、酒を入れる容器を現した漢字だとか。言われてみれば『酔う・酩酊・お酌・焼酎』等々、お酒の香りが漂ってきそうな漢字になっています。酒の部首も酉でした■昔からニワトリは新しいことの始まりを告げる鳥としても親しまれてきました。古事記にもあります。太陽の神・天照大神が天の岩戸に姿を隠して世界を闇にしたとき、常世長鳴鳥（とこよのながなきどり）が岩戸の前で鳴き、それに合わせて舞う踊り子たちが気になって天照大神は岩戸から出られたという神話がありました■因みに、ニワトリは産んだ卵が巣から無くなると、また産むという習性を持っています。その『律儀な勤勉さ？』は見習うべきかも知れません。（O・I）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島　満
毎月1回1日発行（1部315円）



仏教保育綱領

慈心不殺	生命尊重の保育を行なおう
仏道成就	正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進	よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体￥20,000（8%税込￥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。

ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

日仏保

仏教保育

2 Feb.

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

第13回理事会／第10回運営審議委員会／平成28年度第2回仏教保育研修会／新年懇親会

生命尊重で見据えた未来の全議案採決!!

平成29年1月23日／大本山増上寺・光摂殿

緑谷一雄理事長

八木季生名誉会長

研修会風景

講師
吉田正幸先生

理事会・運営審議委員会

公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は1月23日、大本山増上寺・光摂殿において標記の会を開催しました。「平成28年度収支補正予算（案）」「平成29年度事業計画（案）」「平成29年度収支予算（案）」等、生命尊重の理念に根差した上程議案は慎重かつ活発に審議され、何れも全員の挙手によって採択されました。

また、「子ども・子育て支援新制度」がスタートして2年が経過しましたが、待機児童や保育士不足など深刻な問題を背負いつつ、依然として牛の歩みを続けていることはご高尚のとおりです。そこで今回の「仏教保育研修会」では吉田正幸先生（保育システム研究所所長）を講師にお迎えし、新制度の現状や今後の課題等についてお話を伺いました（要旨は次号予定）。

理事会・運営審議委員会

はじめに、緑谷理事長の主導で三帰依文を斉唱。続いて同理事長から、「北海道から九州まで、全国から理事並びに運営審議委員の先生方のご出席をいただき有難うございます」と感謝の辞を述べられてから、待機児童解消問題等にも触れながら「保育士確保のためとは言え、幼児教育・保育を志望する学生に対し、卒業後は地元地域での就労を条件に家賃の補助や就学資金の貸し付けをする地域もあることを耳にしますが、いささかの疑念と憂いを禁じ得ません。私たちは仏教の理念に基づいた保育を振興するものであります。そうした動きに右顧左眄することなく仏教保育に専念したいと思います。本日の上程議案は、その理念に基づいて策定したものであります。よろしくご審議をお願い致します」と挨拶されました。

議案上程の先生方

髙輪 常任理事

日野 副理事長

髙山 副理事長

荻野 常任理事

髙木 常任理事

麻布 常任理事

大塚 福島大会事務局長

村上 運営審議委員

古屋 常任理事

新年懇親会

乾杯の音頭 関岡先生

このあと、司会の五島事務局長から、理事会並びに運営審議委員会の両会とも成立する旨の報告を受け、審議に入りました。

上程議案は次のとおりです。

第1号議案　平成28年度補正予算（案）

第2号議案　平成29年度事業計画（案）

第3号議案　平成29年度収支予算（案）

第4号議案　その他

第1号議案から第3号議案については、所管する担当常任理事から上程され、何れも全員の挙手によって承認されました。

第4号議案の「その他」については、はじめに「第34回全国仏教保育福島大会」が無事、かつ盛況裡に終えたことの報告が同大会事務局長・大塚孝明先生（梁川保育園・伊達市）から感謝の言葉を添えて述べられました。

次いで、髙山久照副理事長から「『菩提樹学園』の現状について、公益財団法人国際仏教興隆協会（ＫＢＫＫ）から、資金収入漸減に加えてインド経済の諸物価並びに人件費の高騰、日印為替レートにおける円安などの要因により厳しい運営を強いられている。日仏保としては、私たちの先輩方が築いてきた大事な社会事業ですから是非とも存続していきたいと思っています。その状況については、機関紙『仏教保育』12月号（No.６３２）と1月号（No.６３３）に掲載していますのでご高覧いただき、ご提案等賜りたいと思います」と報告がありました。

続く、日野昭文副理事長から、京都における待機児童について、「受け入れには努力している。ただ、幼稚園での預かり保育では厳しい面もあり、検討している」旨、報告されました。

続いて、「第35回全国仏教保育愛知大会」について、運営審議委員の村上真瑞先生から、「担当事務局長が本日は出席していませんので確たるお応えは出来ませんが、夏は大きなイベントが開催される季節ですので、まずは会場の確保を最優先し、名古屋特殊陶業市民会館を押さえております。大会の企画・運営等についての会議・活動はこれから取り組むことになっております」との報告でした。

最後は、「仏教保育振興国会議員懇話会」への入会を希望される、「衆議院議員・藤井 比之（ふじい ひさゆき）先生（自由民主党）／衆議院議員・鳩山 次郎（はとやま じろう）先生（自由民主党）お二人の入会について諮ったところ、全員挙手での賛同得て入会が決定されました。

◇

小憩の後「仏教保育研修会」を開催。講師の吉田正幸先生から「理念から捉え直した新制度の姿と課題」というテーマの講話を拝聴しました。

（要旨掲載は次号を予定）

新年懇親会

光摂殿に隣接する、ザ・プリンスパークタワー東京を会場に、「仏教保育振興国会議員」の先生方をはじめ関係団体、各宗派保連、養成機関、加盟園の方々の参加を得て、恒例の新年懇親会が催されました。

緑谷理事長、日仏保名誉会長・八木季生台下（大本山増上寺法主）の挨拶に続き、衆・参議員の先生方からも交々嬉しいお言葉を頂きました。歓談の折々に、司会者の指名で先生方や関係者の方々の挨拶が続き、和やかな懇談が続きました。

平成 28 年度　収支補正予算

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

Ⅰ．収入の部

単位　円

大科目	中科目	小科目	当初予算額 (A)	補正予算額 (B)	増減 (A － B)	備　　考
基本財産運用収入	基本財産運用収入		84,000	57,000	27,000	
		社団基金利息収入	70,000	40,000	30,000	元金 45,355,000 円
		菩提樹学園利息収入	9,000	12,000	Δ 3,000	元金 32,100,000 円
		持田基金利息収入	1,000	1,000	0	元金 800,000 円
		古屋基金利息収入	4,000	4,000	0	元金 5,400,000 円
入会金収入	入会金収入	入会金収入	10,000	10,000	0	２園
会費収入	会費収入	会費収入	25,300,000	25,300,000	0	23,000 × 1.100 施設
事業収入	出版収入		13,480,000	12,500,000	980,000	
		こどものくに収入	1,000,000	1,000,000	0	
		ほとけの子収入	5,280,000	5,000,000	280,000	
		仏教保育カリキュラム	7,200,000	6,500,000	700,000	
	刊行物監修		2,230,000	2,113,454	116,546	
		こどものくに編集	280,000	280,000	0	
		出席カード印税	350,000	333,454	16,546	フレーベル仏保版出席カード
		保育教材ロイヤリティー	1,600,000	1,500,000	100,000	夏の絵本、合掌人形、上製本等
		その他編監修料	0	0	0	
	受講料収入	中央講習会受講料	1,600,000	1,687,216	Δ 87,216	127名× 10,800 円、お弁当代・寄付含む
	社会貢献・国際交流（生命尊重）		4,500,000	4,500,000	0	
		生命尊重募金	4,500,000	4,500,000	0	
	義援金	義援金	1,000,000	1,000,000	0	
補助金収入	助成金収入	年度・制度対策助成金	4,000,000	4,000,000	0	宗派・本山よりの助成金
寄付金収入	寄付金収入	寄付金収入	550,000	550,000	0	鈴木出版 25　保育教材６社 30
雑収入	雑収入		7,605,000	7,805,000	Δ 200,000	
		運用利息収入	5,000	5,000	0	
		協賛金収入	1,000,000	1,000,000	0	協賛金
		広告収入	5,000,000	5,200,000	Δ 200,000	仏カリ他広告収入
		その他の雑収入	1,600,000	1,600,000	0	６月・１月懇親会費　関西地区連絡協議会懇親会費・養成機関連絡協議会懇親会費
特定預金取崩	退職給与引当金	取崩収入	0	0	0	
前期繰越	繰越収支差額	前期繰越金	101,000,000	113,406,228	Δ 12,406,228	
		合　計	161,359,000	172,928,898	Δ 11,569,898	

Ⅱ．支出の部

大科目	中科目	小科目	当初予算額 (A)	補正予算額 (B)	増減 (A － B)	備　　考
事業費	人件費	臨時雇賃金等	0	0	0	事業のための臨時雇
	調査研究費	研究運営費	200,000	200,000	0	
	教育研究奨励費		650,000	650,000	0	
		教育研究会補助	150,000	150,000	0	東仏保ゼミ補助
		古屋・持田賞	200,000	200,000	0	全国大会開催年
		仏教保育功労賞	50,000	50,000	0	賞状、記念品
		研究発表指定園	200,000	200,000	0	全国大会開催年
		仏教保育精励賞	50,000	50,000	0	全国大会開催年
	菩提樹学園充実		600,000	600,000	0	
		学園視察派遣旅費	400,000	400,000	0	旅費補助
		同上資料代	200,000	200,000	0	学園へ現金

事業費	大会講習会開催費		7,300,000	7,580,000	Δ 280,000	
		全国大会開催費	3,800,000	3,800,000	0	本部 30 万、支部へ 350 万
		講習会開催費	2,050,000	2,330,000	Δ 280,000	関西地区研修会・夏期講習会・夏期講習会案内印刷 / 平成 27 年夏期講習会場費含む
		仏教保育研修会費	450,000	450,000	0	
		支部講習会補助	1,000,000	1,000,000	0	支部、ブロックで行う講習会補助
	刊行・出版費		26,500,000	26,500,000	0	
		仏教保育出版費	9,000,000	9,000,000	0	約 75 万× 12
		ほとけの子出版費	1,500,000	1,500,000	0	原稿、制作費
		月刊仏カリ費	16,000,000	16,000,000	0	製作、発送費
	各種委員会委託		1,180,000	1,180,000	0	
		仏カリ編集委員会	200,000	200,000	0	
		こどものくに編集委員会	280,000	280,000	0	委員会へ
		ほとけの子編集委員会	400,000	400,000	0	委員会へ
		教材開発委員会	300,000	300,000	0	委員会へ
	助成金支出		4,300,000	4,300,000	0	
		支部助成金	2,500,000	2,500,000	0	支部へ会費 10% 還元
		菩提樹学園助成	1,000,000	1,000,000	0	学園運営費　国際仏教興隆協会へ
		各種団体提携費	800,000	800,000	0	宗派保連、保育団体・関西地区連絡協議会
	社会貢献・国際交流		4,300,000	4,300,000	0	
	（生命尊重）	菩提樹学園助成	1,000,000	1,000,000	0	学園運営費　国際仏教興隆協会へ
		義援金	1,000,000	1,000,000	0	
		印刷作成費	1,500,000	1,500,000	0	ポスター、イノチシール、チラシ、写真ニュース含む
		募金経費	800,000	800,000	0	郵便振替の手数料
	各種対策費		2,300,000	2,300,000	0	
		組織強化費	1,000,000	1,000,000	0	支部強化経費、支部事業助成
		制度対策費	1,000,000	1,000,000	0	懇話会、顧問弁護士
		養成機関連絡費	300,000	300,000	0	養成機関連絡協議会
	事業雑費		1,100,000	1,100,000	0	
		ホームページ運営費	600,000	600,000	0	
		事業雑費	500,000	500,000	0	
管理費	会議運営費		4,850,000	5,094,000	Δ 244,000	
		理事運営審議委員会開催費	2,800,000	2,936,000	Δ 136,000	2 回開催交通費、1 月新年懇親会・平成 27 年度分理事会会場費含む
		総会運営費	1,500,000	1,608,000	Δ 108,000	総会及び 6 月懇親会・総会案内印刷 平成 27 年度社員総会会場費含む
		支部長会・参務会開催費	300,000	300,000	0	将来検討委員会
		事務局運営費	250,000	250,000	0	
	給料手当		5,080,000	5,080,000	0	
		給料・諸手当	3,800,000	3,800,000	0	給与＋通勤交通費　非常勤分を省く
		賞与	960,000	960,000	0	4 ヶ月
		所定福利費	320,000	320,000	0	健保、年金掛金補助、労働保険
	役務費		3,620,000	3,620,000	0	
		旅費交通費	420,000	420,000	0	交通費
		通信運搬費	1,500,000	1,500,000	0	郵券、電話等通信費
		印刷製本費	300,000	300,000	0	封筒等印刷全般
		什器備品費	100,000	100,000	0	事務所備品
		消耗品費	200,000	200,000	0	文具等
		借料損料	600,000	600,000	0	事務機器リース、コピーランニングコスト
		租税公課	500,000	500,000	0	法人税等
	事務所費		2,810,000	2,810,000	0	
		貸借料	2,160,000	2,160,000	0	事務所賃借料　18万／月
		光熱水費	650,000	650,000	0	光熱水費負担金
	諸謝金	慶弔費	400,000	400,000	0	
	事務雑費	管理雑費	500,000	500,000	0	
特定預金支出	退職給与引当金	退職給与引当金	600,000	600,000	0	
予備費	予備費	予備費	5,000,000	5,000,000	0	
当期収支差額	当期収支差額	差額繰越金	90,069,000	101,114,898	Δ 11,045,898	
		合　計	161,359,000	172,928,898	Δ 11,569,898	

北河原東大寺長老が印度山日本寺竺主に晋山

公益財団法人 国際仏教興隆協会　事務局・大工原彌太郎

ブッダガヤの印度山日本寺の法務主管輪番の「竺主（じくしゅ）」第六世に、華厳宗の前管長で現・奈良東大寺長老の北河原公敬大僧正が、この1月21日に晋山されました。

すでに国際仏教興隆協会による推戴は6月になされ、7月の就任早々から竺主としてお働き下さっておりました。良き日を選んでのブッダガヤ現地での晋山法要ご執行は早くから一山挙げてご計画下さっておりましたので準備万端と申せましょう。

前日からブッダガヤに入られた法要団は東大寺さんや華厳僧衆を核に、真言・修験・真宗さんなど南都諸寺のご僧侶、それに随喜の方々とで総数50人に及ぶ構成。

折からブッダガヤはチベットをはじめとした仏教諸国からの大勢の信者で溢れており、大塔域も押すな押すなの大混雑。しかし法要は、予定どおり午前8時の大菩提寺大塔拝参・主尊仏前での誦経と、予め大塔管理委員会側が確保してあった釈尊ご成道の金剛宝座脇での晋山奉告法要で幕を切りました。

竺主晋山は、大塔からお練を組み、従者が大傘を差掛け輿に乗っての到門が習い。喚鐘が鳴り響く内に日本寺側から中村康雅理事長を頭に役員・事務局員・駐在僧らが合掌してお迎えする中を到門、輿を下乗し、鐘楼に登壇し大梵鐘を3打、続いて歴代竺主がたのご遺骨遺品を納めた顕彰供養塔檀で献香し、初代・葉上照天台宗大阿闍梨、二世・森寛紹高野山金剛峰寺第四〇六世座主、三世・春見文勝臨済宗妙心寺派管長、四世・中村康隆浄土門主、五世・半田孝淳天台座主に続く第六世竺主の法灯承拝の誦儀を経て、菩提樹学園全園児が旗を振って歓迎する中を本堂に入堂されました。

竺主ご入堂以降の進行の記述は省きます。なぜなら、惣礼（そうらい）から始まり惣礼に終わる華厳の法式は雅で荘厳で文字描写は困難。とりわけ飛鳥天平の奈良を彷彿と夢想させずには措かない唄匿（ばいのく）と、和し従う僧衆方の散華を混ぜての唄（ばい）のゆったりした音調は一瞬にして21世紀の日本寺本堂を天平勝宝の仏教伝来大仏開眼の場に変幻させ、まさに不思議力。

改めて『そうだ、仏教はこのブッダガヤで始まったのだった』と実感させられ、北河原竺主が表百文中でも触れられていましたが、今この時代のブッダガヤに日本寺のあることの意味を様々な意味で自問、湧き出てくる四弘誓願の呟きの尽きることがありませんでした。

月刊絵本

創刊2017

はじめてのちいさなえほん

対象　1～2歳児

定価　390円（本体361円）

ページ数　28ページ

サイズ　154×147mm

ココにこだわって作りました！

★1、2歳児の視野に合わせた小さなサイズ

★シンプルで何度も読みたくなるストーリー

★軽くてとっても丈夫！
安全な角丸仕様のボードブックです。

2017年度4月号は…

あのね

さえぐさ ひろこ／作　入山さとし／絵

◆仏教保育絵本「こどものくに」ひまわり版、チューリップ版、たんぽぽ版も合わせてご採用・ご検討ください◆

鈴木出版株式会社　〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　TEL 03-3945-6612(保育営業部)　FAX 03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

第32回 埼玉県佛教幼児画展
『驚きと感動』に魅せられた幼児画展

平成29年1月21日～22日
さいたま市文化センター

雲一つない爽やかなお天気に恵まれた1月21日、埼玉市文化センターで恒例の「埼玉県佛教幼児画展」が開催されました。今年度は12の仏保園（園名は別掲）より352点の作品が出展されました。受付を通り抜けると広い展示室のパネルに飾られた子どもたちの絵が出迎えてくれます。

受付で頂いた資料には、こんなことが書かれています。

「幼児には独特の発達があるから、芸術の一つとして見てはなりません。その子独自の表現で、自由に大胆に表現します。上手・下手で評価してはなりません。幼児の率直な感動を、その子らしい方法で表現することが造形活動の大きな狙いです。子どもたちにとっては参加することによって、喜びと同時に自信につながり、教職員にとってはお互いの勉強の場になっていきます（要旨）。」

また、絵や作品の見方も書かれています。

1．その子らしい表し方や、工夫がなされている。
2．表し方に、子どもらしい愛情が感じられる。
3．その子のお話や、感じたことが満ちている。
4．生き生きとした生命感がある。
5．何を現したかが、はっきりしている。

その「絵の見方」を参考に、じっくりと見て回りました。

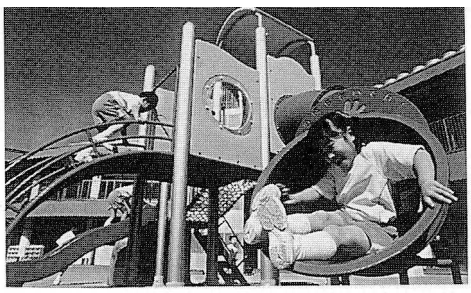
お母さんやお父さんの絵には優しさが溢れていました。絵から飛び出してきそうな力強い絵もありました。作品の一つひとつが、その子の想いが伝わってくるように思いました。

そして、表彰を受ける時の誇らしさと照れくささが交わったような表情は、とても可愛く感じました。たくさんの大きな元気をもらったような嬉しい気分で、さいたま市文化センターを後にしました。

（『仏教保育』編集局）

【出展園】

さいたま市＝厚徳幼稚園
蕨　市＝和光幼稚園
川口市＝北川口幼稚園
〃　＝西川口幼稚園
〃　＝共生幼稚園
蓮田市＝蓮田幼稚園
〃　＝黒浜幼稚園
草加市＝みのべ幼稚園
〃　＝あずま幼稚園
越谷市＝清浄院幼稚園
三郷市＝わせだ幼稚園
熊谷市＝松岩寺幼稚園



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

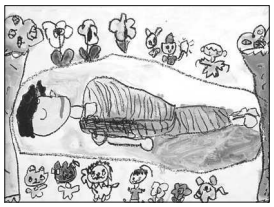
第49回 愛知県仏教保育絵画展

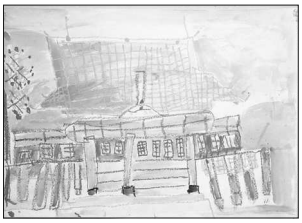
愛知県仏教保育協会顧問　村上 真瑞

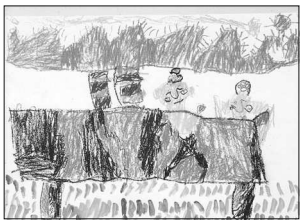
子どもの心の中には、毎月の徳目に関連した仏さまのお話、朝や帰りに両手を合わせて仏さまにお参り、お釈迦様のお誕生お悟り、お涅槃などの行事を通して触れている仏さまのみ教えなどが、知らず知らずのうちに積み重ねられて熏習されていき、仏さまを敬ったり、仏さまに親しんだりする心が育っていきます。その心が絵画となって現れたとき、大人には真似のできないすばらしい作品が出来上がってきます。

今年は第49回を迎えました。愛知県仏教保育協会では、名古屋市民ギャラリーを会場として、愛知県尾張地区の44園 264枚、豊橋市の子ども未来館ここにこ企画展示室を会場として、愛知県三河地区の6園36枚の絵画展が開催されました。期間は名古屋会場が平成29年1月24日（火）から1月29日（日）まで、三河会場が平成29年2月14日（金）から2月19日（日）までした。

表彰式には、ご指導いただいた、元祖父江町教育長の橋本弘之先生のご挨拶もいただき、名古屋会場は見学する親子約830人で一杯でした。







インフルエンザが猛威！「手洗い」「顔洗い」を忘れずに！

●インフルエンザがどんどん拡大しています。年が明け、学校が再開してからも子どもたちの間で感染が拡大しています。首都圏はもちろん、千葉、埼玉なども、警戒レベルに達したそうです。東海地方でも急増し、今季最多を更新しているとのこと。特に抵抗力・体力ともに低下している高齢者の方は重症化しやすくワクチンも効きにくく、肺炎を伴って亡くなられた方も。今年は香港型のA型ウイルスが多く、感染した9割の人がA香港型だとか。A香港型はアメリカやヨーロッパでも流行し、警戒を呼び掛けています。

●インフルエンザワクチンは、その年の冬に流行するウイルスをおよそ半年ほど前に予測して鶏卵の中でウイルスを培養して作るのですが、A香港型は作る過程で体に免疫をもたらす「抗原」が変異しやすいと言います。期待したよりも効果が低いようですので、ワクチンを打ったからといっても油断は禁物のようです。

●予防法としては外出時のマスクの着用、帰宅時の手洗いなどは当然ですが、「顔洗い」も大切だそうです。顔には「ウイルス菌」がたくさん付着しており、顔をこすったりした手で部屋のドアや電話（スマホ・ケータイ）等に触れば、ウイルス菌が付着し、1日～2日は生きているそうですから注意するようにと、医師会でも呼び掛けています。また、電車などで座っているとき、前に立つ人の〝くしゃみ〟や〝咳〟などによる飛沫感染には取り分け注意が肝要とのことです。12月から3月あたりまでは「要注意！」だそうです。

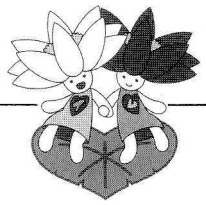
事務局日誌

1／13　「仏カリ」「仏教保育」編集会議
　　事務局会議
1／16　「ほとけの子」編集会議
1／23　「第13回理事会」「第10回運営審議委員会」
　　「平成28年度第2回仏教保育研修会」
　　「新年懇親会」

編集後記

■平成28年度第2回仏教保育研修会では吉田正幸先生（保育システム研究所長）から「理念から捉え直した新制度の姿と課題」というテーマでご講演頂きました。幼稚園における新制度移行園の状況や私学助成園等における課題について最新の情報を語って下さいました。制度ばかりにとらわれて、自らの足下を見失いがちです。中期展望を踏まえる上で、意味のあるご提言でした■東京都では、小池知事が都政改革に取り組んでいます。都内の各種団体、私立学校関連予算要望への対応も大きく変わりました。これまで都議会が関与されていた復活要望を無くし知事直接のヒアリングという変更も驚きでしたが、その報道があってから団体に連絡・通知が届くまでの速さにも驚かされました。そんな小池知事がいつも口にされる「都民ファースト」。ファーストと言うからには、2番目、3番目、そして最下位もあるのでしょう。優先順位の低い者は無視されかねないのでは？■仏さまの眼は、ファーストもセカンドも作らない「摂取不捨」の心です。すべてを等しく観る目です。仏さまの悟りの蓮華が安心して咲くためには、大きな池が必要なのかも知れません。（五島）

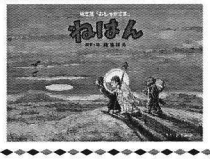
公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島　満
毎月1回1日発行（1部315円）



仏教保育綱領

慈心不殺	生命尊重の保育を行なおう
仏道成就	正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進	よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体￥20,000（8%税込￥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

仏教保育

3 Mar.

伝えよう　生命（いのち）の尊さ　ほとけの心

平成28年度 第2回 仏教保育研修会

理念から捉え直した新制度の姿と課題

講師　吉田 正幸 先生（保育システム研究所 所長）

平成29年1月23日／大本山増上寺・光摂殿

「子ども・子育て支援新制度」がスタートして2年が経過しましたが、必ずしもその制度を十分に活かしきれなかったというのが実情のようです。平成32年からの5ヵ年計画に備えて改めて新制度の基本（理念）を確認すべく、今、国も含めた各自治体においてその見直しの議論に入る準備に取りかかっています。制度として不十分な点をどこまでどのように改善できるのか、期待するところです。今回の「仏教保育研修会」では吉田正幸先生をお招きし、新制度における課題・展望など語って頂きました。（以下要旨）

講師の吉田正幸先生

吉田先生は開口一番、「きょうは折角の機会ですから、平成31年3月までに改定告示される『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』並びに『認定こども園保育要領』等の内容はこれまでになく大きく変わる予定ですので、現場の先生方が戸惑うことのないよう、その辺りの手がかりなどについても後半でお話をしたいと思います。あと一つ、『幼児教育振興法案』というのがあります。今国会において審議されるかどうか定かではありませんが、この法案は『必ず審議をする』ということになっております。また、野党が反対するような内容ではありませんので審議されれば通る案件です。その場合に備えて支障きたさないよう、その対応についての要点などもお伝えしておきたいと考えております」と述べられてから、本題に入られました。

◆「制度」は『道具』

新制度については、先生方には基本的な理解はされていると思いますが、制度というのは所詮、道具です。つまり「ツール」ですから、どう上手く使うかをお考え頂きたいと思います。

どんな制度にも〝完璧〟というものはありません。不備な点が生じることがままあるのは事実であります。不備を指摘することも大切ですが、道具としての制度であるということを先ず念頭においた上で、それをどう使うかを基本に置かなければなりません。皆さんの園にはそれぞれに保育の理念、あるいは保育の目標があると思います。その出発点の理念と保育のベースとなるものをしっかりと抑えることによって制度を活用する筋道をつくると共に、新制度の理念と各園における理念にどこまでリンクさせていくか、これが最大の課題だと思います。

◆新制度における三つの理念

新制度には「理念」が三つあります。一つは、基本となる「概念と理念」です。あとの二つは「子育て家庭への支援」に向けた仕組み上の理念と政策上の理念です。

❶「基本理念・概念」
⇓すべての子ども・子育て家庭への支援。
すべての子どもの最善の利益の保障。

❷「仕組み上の理念」
⇓例外のない保育保障、切れ目のない支援。
子どもや子育てにやさしいまちづくり。

❸「政策上の理念」
⇓施設中心から機能中心へ。
供給主体から需要主体へ。

「理念」というのはキャッチフレーズのようなものですから、いろいろな解釈ができると思いますが、新制度における理念には「日本のそれぞれの地域で生まれ育つすべての子どもたちが、次代を背負う立派な人になるための基本的な考え方を示す」ものであります。

これまでは幼・保が別々に制度化されていましたが、新制度では、基本・仕組み・政策という三つの理念のもとに、幼・保を超えてすべての子ども・子育て家庭の支援に各園がどこまで関われるか、ということが大きなポイントとなります。

即ち、我が国に生まれたすべての子どもを「健やかに・逞しく・豊かに」育てていく、家庭への貢献をも含めて。そのためには「質の高い教育」「質の高い保育」がどこまでできるかということが重要になってきます。その、質の高い教育・保育を保障するにはどうすれば良いか。それが、これまでの施設中心の保育から機能中心の施設、ということになります。

もう、幼稚園だから、保育所だから、認定こども園だから、などと言っている時代ではありません。いずれの施設であろうと、子育て家庭のためにどれだけ質の高い豊かな機能を持って、教育・保育ができるかということです。そういう意味でも施設中心の発想は捨てて、機能中心の仕組みに立つことが必要です。

もう一つは供給主体から需要主体への転換であります。ここで言う供給とは、子どもたちに教育や保育、あるいは保護者に子育て支援を提供する側、つまり幼稚園や保育所、認定こども園、あるいはそれを所管する行政、国、都道府県、市町村を言います。

需要とは、それを受ける側、つまり子どもたちや保護者を言います。場合によっては地域住民も需要者に当たります。

これまでは、ともすれば供給側の事情とか都合などの考え方で進めてきた制度政策でしたが、新制度以降では、いかに需要側に立って発想していくかということが極めて重要になってきます。

◆施設中心から機能中心へ

施設中心から機能中心への変化には、長い時間がかかっています。その一つの終着点が新制度だと言ってもいいと思います。

《幼稚園では》

昭和22年に学校教育法や児童福祉法が制定され、幼稚園は文部省に、保育所は厚生省が所管するという二元行政となってそれぞれに発展してきました。戦後の日本が復興していく中で幼稚園の施設は不足していました。戦前における就学前教育は富裕な家庭の子女が主に利用していたためです。そして、高度経済成長期に入った昭和30年以降、当時の文部省は幼稚園教育振興計画を第一次から第三次まで矢継ぎ早に出し、第一次では幼稚園を希望する5歳児は全員入園させる計画。第二次では4歳児を、第三次では3歳児を、すべて受け入れるという拡充・拡大計画を推進する「幼稚園教育政策」で臨みました。

しかし、やがてバブルは崩壊し、平成時代に入る頃から少子化が進んでいくとともに、子どもの貧困が社会問題になってきました。その貧困の連鎖から子どもを救うには幼児教育の力が極めて大きいことが各種の調査・研究で分かり、幼児期の教育の重要性が認識されたことは周知のとおりです。

《保育所では》

一方、保育所はどういう変化をしてきたのか。戦後間もない時期においては「戦災孤児」「浮浪児」などと呼ばれた子どもたちは、明日の〝いのち〟さえ保障されない困難な状況下に置かれていました。しかも『子だくさん』家庭は多く、親たちは子どもの養育を考えるゆとりもない状況です。そこで、救貧対策として展開したのが保育所という施設です。

やがて高度経済成長期に入るとともに家計の維持という面もありましたが、母親も『自分のライフスタイルの一環として働く』という選択もできる時代に入りました。しかし、虐待や貧困問題が浮上し、「働いている・いない」という線引きで児童福祉が左右されるような単純な時代ではなくなってきたのです。

戦後以来、これまで続いてきた児童福祉政策も、「子どもの最善の利益を保障」するには、親も家庭も視野に入れる政策に転換せざるを得なくなったのです。

幼稚園教育政策から「幼児教育政策」へ、児童福祉政策から「家庭福祉政策」へと長い年月を経て変革し、その終着点が「子ども・子育て支援新制度」ということです。

◆供給主体から需要主体へ

「供給主体から需要主体へ」は、今回の新制度では仕組み上でのキーワードではなかろうかと思っています。

仕組み上の理念については先にも述べましたが、この理念は三つあります。

・例外のない保育保障
・切れ目のない支援
・子育てにやさしいまちづくり

の三つです。この仕組み上の制度を「どう運用し・誰のために・何をする」かが、大切なポイントと言えましょう。

子どもへの例外のない保障の中には「質の高い教育・保育」が含まれています。とは言っても新制度で一気に「例外ゼロ」にはならないでしょう。けれども、今までの制度よりは例外の少ない、つまり「家庭や親の事情等を踏まえながら、その子どもが必要とする教育・保育をなるべく例外なく保障しましょう」というのが仕組み上の大きな理念になっています。

もう一つ、「親に対する切れ目のない支援」というのがあります。これまであった切れ目を、新制度では「できるだけなくしていきましょう」ということが含まれています。

例えば、これまであった切れ目の最たるものは「1歳の切れ目」でした。「働いている母親であっても1年間の育児休暇がとれる」生後1年間は子どもと向き合って「愛着形成」を育むことで親としての自覚が生まれるということですから、1年間を子どもとともに大切に過ごしたいという「休職」です。

しかし、悠長に1年間を過ごしていると1年後には保育園に入れるのが困難になったり、仕事への復帰が難しくなるなどの障害が出てきたりします。つまり、妊娠・出産・育児・子育て、いわゆる母親のライフステージも、現実の前には霧消することが多いのも事実です。

ネーミングの聞こえはあまりよくはありませんが、「地域子育て家庭包括センター」が需要主体となって、利用者に寄り添うことで、切れ目のないように支援するという活動を展開しています。

あと一つが「子ども・子育てにやさしいまちづくり」です。

近年は、地域と子どもとの関わりや機能が低下しています。幼稚園や保育所はその延長線上にある迷惑施設と言われ、保育所など新しく施設を作ろうとすれば地域住民から「子どもの声はうるさい」「騒音と同じだ」などと反対される。少子化で子どもを大事に育てようという気持ちはあるが、自分たちの住む地域では反対する・・・、悲しい現実もあります。

子どもだけではありません。「車椅子歩行」など障害を持つ人、荷物を抱えて階段を上り下りするお年寄りとか妊産婦など、ちょっと手助けする、そんな思いやりをみんなが持てる町づくりをするには、地域そのものを変えていかなければなりません。「子どもや子育てにやさしいまち」にするにはどうすればよいか、を考えようということです。町の活性化も含めた「やさしいまちづくり」ができれば、そこに住む人たちも「自慢できる町」になるんだということを念頭に置いて欲しいと思います。

蛇足ですが、認定こども園は、地域の子どもや子育ての支援は義務でもありますし、社会福祉法人園は、これまで以上に地域に貢献して欲しい、というのも仕組み上の理念には盛り込まれています。そうした場合、学校法人の幼稚園はどうするか。「関係ない」と高みの見物はなさらないでしょうが、地域に貢献できることを考えて頂きたいと思います。

以上が、「子ども・子育て支援新制度」の理念を中心に捉え直したお話です。

◇

◆本紙次号（4月1日号・№636）では、「子ども・子育て支援新制度」における「市町村事業計画」を中心テーマに報告します。また、大きく変わると予想される「幼稚園教育要領（案）」【幼児期までに育って欲しい姿 他】「保育所保育指針（案）」【幼児教育の共通性 他】を抜粋して報告します。

月刊絵本
創刊2017
はじめてのちいさなえほん

対象　1～2歳児
定価　390円（本体361円）
ページ数　28ページ
サイズ　154×147mm

ココにこだわって作りました！
★1、2歳児の視野に合わせた小さなサイズ
★シンプルで何度も読みたくなるストーリー
★軽くてとっても丈夫！
安全な角丸仕様のボードブックです。

2017年度4月号は…
あのね
さえぐさ ひろこ／作　入山さとし／絵

◆仏教保育絵本「こどものくに」ひまわり版、チューリップ版、たんぽぽ版も合わせてご採用・ご検討ください◆

鈴木出版株式会社　〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　TEL 03-3945-6612(保育営業部)　FAX 03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/

平成 29 年度　収支予算

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

Ⅰ．収入の部

単位　円

大科目	中科目	小科目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A － B)	備　　考
基本財産運用収入	基本財産運用収入		57,000	84,000	Δ 27,000	
		社団基金利息収入	40,000	70,000	Δ 30,000	元金 45,355,000 円
		菩提樹学園利息収入	12,000	9,000	3,000	元金 32,100,000 円
		持田基金利息収入	1,000	1,000	0	元金 800,000 円
		古屋基金利息収入	4,000	4,000	0	元金 5,400,000 円
入会金収入	入会金収入	入会金収入	10,000	10,000	0	２園
会費収入	会費収入	会費収入	25,300,000	25,300,000	0	23,000 × 1.100 施設
事業収入	出版収入		12,500,000	13,480,000	Δ 980,000	
		こどものくに収入	1,000,000	1,000,000	0	34,000 × 2.50 × 12
		ほとけの子収入	5,000,000	5,280,000	Δ 280,000	
		仏教保育カリキュラム	6,500,000	7,200,000	Δ 700,000	購読料 約 1,100 施設× 12
	刊行物監修		2,230,000	2,230,000	0	
		こどものくに編集	280,000	280,000	0	
		出席カード印税	350,000	350,000	0	フレーベル仏保版出席カード
		保育教材ロイヤリティー	1,600,000	1,600,000	0	夏の絵本、合掌人形、上製本等
		その他編監修料	0	0	0	
	受講料収入	中央講習会受講料	1,600,000	1,600,000	0	例年の参加者約 160 名ほど
	社会貢献・国際交流（生命尊重）		4,500,000	4,500,000	0	
		生命尊重募金	4,500,000	4,500,000	0	
	義援金	義援金	0	1,000,000	Δ 1,000,000	
補助金収入	助成金収入	年度・制度対策助成金	4,000,000	4,000,000	0	宗派・本山よりの助成金
寄付金収入	寄付金収入	寄付金収入	550,000	550,000	0	鈴木出版 25　保育教材６社 30
雑収入	雑収入		7,605,000	7,605,000	0	
		運用利息収入	5,000	5,000	0	
		協賛金収入	1,000,000	1,000,000	0	協賛金
		広告収入	5,000,000	5,000,000	0	仏カリ他広告収入
		その他の雑収入	1,600,000	1,600,000	0	6月・1月懇親会費　関西地区連絡協議会懇親会費・養成機関連絡協議会懇親会費
特定預金取崩	退職給与引当金	取崩収入	0	0	0	
前期繰越	繰越収支差額	前期繰越金	100,000,000	101,000,000	△ 1,000,000	
		合　計	158,352,000	161,359,000	△ 3,007,000	

Ⅱ．支出の部

大科目	中科目	小科目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A － B)	備　　考	組替後対応科目
事業費	人件費	臨時雇賃金等	0	0	0	事業のための臨時雇	
	調査研究費	研究運営費	200,000	200,000	0		印刷製本費
	教育研究奨励費		200,000	650,000	Δ 450,000		
		教育研究会補助	150,000	150,000	0	東仏保ゼミ補助	支払助成金
		古屋・持田賞	0	200,000	Δ 200,000	全国大会非開催年	支払助成金
		仏教保育功労賞	50,000	50,000	0	賞状、記念品	消耗品費
		研究発表指定園	0	200,000	Δ 200,000	全国大会非開催年	支払助成金
		仏教保育精励賞	0	50,000	Δ 50,000	全国大会非開催年	消耗品費
	菩提樹学園充実		600,000	600,000	0		
		学園視察派遣旅費	400,000	400,000	0	旅費補助	旅費交通費
		同上資料代	200,000	200,000	0	学園おみやげ	消耗品費

事業費	大会講習会開催費		7,300,000	7,300,000	0		
		全国大会開催費	3,800,000	3,800,000	0	全国大会非開催年（全国大会開催地へ 350 万、2年で 700 万）	支払助成金
		講習会開催費	2,050,000	2,050,000	0	関西地区研修会・夏期講習会・夏期講習会案内印刷	支払助成金 130 諸謝金 70 印刷製本費 5
		仏教保育研修会費	450,000	450,000	0	講師料・案内状印刷	諸謝金 10 印刷製本費 20
		支部講習会補助	1,000,000	1,000,000	0	支部、ブロックで行う講習会補助	
	刊行・出版費		26,500,000	26,500,000	0		
		仏教保育出版費	9,000,000	9,000,000	0	約 75 万× 12	印刷製本費
		ほとけの子出版費	1,500,000	1,500,000	0	原稿、制作費	印刷製本費
		月刊仏カリ費	16,000,000	16,000,000	0	製作、発送費	印刷製本費
	各種委員会委託		1,180,000	1,180,000	0		
		仏カリ編集委員会	200,000	200,000	0		委託費
		こどものくに編集委員会	280,000	280,000	0	委員会へ	委託費
		ほとけの子編集委員会	400,000	400,000	0	委員会へ	委託費
		教材開発委員会	300,000	300,000	0	委員会へ	委託費
	助成金支出		3,800,000	4,300,000	Δ 500,000		
		支部助成金	2,500,000	2,500,000	0	支部へ会費 10%還元	支払助成金
		菩提樹学園助成	500,000	1,000,000	Δ 500,000	学園運営費　国際仏教興隆協会へ	支払助成金
		各種団体提携費	800,000	800,000	0	宗派保連、保育団体・関西地区連絡協議会	会議費 45 旅費交通費 25 支払助成金 10
	社会貢献・国際交流（生命尊重）		4,500,000	4,300,000	200,000		
		菩提樹学園助成	1,900,000	1,000,000	900,000	学園運営費　国際仏教興隆協会へ	支払助成金
		支払寄附金	1,000,000	1,000,000	0		支払寄付金
		印刷作成費	1,000,000	1,500,000	Δ 500,000		印刷製本費
		募金経費	600,000	800,000	Δ 200,000		消耗品費
	各種対策費		2,300,000	2,300,000	0		
		組織強化費	1,000,000	1,000,000	0	支部強化経費、支部事業助成	支払助成金
		制度対策費	1,000,000	1,000,000	0	懇話会、顧問弁護士、全仏60周年負担金	諸謝金 40 諸会費 60
		養成機関連絡費	300,000	300,000	0	養成機関連絡協議会	支払助成金 15 会議費 15
	事業雑費		1,100,000	1,100,000	0		
		ホームページ運営費	600,000	600,000	0		委託費 50 通信費 10
		事業雑費	500,000	500,000	0		委託費 40 消耗品費 10
		名簿作成費	0	0	0		
管理費	会議運営費		4,850,000	4,850,000	0		
		理事運営審議委員会開催費	2,800,000	2,800,000	0	2回開催交通費、1月新年懇親会	旅費交通費 150 会議費 130
		総会運営費	1,500,000	1,500,000	0	総会及び6月懇親会・総会案内印刷	会議費 120 印刷製本費 30
		支部長会・参務会開催費	300,000	300,000	0	将来検討委員会	会議費
		事務局運営費	250,000	250,000	0		会議費
	給料手当		5,170,000	5,080,000	90,000		
		給料・諸手当	3,860,000	3,800,000	60,000	給与+通勤交通費　非常勤分を省く	給料手当
		賞与	980,000	960,000	20,000	4ヶ月	給料手当
		所定福利費	330,000	320,000	10,000	健保、年金掛金補助、労働保険	給料手当
	役務費		3,620,000	3,620,000	0		
		旅費交通費	420,000	420,000	0	交通費	旅費交通費
		通信運搬費	1,500,000	1,500,000	0	郵券、電話等通信費	通信運搬費
		印刷製本費	300,000	300,000	0	封筒等印刷全般	印刷製本費
		什器備品費	100,000	100,000	0	事務所備品	消耗什器備品費
		消耗品費	200,000	200,000	0	文具等	消耗品費
		借料損料	600,000	600,000	0	事務機器リース、コピーランニングコスト	賃借料
		租税公課	500,000	500,000	0	法人税等	租税公課
	事務所費		2,810,000	2,810,000	0		
		貸借料	2,160,000	2,160,000	0	事務所賃借料 18万／月	賃借料
		光熱水費	650,000	650,000	0	光熱水費負担金	光熱水料費
	諸謝金	慶弔費	400,000	400,000	0		諸謝金
	事務雑費	管理雑費	500,000	500,000	0		委託費
特定預金支出	退職給与引当金	退職給与引当金	600,000	600,000	0		
予備費	予備費	予備費	5,000,000	5,000,000	0		
当期収支差額	当期収支差額	差額繰越金	87,722,000	90,069,000	Δ 2,341,000		
		合　計	158,352,000	161,359,000	Δ 3,007,000		

平成29年度　事業計画

基本方針

生命尊重の保育確立と心の教育の推進

1　生命尊重の保育推進
心の教育「いかせいのち」の保育の充実・普及を図る

2　活力ある日仏保
財政の確立を図り会員による会員のための安定した運営基盤の確立

3　魅力ある日仏保
日仏保研究所を中心として魅力ある研修会等をとおして会員及び後継者の期待に添う日仏保の確立

4　国際交流・社会貢献のできる日仏保
生命尊重保育の普及・インド菩提樹学園・ユニセフ支援等国際交流・社会貢献を実践する

1. 生命尊重の保育推進を図る 国民運動の展開

(1) 生命尊重の保育推進のための実践、普及活動（募金運動）
(2) 財政確立のための振興活動
(3) 生命尊重の集い及び講習会・研修会等の推進
(4) 生命尊重の保育に関する参考資料の編集刊行

2. 調査・研究

(1) 仏教保育にかかわる調査・研究（仏教保育史等）
(2) 研究委員会の充実

3. 現職教育

(1) 中央講習会
ア. 第85回夏期仏教保育講習会
7月24日（月）・25日（火）
増上寺・光摂殿
イ. 第62回仏教保育関西地区研修会
(2) 講習会・ゼミナール等の開催促進

4. 指導者養成

(1) 平成29年度 第1回仏教保育研修会　6月総会時
(2) 平成29年度 第2回仏教保育研修会　1月中旬
(3) 養成機関連絡協議会　2月下旬

5. 編集・刊行

(1) 機関紙「仏教保育」
月刊　園長・教職員対象
(2) 「仏教保育カリキュラム」
月刊　教職員対象
(3) 「ほとけの子」
月刊　父母対象（宣協社）
(4) 仏教保育教材の編集・監修
1.「こどものくに」ひまわり版
月刊　年長児対象
（すずき出版）
「わたしの記録」ひまわり版
一斉購読の園に贈呈
2.「こどものくに」チュリーップ版　月刊　年中児対象
（すずき出版）
3.「こどものくに」たんぽぽ版
月刊　年少児対象
（すずき出版）
4. 出席カード
園児対象（フレーベル館）
5. なつのえほん
園児対象（すずき出版）
6. ともだちいっぱいうれしいな
新入園児対象（すずき出版）
7. 仏教保育紙芝居
8. その他必要な教材
（鈴木出版・宣協社・フレーベル館・チャイルド本社・ひかりのくに・世界文化社・学研教育みらい・ジャクエツ・エフコーポレーション等）

6. 関係団体との連絡提携

(1) 仏教各団体・他宗教団体との連絡
(2) 各私立・各宗保育団体との連絡
(3) 地方組織との連携強化及び育成指導
(4) 保育関係企業との連絡
(5) 「写真ニュース」・「日仏保のポスター」の発行
父母・教職員対象

7. 保育制度対策の活動強化

(1) 幼保加盟施設の運営・経営の調査・研究
(2) 保育制度研究会（全国制度対策委員会）
(3) 仏教保育振興国会議員懇話会との連絡強化

8. 国際交流、社会貢献の実践

(1) 国際文化交流等と社会貢献（災害救援を含む）を積極的に推進
(2) インド菩提樹学園の育成協力
ア 菩提樹学園訪問指導・運営委員会
イ 運営基金の管理運用
ウ 運営及び育成指導への協力
(3) OMEP（オメップ：世界幼児教育・保育機構）に協力

9. 奨励事業

(1) 日本仏教保育協会賞
本年度 養成機関卒業生
(2) 仏教保育功労賞
仏教保育実践に功労のあった個人で、適任者がいる年度のみ授与

10. その他必要な事業

(1) 会員加入促進運動
(2) 奉祝花まつり・暑中見舞広告・成道会等の協賛広告
(3) 各種出版物、教材の開発・販売推進（重点教材・出版物「こどものくに」「ほとけの子」）
(4) ホームページの充実
(5) その他
「仏教保育なるほど12か月」
「ポップアップ絵本おしゃかさま」「新選ジャータカ絵本全5巻」の普及促進

11. 会　議

(1) 平成28年度業務経理監査会
5月　於・日仏保事務所
(2) 第14回理事会・第11回運営審議委員会　5月　於・増上寺光摂殿
(3) 第6回社員総会　6月
於・増上寺光摂殿
(4) 第15回理事会・第12回運営審議委員会　1月
於　増上寺光摂殿
(5) 関西地区連絡協議会　2月
於　ホテル・グランヴィア京都
(6) 事務局会議・年11回開催
於・日仏保事務所
(7) 将来検討委員会の開催

以上

「関西地区連絡協議会」報告

平成29年2月8日
ホテルグランヴィア京都

日仏保副理事長・日野 昭文（松尾幼稚園・京都）

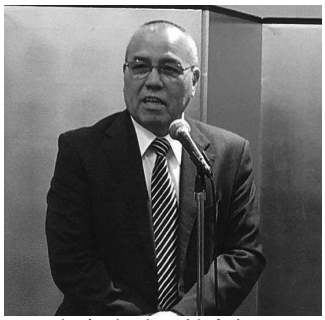
「関西地区連絡協議会」は、東京で1月に開催の「理事会」において決議された事項について、関西地区のご本山、保育連盟、その他関係役員に報告する会で、毎年2月上旬に京都で開催されています。

高山久照副理事長を導師に全員での「三帰依文」斉唱により開会。引き続き、各担当常任理事から平成28年度補正予算、平成29年度事業計画並びに収支予算について説明がありました。

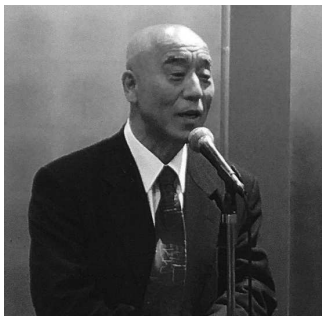
説明の中で、保育士に家賃補助や奨学金の減免により、保育士獲得の政策を実施する東京都の区や近隣の市の情報が伝えられました。人材確保がますます困難な時代になりつつあることを感じました。

昭和43年以来続くインド、ブッダガヤの菩提樹学園が直面する問題について、詳しい説明がありました。経済成長を続けるインドにおいて、従来の福祉的保育事業だけでは通用しにくい現実に胸が痛みました。

愛知支部の髙田道雄先生から、次回の全国大会は平成30年7月27日（金）・28日（土）両日の予定。また、滋賀支部の山本美智子先生から、来年度の関西仏教保育研修会は6月24日（土）に大津市で滋賀支部が開催と報告がありました。



天台宗 参務・社会部長
角本尚雄様



高野山真言宗保育連盟理事長
山本文雄様

浄土真宗本願寺派保育連盟事務局長
藤澤理映様

天台保育連盟理事長 日仏保理事
兵庫支部会長　井藤圭湍様

京仏幼参与（山科幼稚園）
白簇文雄様

日仏保監事（永安寺学園幼稚園）
金子聡秀様

■「春バテ」を克服！

「大きく羽ばたけよ」と巣立ちゆく子どもたちを送り、「友だちたくさん作ろうね」と迎え入れられる子どもたち・・・。送る寂しさと迎える嬉しさが交錯するのがこの季節。そして、健康自慢の先生たちも季節の変わり目である3月は寒暖差で体調を崩したり、環境変化によるストレスで何となく気落ちする〝要注意〟の季節でもあります。これを「春バテ」と言います。「春バテ」を乗り切るには健康パワーのある、例えば雑穀や果物をバランスよく摂るのが一番です。「健康情報」なども参考にしながら、新年度への快適なスタートを切りましょう。

■「母子電子手帳」で子育てを楽しもう。

医師から妊娠が確認され、地域の自治体に届け出れば「母子健康手帳（母子手帳）」が交付されます。妊娠・出産の経緯、小学校入学までの乳幼児の発育や発達を記録する大事な手帳であることはご存じのとおりです。その母子手帳と共に、妊婦さんの検診結果や未就学児の成長を記録できる「電子手帳」を導入する自治体が増えています。

例えば、妊娠週数や赤ちゃんの月齢に合わせた情報とか、出産後の手続き、子育て支援、保育園などでのイベント情報などを通知してくれます。また、妊娠時の超音波の写真や成長していく子どもの写真等の登録も可能ですし、身長・体重など入力すれば成長の記録が一目で分かる仕組みになっているとか。子育て生活が便利で楽しくなりそうですね。

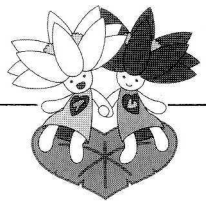
事務局日誌

2／7　こどものくに「たんぽぽ版」編集会議
2／8　「関西地区連絡協議会」ホテルグランヴィア京都
2／14　「仏カリ」「仏教保育」編集会議
　　事務局会議
2／23　「養成機関連絡協議会」（芝パークホテル）

編集後記

■「3・11」は『悪夢の日』。今年も亡くなられた方々の霊を悼む行事が各地で行われることでしょう。小子も、この11日には最寄りの駅前で催される「東日本大震災6周年追悼イベント」に参加する予定です。11日の午後2時46分に犠牲者のご冥福を祈って黙とうを捧げたあと、追悼演奏や追悼舞踊をはじめ復興応援メッセージを書く『黄色いハンカチ』のワークショップや竹明かりのキャンドルを灯して追悼します。このイベントは震災の記憶の風化を防ぎ、地域住民の防災意識を高めると共に、助け合う共助の力を活かすための取り組みでもあります。「天災は忘れた頃に・・・」があってはなりませんが、「備えあれば憂いなし」との格言もありますから■最近、「抱っこひも」の使用中に子どもが落下したり、障害物にぶつかってケガをするケースが相次いでいるという記事を目にしました。落下などの8割がベビーカーへの乗せ降ろしや抱き替え、抱っこして前かがみになった時などが多いそうです。「抱っこひも安全協会」には抱っこひもを安全に使うための資料などもあるそうですから、参考にされては如何でしょう■子ども・子育て支援新制度も3年目に入ります。子育てを通じて素晴らしい経験をした女性が職場に復帰すれば、優れた人材になると言われています。社会は惜しみなく職場復帰の後押しをする・・・、そんな期待をしたいものです。（O・I）

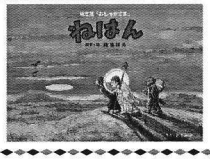
公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4－7－4
ホームページ　http://www.buppo.com/
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄　編集人 五島 満
毎月1回1日発行（1部315円）



仏教保育綱領

慈心不殺　生命尊重の保育を行なおう
仏道成就　正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進　よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしゃかさま 全4巻
○おたんじょう（12場面）○四つの門（13場面）○おさとり（16場面）○ねはん（12場面）
セット定価 本体￥20,000（8%税込￥21,600）※分売不可
脚本・絵／諸橋精光　画面38.2×26.5cm　豪華化粧箱入り
保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21　☎03-3945-6612（保育営業部）FAX03-3945-6616　http://www.suzuki-syuppan.co.jp/